堂本彰夫

エッセイ集

～我が想い　漂えるままに～

第二部

教育への思い

（総集版）

堂本　彰夫

2019 年 12 月

○刊行にあたって（ＰＡＲＴ１平成 29 年３月）

気がつけば、あれから１年が過ぎようとしている。いろんなことがあったものである。とにかく、この論考（エッセイ）は、この間に（正確には、最後のゼミ生達と一緒に立ち上げたホームページの運用を始めた、昨年の６月から）、折に触れて書き上げたものである。

ホームページ上では、三部構成（「東シナ海眺望記」「教育への思い」「古代史の旅」）になっているが、大部になるので、それぞれ別綴にしている。今回は、それぞれの第一弾ということになる。

ちなみに、この「教育への思い」は、これまで、私の大学での研究室通信、そして研究会機関誌でもあった「南風のふぇーぬ国から」の「巻頭言」及び不定期の「堂本彰夫コーナー」を、心機一転？、装いも新たに継続・発展させようとするものである（ただし、ここでの直接的な繋がりは、やはり「巻頭言」かな?!）。

長年続けてきた、外部の人達を巻き込んだ？、色とりどりのゼミ活動、そして各種の「研究会」活動（名称・活動内容・協力者等の顔ぶれ？は、それぞれ異なってはいるが）。様々な事件、ドラマ？が、そこにはあったが、まさしく懐かしい日々であった！その時々の人間あるいは青春模様を傍で見続け、そして語って来た（事実上は支えられてきた？）、私の、永遠の？心の友人Ｉ氏である！

ここでは、私堂本が、これからもそういうことがあるであろう、Ｉ氏のそれらに関わる、感慨というか、心情を、「教育への思い」と題して、改めて語らせてもらうわけである！ただし、ある意味私とＩ氏は一心同体である?!ということで、この二人？の語り、思いを温かく受け止めていただければ幸いである！

堂本　彰夫

○ＰＡＲＴ２刊行にあたって（平成 29 年７月）

昨年３月に、エッセイ集「我が想い　漂えるままに～ＰＡＲＴ１～」（三部構成）を刊行してから、早いもので７月を迎えた。本「第二部」の記事そのものは、今年１月からのものであり、一応、半年に１回、このエッセイ集を出していきたいという思いは、何とか実現できたことになる。それなりに頑張ってきたわけであるが、自分自身本当に良かったと思っている。

ところで、この「教育への思い」は、既にご承知の方もおられると思う

が、現在、私が行っている「委員活動」あるいは「依頼講義」、そして、若きゼミ卒業生を中心とした「イノベーション NEXT+ぷらす」との協働（「教育協働研究会」の実施・機関誌「岳陽」の発行等）、その他の学生・卒業生との交流（非常勤講師として行っている「授業」を含む）、さらには斯界で活動（活躍？）、実践されている人々との出会い（再会？）等に関わって、私なりの「教育論」として、そこでの思いを自由に語っているものである。

とにかく、ＰＡＲＴ１刊行後も、様々なことがあったわけであるが、他の二つのシリーズ（「東シナ海眺望記」「古代史の旅」）も同時並行して、鋭意執筆を重ねているところである！「古代史の旅」の方は、予想通り？悪戦苦闘の連続ではあるが、楽しみながら（ある意味「野心をもって」？）、珍文・難文を書きまくって次第でもある?!そちらの方（双方）もまた、もし手元にて読まれることがあれば、よろしくお願いする次第である！

なお、ＰＡＲＴ１にも書かせてもらっているが、この元々の記事は、下記のホームページに随時掲載しているものであり、そちらの方の閲覧（他にも、いろんなメニューあり！）も、可能ならば、是非お願いしたいものである！

堂本　彰夫

※上記のホームページの URL 及びメール･アドレスは、下記の通りです。
いつでも、気軽に、入り込んでいただければ、嬉しい限りです！そして、出来れば、いろんな声を届けていただければ、まさに幸甚です！！いずれにしても、待っています！

ホームページの URL⇒http：//www. gakuyou.jp
メール・アドレス ⇒gakuyou17@outlook.jp

目　　次

① 本務は、「教育」である！そう思い込ませながら、日々を送っている?!
② 人口知能（ＡＩ）と生身の人間、感情の交流はどのようになっていくのか?!
③ 「教育協働」はいかに実現するか?!改めて始動した那覇市のプロジェクト！
④ 新たな位相（試練？）が待つ、浦添市「てだこ市民大学」?!それは如何に?!
⑤ ふるさと・故郷・生まり島！これらに我々は、何を託しているのだろうか?!
⑥ 見えて来ない?!社会教育主事の未来?!学生たちは、それを如何に思うか?!
⑦ まだちょっと早いか?!「社会教育主事」最終考?!改めて、大切なのは何か?!
⑧ 人間の「ロボット化」?!ロボットの「人間化」?!両者はいかに結びつくか?!
⑨ 今、学校教育に求められるものは、「体験型学習」か「ドリル型学習」か?!
⑩ 「まちづくり生涯学習」、迎える新ステージ?!目指せ、「教育協働のまち」?!
⑪ 大岐路?!大学での「社会教育主事」の養成、ただ終えるだけでいいのか?!
⑫ 始まる『社会教育』への新連載！「青年教育」の場でもある、大学ゼミ活動!!
⑬ 新しいタイプの授業、ＶＯＤ視聴による大学での学び!でも、ちょっぴり?!
⑭ 児童館（児童センター）の意義と可能性、そして、それを生み出す配置の妙?!
⑮ 妙な？コースだったが、学生達には、かけがえのない時間と場所であった?!
⑯ 社会教育実習、予想以上の成果あり?!異例ではあったが、得るもの多し?!
⑰ 最後の?!「教育実習校」訪問！ある種の因果か?!双方共に、ゼミ指導学生!!
⑱ 必要な「ひとづくり」と「まちづくり」の循環！改めて、何が重要なのか?!
⑲ 一つの回帰?!我が想い漂えるままに！平成 15 年４月頃の私?!
⑳ 学生の理解・成長か?!「教育協働」の研究・協議か?!ゆらぐ私?!
㉑ 研究会の後半日程等、大方決まる！那覇市とのコラボも実現！
㉒ 教職は辛い?!だが、やりがいもある?!「納得」の持続が全て?!
㉓ 近未来の教育?!学校教育制度の「相転移」は、実は目前?!何故?!
㉔ 「生涯教育」は、近代学校教育制度の「相転移」を前提とする?!
㉕ 「コミュニティ（協働）性」、その内と外へのベクトルの超克を?!
㉖ 今、見え始めてはいるのだ?!改めて、教育行政に期待するもの?!
㉗ 本当の「地域づくり」とは?!「だいだらぼっち」が教えるもの?!
㉘ 今こそ?!、「生涯教育（研究）」のレゾンデートル（存在理由）が?!
㉙ 確実に見えてきた！「教育協働」の形?!後は、誰がどのように?!
㉚ 改めて、自らの「教育協働」の形は?!そして、それはどのように?!

31 論文指導という名の、自らの学習（確認）?!しかし、それも最後?!
32 「研究会」という名の、若者の「学びの共同体」「縁」づくり?!
33 「社会教育主事」の「ウリ」は、「職」or「行動（魅力）」?!
34 「社会教育主事」は、いかに輩出されるのか?!遠隔受講の近未来?!
35 ＣＳ＆地域学校協働活動の法制化進む?!必要なのは確かな人材?!
36 やはり貴重な社会教育主事講習（資格）?!学び、繋がる同志達?!
37 「中心と辺境」、そこに彷徨う「沖縄の思い」?!我もまた、然り?!
38 心配ではあったが、無事終了?!「岳陽舎」の新たな可能性の予感?!
39 所縁の人達よ！心ある人達よ！次なる年度・形へ、いざ進もう！
40 あるべき姿・あって欲しい形、いかなる思いで、それを見つめる?!
41 新たな出発は、『「大学で学ぶ」とは、どういうことか？』から?!
42『「大学で学ぶ」とはどういうことか？-パートⅡ－その貴重な時間と空間の中で-』
43 一体誰・何が、問題なのか?!分かってきた?!ある人・ことの功罪?!
44 「ＮＰＯ（法人）」と若者達の思い?!岐路となる就職への道?!
45 ホームページの「二頭仕立て」！その「協奏」に、何を期待する?!
46 ゼミ活動（学生時代）！思い出は、楽しいことだけ?!それで、よい?!
47 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!
48 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!-パートⅡ-
49 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!-パートⅢ-
50 現職教員へのメッセージ！ただし、今となっては、かなり色褪せている?!
51 小学校教員が、県立図書館で社教主事に！Ｍ県に、何が見える?!
52 「学校評議員」制度から、何か新たな動きが出て来ないか?!否、出て来る?!
53 「まちづくり生涯学習」、現時点（今後？）の課題（使命？）は何か?!
54 再考?!教育行政における「専門的教育職員」の意義とこれから?!
55 若者ぶっちゃけ未来トーク?!産みの苦しみあれど、光明もまた?!
56 「若者達（イノベーションNEXT⁺）」はどう動くか?!微妙な際？の戯言?!
57 「教育評価」VS.「学習評価」!とにかく目指すものは、一体何か?!
58 学生の奔放さ？に苦笑？しながらも、見守るしかない?!今の私?!
59 「マイノリティ」と「マジョリティ」、その背後に見えるものは?!
60 「統一性」と「多様性」の鬩ぎ合い?!教育にとっては、それは宿命?!

① 本務は、「教育」である！そう思い込ませながら、日々を送っている?!

まだまだ、彼（井上）の本務は、「教育」である！否、そう思い込ませながら、日々を送っている?!それは、常勤を辞した今も、学生達への授業や指導を行っているからではない！「教育協働」というキーワードに到達し、その方法論としての「地域教育経営」の位置づけや実践の形を、一人でも多くの人に伝えたい、可能ならば一緒にそれを構築していきたいという、ある種本源的な思いが、心の奥底に蠢いているのである！

そのことを目指し、悪戦苦闘をしながら、まがりなりにも、ここまでやってきた彼でもある。別な意味では、意地でもそれをやり遂げなければ、彼のこれまでが、一体何だったのかということにもなる。社会的立場としては、予想以上に不利な状況を迎えてしまっているようであるが、だからこそという思い、そしてまた、九州出身者（佐賀県唐津市）ならではの反骨精神（ほとんど報われない?!）が、頭を擡げてきているのかもしれない?!

ただ、彼なりに満足している部分もある。それは、昨年末に出された、中央教育審議会の答申（の内容）である。それは、社会教育の存在意義を、学校教育との関わりの中で(もちろん､家庭教育との関わりも含めてということにもなる！)、いかに（再？）構築していくかという、これまでの彼の研究・教育・実践の基本的なスタンスに関わることであるが、コミュニティ・スクール（学校運営協議会方式）や学校支援地域本部事業（→地域学校協働本部事業）等の今後のあり方として、その一体的運用の必要性（必然性？）が示され、学校教育と社会教育の連携・融合が、まさに「地域学校協働活動」に昇格？し、その目指すところが、「教育（ひとづくり）と地域創生（まちづくり）の循環」ということになったのである。

まさにこのことは、長年に亘って彼が唱えてきた、「地域教育経営」の求めるものでもあったのである。あまりにも似ていて？驚愕さえ覚えるが、「やっと来た！やっと報われた！」という思いが、彼の内なる思いの中で広がっているのである。ただし、やはり、ある意味複雑ではある‼

ところで、それまで、いくら生涯教育（学習）の理念や実践の方向性を声高く唱えてみても（結果的には振りかざしただけ？）、社会教育の存在意義は、教育全体での位置づけやしくみづくりにおいては、とりわけ大学の教育学部等においては、ほとんど意味を為さなかった?!あるいは、ある時期（「生涯教育課程」等が設置され、その意義や可能性が論議された時期）以降、予算削減の動向にも引きずられて、それが必要としていたしくみづくりの研究や要員の育成等は、結局は、いつのまにか雲散霧消していった！

尤も、その内部関係者のほとんども、真の「生涯教育課程」の意義や可能性を誤解し（無理解？）、あるいは追求もせず、定員確保（最低限の削減に留める）や予算獲得の羈縻政策に、負けてしまったとも言えるであろう?!

こうした、彼にとっては、「期待から焦燥、そして焦燥から失望へ」という時の流れは、彼の個人的な変化も重なり（ある病気の宣告が一番大きいが）、大学（特に学部レベル？）や行政関係者との軋轢や人間関係の乱れも生んできた。個別・具体的なことは、もちろんここでは触れることはできないが、やっていることと、やらなければいけないと思っていることとの乖離が、必要以上に大きかったとも言えるであろう。多くの人は、そういうことにおいては、それなりの対応ができるのかもしれないが、不器用な？彼においては、とにかく難しかったのである。

ただし、そのこと自体は、今はまったく後悔はしていないし、誰かを恨んだり、悪口をいったりする気も、毛頭ないようである！とにかく、やれるだけのことはやったのだから‼ただし、そうは言いながらも、どこかで、自らの社会的立ち位置の変化、そして年齢からの？衰微は、厳然とあるようにも見えるのである！それが、一般的には、いわゆる「定年（諦念？）」というもののなせる業なのかもしれない?!

いずれにしても、このような推移の中で登場してきた今回の答申は、少なくとも生涯教育（学習）の理念や、そこにおける学校教育と社会教育の、さらなる連携・協力の必要性（「連携・融合」から「地域学校協働活動」へ）を、具体的かつ可視的に示したことに、大きな意義、そしてまたこれからの可能性を指し示していることは断言できる。

とりわけ、厳しい状況の中で、毅然とした態度と覚悟を有してきた人々にとっては、ある種のチャンスなのでもある！ちなみに、それは、何も行政や学校の教師とは限らない！地域に住む心ある住民・ボランティアであったり、ＮＰＯ等のみなさんであったりするのである。

その一生に一度の「定年（諦念？）」を、他の人とは違って、２年の前倒しという形で行った彼であるが、その決断と実行は、人に言わせれば、惜しいとか、間違っているとか、いろいろと言われるものであろう（多分言われている?!）。しかし、それはそれで、仕方がない！同じこれからの時間（命？）をどのように生きるのか、そこが大事なのだから！

そして、実は、彼には、もう一つやりたい（やらなければいけない？）ことがあるのである。これについては、また別に語るときもあると思うので、その具体的なものは、ここでは明かさないが（現時点では、かなり恥ずかしくて、憚れるということもある?!）、それへの、ある意味恋慕？が、彼が喪失していくものの代償となるのかもしれない?!

だが、それは、単なる代償（自慰行為？）であって欲しくはないものである！そこには、彼の教育への思いと同根のものが、厳然と存在するからである！

（６月３日）

② 人口知能（ＡＩ）と生身の人間、感情の交流はどのようになっていくのか?!

突然ではあるが、最近、立て続けに、人口知能（ＡＩ→ロボット）の実用場面を、まじまじと見る機会があった。それらは、テレビ番組ではあるが、その開発の最前線を、確実に見させてくれるものでもあった！熟年世代だからと、多少斜に構えるところもあったが、とにかく、その技術力の進展は、想像をはるかに超えるものであった！

本当に、人間の頭脳、否、テクノロジーは、「スゴイ」の一言である！いわゆる３Ｋ（危険・汚い・きつい）の場面での、その利活用については、一定の合意というか、人口知能（ロボット）には申し訳ないが、肩代わりをしてもらえるということは、多分人間が、致命的なレベルにおいて退化しなければ、あるいはその人間社会自体が、本質的な意味合いで瓦解していかなければ、そのほとんどは、人間にとって有用であるし、それこそ最大の福音となることは明らかであろう！

ところで、先日、そうした思いもあって、何かちょっとした、専門（教育学）とは違う形で、学生達に投げかけられるものはないかと、この話題を取り上げてみた。もちろん、私自身が、その世界の素人ではあるので、軽いタッチでの話となった。そして、これも、結果的にではあるが、軽いタッチで、人間と人口知能（ロボット）の、基本的な違いは何かと、最後には尋ねてもみた。案の定、感情の有無を指摘する若者が、かなりいた！もちろん、何も答えなかった（答えられなかった？）学生もいた！

多分、自分（人間）とはどういうものかということを、自らの言葉を介して、まだ言えないのであろう?!否、そもそも、そういう命題の意味自体が、分からないのかもしれない?!いずれにしても、以前までの私がそうであったように、やはり感情の有無が一番多かったように思う。

しかし、現在の人口知能（ロボット）は、その感情でさえも、有しているどころか、自分の意思（判断）で、自在に表現している?!しかも、それを、あたかも人間がそうであるように、自身の絶えざる「学習」を通して、そのように振る舞っているのである！例えば、介護ロボット？が、自らの意思で、クライエントとの個人的会話、集団との交流（体を動かし、みんなと歌う等）を行っていた。そこで記憶に残ったのが、認知症の女性とのやりとり？であった。

その彼女が、いわゆる同じことを何度言っても、怒らず（イライラせず！）、冷静に、しかも「感情」をもって、それに対応していた！これなら、いわゆる介護疲労・ストレスによる悲劇等は起こらない、介護疲労・ストレスに苦しむ人達にとっては、まさに朗報かもしれない、そういうことであった。

また、もう一つ、考えさせられたことがある。それは、韓国の、確か囲碁の世界チャンピオン？が、絶対負けないと豪語していたにも拘らず、対局で、人口知能（ロボット）に負けたということである。それはそれで面白かったが（失

礼？)、一方で「来るべき時が来た！」という思いでもあった。人間が、ロボットに負けた！確かに、そのこと自体は、世界的なニュースであるが、私が秘かに注目したのは、その負けたチャンピオンの、終了後のインタビューであった。戦績は 1 勝４敗？で、対局自体は、彼の完敗！自信・プライドは、雪崩のように崩れ去った?!インタビューに応じないことだって、あり得る?!悔しさや、言い訳の一つや二つも、あったかもしれない?!

しかし、彼が口にしたのは、そういう陳腐なこと？ではなかった。その対局が、彼の囲碁の境地を高めたと言わんばかりの、私にしてみれば、羨ましい限り？の返答であった！

私なりの解釈を行うと、そのロボットが、途中から、多分、生身の人間の対局者に思えてきたこと、そして、負けたことに対して、悔しさより、充実感あるいは満足感？みたいなものが出てきた?!つまり、彼は、第３局目だったと思うが、一つだけ勝った。しかし、その後も負け、結局は、勝ちはそれだけであった。

だが、それだけに、負けたにも拘らず、何か彼（ロボット）の存在を認めた。否、彼（ロボット）との対局が、自分の囲碁観を変えたというようなことであったかと思う?!一体、そこに何があったのか?!その対局中に、彼と彼（ロボット）との間には、何らかの感情の交流が生まれていた（正確には、彼がそういう錯覚、否、正当な？感覚を感じていた！）のではないだろうか?!

最後に、私は、人口知能（ロボット）の究極の能力は、人間と同じように？「善悪」についての判断能力であると思っている。果たしてそれを、彼ら（ロボット）は、いかにもてるのか?!人間は、それを人口知能（ロボット）にプログラム化し、その時々の状況による判断ができるようにしている?!しかし、生身の人間あるいは社会（これが曲者？である！）に対する「最適解」となると、その判断は難しい?!ただ今は、たとえそれでなくとも、人口知能（ロボット）とはそういうものだと受け止め、彼ら（ロボット）と交われば、新たな社会の一員ともなる?!

そこで、一つだけ知りたい！人口知能（ロボット）同士の対話・交流は可能か?!それが、まさに生身の人間を介さずに、できるのかどうか?!できるとしたら、その時の、自他の状況認識はどうなっているのか?!真似ることが学習の出発点であるが、人間の場合、それを行うのは、出会う生身の人間（親であれ、他人！）からである！しかも、その出会いは、確実に何らかの判断と、言語・身体による反応を生む！しかし、ただそれだけでは、正しい（好ましい？）状況・価値判断には至らない?!人工知能（ロボット）社会は、その部分をどのように克服していくのであろうか?!

（６月５日）

③「教育協働」はいかに実現するか?!改めて始動した那覇市のプロジェクト！

先日、今年度の、標記のプロジェクトがスタートした！このプロジェクトは、文部科学省の委託事業の一つで、正式には、「平成 28 年度　中高生を中心とした生活習慣マネジメント・サポート事業」というものである。昨年度から始まったものであるが、那覇市教育委員会（生涯学習課）が事業委託を受け、若狭公民館（ＮＰＯ法人地域サポート若狭）と沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク（＜有＞オーシャン 21）に、一部業務委託（再委託）されて実施されるものである。事業の趣旨は、「子どもの睡眠不足等の生活リズムの乱れが心身等の健康に悪影響を与え、不登校や中途退学につながっている。

特に全国学力・学習状況調査から約７割の中学生が夜 11 時以降に就寝している現状がある。これら生活習慣は、地域社会の影響を大きく受けるため、学校だけでは解決は困難と思われることから、学校と地域（ＰＴＡや青少年育成団体）が連携し、その機運を高めていくことが重要である。さらに本市は、小中一貫教育を導入していることから、小学６年生も対象に加えより効果的な事業を行う。」となっている。国からの委託事業であるので、かなり紋切り型的な表記が気になるところであるが、とにかく予算の裏付けがあり、やれることに意味があるので、前向きに受け止めることにしよう！

ところで、本プロジェクトは、一部業務委託を受けている二つの組織・団体（の名称）からも分かるように、その二つの組織・団体からの、言わば下から（民間から）の事業提案という形で始められたものである。若狭公民館は、那覇市の公民館運営における、指定管理導入（一部業務委託の形）の２番目の館であるが（１番目は繁多川公民館）、地域との関係づくり、学校との関係づくりは、そのＮＰＯ法人が設立される前から、盛んであった、否、実績を積んできた公民館である。

一方の沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク（＜有＞オーシャン 21）の方は（会社自体は、あまり知らないが）、以前から、キャリア教育に関して、学校等への普及・啓発事業等を行い、そのコーディネーター養成については、全国的にも充実しているとの評価がある事業所である。

さて、要は、ここからが重要であるが、それぞれの組織・団体の代表（実働部隊のリーダー？）が、その思いと将来ヴィジョンを共有している、言わば同志的関係で、この事業・活動を支えているということである！私（ここでは多分井上?!以下、同じ。）も、いつのまにか？その同志的関係の一員？として、この事業に参画しているわけであるが、私の思いは、もちろん、地元のこうしたみなさんの思いやご苦労に、専門家？として応えていくことが、第一義的な役割・任務と考えているが、やはり長年訴え続けてきた「地域教育経営」（「学社連携」・「学社融合」から「教育協働」へ）の必要性と、そのしくみづくりに対する期待（エール）の方が大きいと言えるであろう?!

そこで、その具体的なしくみづくりについてであるが、その中核となるのが、「那覇中校区教育協働推進協議会」である。昨年度は、これまでの経緯から、二つの小学校（区）が加わっていない、「若狭地域（若狭小学校区）」だけの協議会組織となっていたが、中学校（校長）からの要望もあり、本来の、中学校区全体をエリアにした協議会組織に拡大・発展したものである。

理由はともあれ、結果的に、こうした事業・活動の協議体が生まれ、相互の連携・協力の質やネットワークの幅が拡大することは、当該地域（コミュニティ）と各学校にとっては、より望ましいものとなるであろう！まさに、「教育協働」の質と幅が、向上・拡大するのである。

なお、ここで掲げられている「教育協働」という言葉は、私自身が、ある意味個人的に使用してきた（普及させてきた？）用語であるが、ご承知の方も多いと思うが、昨年 12 月に出された、国の中央教育審議会の三つの答申、とりわけ「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の方策について」で唱導され始めた「地域学校協働（活動）」と、基本的には同じものである！

用語そのものは、時代状況、あるいはその前後関係によって、かなり恣意的に？操作されるものであるので、あまりそれ自体は、こだわる必要はないであろう！問題は、その中身（内実）であることは、言うまでもないからである。

とにかく、件の提言は、大きくは「新しい時代の教育や地方創生を実現するために求められる今後のコミュニティ・スクールの在り方や、それを踏まえた総合的な推進方策等」と「学校と地域がパートナーとなり、連携・協働体制を築くための地域人材の養成と環境整備」についてであったが、まさにそこで提案されている内容は、私（達？）がこれまで主張してきた「ひとづくりとまちづくりの循環」を実現させようとするものである。「ついに、来たか！やっと来たか！」であるが、そのことと今回の事業（プロジェクト）は、完全に連動する！否、そうしなければ、もったいない?!コミュニティ・スクールや地域学校協働本部（←学校支援地域本部）は、先の話でもよい！

必要なのは、こうした個々の、必要性が実感される、また共有される取り組みの積み重ねである‼具体的には、本事業自体の目的は、対象となる小中校生の生活習慣の改善であるが（国策としての「早寝早起き朝ごはん運動」と連動している！）、ここで組み込まれている、地域やＰＴＡあるいは大学生等の協力で行う「土曜朝塾」「通学合宿」「子育て勉強会」等、そして予算の都合上なくなっている「教員の研修会」も、何らかの形で実現できたら（例えば、我々の「教育協働研究会」との合同実施）、上記のような成果を、結果的に生み出すということである?!

（６月 14 日）

④ 新たな位相（試練？）が待つ、浦添市「てだこ市民大学」?!それは如何に?!

みなさんは、浦添市の「てだこ市民大学」のことをご存じだろうか?!はたまた、「市民大学」というもの、そのものについて、どのように理解されているであろうか?!もう既に２年前に、その「てだこ市民大学」の運営自体からは身を引いている私（ここでは井上！以下、同じ）ではあるので（本当にそのつもりでいた！）、それらについて論じるのは、まったくの想定外、と言うか、身を引いていながら、そのあり方などを論じるなんて、先方に対していささか失礼とも言える?!ただし、本音を言うと、単に気恥ずかしいだけかもしれない?!

ということで、ある理由から？この度再び、その運営に協力することとなった。しかし、現在、その運営方針や入学・卒業事案等の承認手続きの機関でもあった「運営委員会」が、実際上消滅しているようなので、具体的な運営の場に参画するわけではない?!端的に言えば、当該市民大学の今後について、ひいては、これからの浦添市の生涯学習推進のあり方等について、同大学の「学長」でもある市長に対して、改めて、答申または建議を行う「まちづくり生涯学習推進協議会」の委員の一人として、協力することになったということである！

なお、「運営委員会」自体がなくなっているのであれば、この「まちづくり生涯学習推進協議会」に、その「運営委員会」の役割（機能）が、結果として付随してくるのかもしれない?!もしそうであれば、ある意味、とんでもないことになる?!何故なら、両者の役割・任務は違うし、少なくともこれまでは、そのような両者の役割分担が、ある意味当然のこととして、実行されてきたからである！このことについては、最初の会議が、近々開かれることになっているので、そこで真相ははっきりするであろう?!

ちなみに、「てだこ」とは、沖縄の方言で、「太陽の子（てぃーだのこ→てだこ）」を意味するものであるが、その昔、琉球王朝時代の浦添城主であった「英祖王」がそう呼ばれていたために、ご当地浦添市がそれにちなんで、市のシンボル、いわゆるＣＩ（community identity→「地域シンボル」とでも訳せようか?!）として採用しているものである!?多分、そうだったと記憶しているが、間違っていたら、ごめんなさい?!

それはともかく、平成 20 年度に開設（→翌年開講）？された同大学は、と言っても、もちろん「学校教育法」上に規定されている、正規の学校（「大学」）ではないが、浦添市の生涯学習推進の、言わば「目玉事業」として、市民の学習活動の成果を、いわゆる「まちづくり」に活かしてもらおうということで発足したものである。

開設要綱には、その趣旨として、「市民の多様化・高度化する学習ニーズにこたえ、学習の機会を提供することにより豊かな市民生活に資するとともに、学習の成果を地域社会、学校教育等に還元することで、本市のまちづくりに寄与できる有為な人材の育成及び市民本位のまちづくり生涯学習を実現するため、

『てだこ市民大学』（以下『市民大学』という。）を開設する。」とある。まさに、このように、地域における「キーパーソン」づくりを目指すものであったのである！

時、折しも、地域の問題あるいは学校の問題等、それぞれ単独では解決できない問題・課題が山積するとともに、単なる趣味・教養や個人の実利のためだけの学習機会の提供に、もちろん財政的な理由からではあるが、（税金を使う）行政としての役割、責務が問い直され、このような、言わば「社会的要請」に直接応えるような学習機会の提供、人材育成の方向が指向されたわけである！

ところで、私は、この取り組みに、まさに開設準備の段階から協力・参画させてもらったわけであるが、そこで、個人的に期待していたことは（ある意味「野望」と言ってもいい？）、いわゆる「社会教育」の専門家として（そう「自称」したことは、決してないが！）、当時、再び（ある意味最後の？）陰りが見え始めていた社会教育行政の存在意義に（「生涯学習の推進」「生涯学習によるまちづくりの推進」等と、一応の「アドバルーン」？を掲げ続けてはいたが、それだけでは、なかなか内実は進展しなかった?!）、どうにかして繋げていきたい、否、そこから新たな存在価値・可能性を創出していかなければならないという思いの実現であった！

それこそ、自らの「ひとづくりとまちづくりの循環構造づくり」理論（驚くなかれ、昨年 12 月の中央教育審議会答申において提唱されていることと、まったく軌を一にするものである！）を具現化したいという思いで、「大学」の基本理念、学部構成及びそこでのカリキュラム等、当時考えられ得たすべてのものを、多少の妥協や見切り発進も交えながら、そこに投入したものである！

結果として、その取り組みは、県内外からも注目される、ユニークかつ有益な、まさに「生涯学習によるまちづくり」の成果を、市全域にもたらす事業となった（だからこそ、一応の区切りとして、私は、運営の事実上の責任者の立場を辞したのでもある）！だが、一方で、秘かに期待していた、幾つかの要素（学校教育行政との協働、市職員や学校の教師の現職研修としての組入れ、あるいは卒業者の内部就職、関連部署における「外部委員としての積極的登用」等）は、若干の実績は見せつつも、本格的なそれへとは至らなかった！ただし、それはそれで難しい問題ではあるので、ある意味仕方がなかったとは言えるであろう！

しかし、今回のそれは、そうしたことよりも、さらに大きな、と言うよりは、複雑多岐な課題が、前面に浮かび上がってきている?!先の「答申」をどのように具現化していくかということも含めて、同市が、改めて「生涯学習の推進」を、市全体の課題として、どのように取り進めていくかという、さらなる「位相（試練？）」が待ち受けているということである‼

（６月 20 日）

⑤ ふるさと・故郷・生まり島！これらに我々は、何を託しているのだろうか?!

久し振りに、郷里の佐賀県唐津市（鏡地区）を訪ねた。実家の（甥の）結婚式に参列するためである。とにかく、これで何度目の帰郷であろうか？在地の高校（唐津東高校）を卒業して、確か 46 年?! 気が付けば、相当な年月が経っているものである！ただし、この間、少なくとも年 1 回は、そこを訪ねているので、当地への感慨というか、自然・街並み等、そして「我が家」の変化（激変？）には、あまり心を動かすことはなくなっている?!

多分、皆がそうであると思うが、その途中の、例えば多感な学生時代、あるいは就職（失業または退職もか？）、結婚（または離婚、ひょっとしたら、失恋もか？）等、それこそ人生の節目節目を迎える時期のそれであったりすれば、その感慨は大きく、そして深いものであろう?!私も、そうであったように思う。だが、やはり「父母」との、それぞれの、永遠の別れの時は、そうした感慨とは別な意味で、実家や故郷への想いが募ったことはあったように思う?!もちろん、定年退職後の帰郷等も、それに加えることもできるであろう?!

ところで、そうした「ふるさと」への想いを綴ったもので、我々がよく知っている詩句（うた）がある！金沢市出身の詩人・小説家、室生犀星の「ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの…（後略）」というものである！何と哀しく、そして切ない詩句（うた）であろうか?!しかし、である！告白すると、何とそのことが、よく理解できるように思えるのである！しかも、年を取るにつれて、その底に流れている心情が、自分のことのように思えてくるのである！

とは言え、よくよく考えてみると、それはもう、犀星の世界、あるいは彼の心情を超えて（離脱して？）、私の個人的な世界、想いに、既に転化してしまっているのである！犀星には申し訳ないが、私は、決して彼の信奉者（ファン）でもなく、ましてや研究者でもない！ただ単に、この詩句（うた）の部分が好き、と言うか、勝手に自分の人生に重ねてみているに過ぎないのである！ちなみに、彼がその詩句（うた）を創った歳（とき）は、多分？それなりに若かった頃ではないだろうか?! 何故なら、そこには、それなりに若い頃特有の？多少気取った感傷心が見え隠れするからである（もちろん、調べてはいないが！）?!ただし、ここで言う「それなりに若い頃」というのが、味噌であることは言うまでもない！

ところで、近年、全国各地で、「ふるさと教育」とか銘打って、自分達の住んでいる市や町や村、すなわち郷土（沖縄では「生まり島」）のことを調べ、発表したりする学習プログラム、多分多くが、何かと話題に上る？「総合的な学習の時間」を介して行われていると思うが、それが盛行しているように思われる！郷土の歴史、出身の偉人、名所旧跡、地場産業等、それらに関わる人、あるいはそれらをよく知っている人等を、いわゆる「ゲスト・ティーチャー」として

授業に招いたり、直接その現場に出かけていって、本物を見たり、話を聞いたりしながら、「わがまち」のことを学習するのである。

もちろん、これはこれで必要なことだし、やりようによっては、マスコミ等が取り上げ、世間の注目するところとなったり、挙句の果てには、「まちの理解者」、「後継者」の育成にもつながることになったりする。その意味で、大いに推奨されるべきであろうとは思っている！

ただし、どうして、このようなことを、他ならぬ「学校」がやらなければならないのか?!しかも、それは、ある時期までは（高度経済成長期?!）、むしろ自分達の住んでいる所、すなわち「田舎」（当時は、全国ほとんどの所が、不便で、貧しく、そして楽しむところがない、否、そう思っていた？いわゆる「田舎」であった?!）を忌避し、「豊かで、便利な」、そして、あの「煩わしさのない」都会での生活を、思う存分享受した挙句の果てに、「心の豊かさ」とか、美しい自然や街並み等を残している（単に、「残っただけ？」）「ふるさと」を見直そうとか、そちらの方に、出かけていこうとか（移住、Ｕ・Ｊ・Ｉターン？等）、というような情緒論・精神論（「自然・ふるさと回帰主義」？）の中で、無理矢理推奨されたりもしているような感もする?!

とは言え、それは、ある意味仕方がなかったのであり、過疎あるいは限界集落等の、まさに人間生活の限界のところでの叫び・覚醒、そして再生への足掛かりにしようとすることは、決して綺麗事だけの話ではない?!事実、そういうことで、「むらおこし」や「まちの活性化」に、人生を投じようとしている人もいる！また、それらの人々が、実際に就業や人の移住・交流の機会、さらには子育ての環境までをも創り上げ、その「まち・むら」を元気にしているところもある！

そこで、である！ここでは、簡略的にしか言えないが、そういったレベルでの「ふるさと」意識、「ふるさと再生」の状況を、それこそ人生をかけて受止め、貢献している人達の思いや現実を、他ならぬ、あの「学校」がどこまで受け止め、その「ふるさと教育」を行っていけるのか?!誤解されては困るが、出来ないというよりは、そもそも学校だけのチャンネルでは限界がある?!すなわち、それこそ地域ぐるみ、あるいは「そこで生きている」人達の生き様や価値観にまで届いていくような取り組みでないと、上辺だけ、「良いとこ取り」だけの、つまり「楽しい（だけの？）学習」になるのではないか?!

ならば、そうした地域やそこで「生きている」人達と協働している（はずの？）社会教育（行政）と一緒に、それに当たるのが有効なのではないか?!その意味での、「学社融合」であり、「教育協働」でもある‼「学力」とか「生きて働く知識（知恵）」というようなものは、その「生きる」ということの中にあり、さらにまた、その学ぶ喜びも、そこにしか？生まれてこないのではないか?!

（６月 27 日）

⑥ 見えて来ない?!社会教育主事の未来?!学生たちは、それを如何に思うか?!

昨日（6/24)、第２回目の教育協働研究会を行った。テーマは、「地域で発見！縁の下の力持ち～教育協働の可能性を広げる社会教育主事の役割と必要性～」であった。とにもかくにも、本研究会の今年度（以降の？）の課題は、いかにして、学生側と大人側（職務・活動を実際に行っている人々）との、まさに実りある「コラボ」を実現するかである！ただし、そこでは、テーマ・研究（協議）内容の連続性・発展性への目配り、そして、何よりも、参加者の顔ぶれの、いい意味での凝集性（中心となる人々の恒常的参加→会員としての参画?!）が、最大限の命綱となることは明らかである！

幸い？学生の側の参加は、授業としての位置づけ、それを核としたサークル化によって、表面上はクリアされているが、やはり大人側のそれは、なかなか難しいということが、改めて再確認された２回目でもあった?!

どういうことかと言うと、学生達の意向も加味して（どちらかと言えば、こちら側の都合が優先？)、総合的に判断して、月例会的な、通常の研究会を平日に行うというのは、場所はともかく（今のところ大学の教室で行うのがベスト?!)、開催曜日・時間帯等の問題があり、趣旨・テーマも、もちろん絡んではくるが、こうした形の「コラボ」にあっては、実際上は、まさしく永遠の課題??であるということである！

ところで、今回のテーマ・研究（協議）内容についてであるが、予想通り、社会教育行政（あくまでも「行政」である！）の低迷（不振？)、とりわけ「社会教育主事」の存在の頼りなさ？を、感じさせるものであった！ことに、非常にショックであったのは、県全体の配置（発令）率が、兼務を入れて、39%となっているということであった！なかには、資格のない発令も、相変わらずのようであった（事態は、さらに悪化している！）！

だが､そのことは､これまで再三再四､その時々の学生達には告げて(教えて？)きたし、それらを打破するために、私（この場合は井上か？）は、「地域教育経営理論」の構築、それに基づく「教育協働」、そこから生まれる「ひとづくりとまちづくりの循環構造づくり」の必要性を提唱してきたのでもある！だからこそ、初回のテーマ・協議（研究）内容を、それらを新たな形で推奨しようとしている中央教育審議会の答申、とりわけ「地域学校協働活動」(従来の「学社連携・融合」から「教育協働」へと考えてよい！）とし、その中での社会教育（行政)、その中心的役割を担う（だが、今のところ「担って欲しい」としか言えない？）社会教育主事の活躍が望まれるとしたのである！数は少なくても、よい‼心ある（やる気のある！）人間（開拓者・後継者！）の登場が、待望されるのである！

ただし、こういうことを聞いた（知った）学生達は、一体どういう反応、思いを持つのであろうか？まだ、授業用の「学習メモ」を見てはいないので、何とも言えないが、自分達が取得を目指すこの資格の「専門性」あるいは、その「処

遇」に、どのような思いを抱いたであろうか?!そこに働く生身の人間（個々人）の努力や苦悩、さらには彼らが見出しているやりがいや喜び、もちろんそれらは事実であり、それこそ貴重な光景とはなるが、かなりの複雑さ（頼りなさ？さらには、ひょっとしたら「失望？」）を感じたかもしれない?!

しかし、最初（今のところと言っておこう?!）は、実は、それはそれでよいし、別な意味では、そこからの出発（飛翔？）の方が、期待が持てるとも言えるのかもしれない！どこから見ても、やりがいがあるとか、楽しそうだとかは、必要以上には思われてはいけないのである！下手な幻想は、この世界では、やはり厳禁なのである?!要は、新たな（別な？）自覚と使命を有する実践者・後継者（若者達？）が、そのような現実の中から、まさに本当に厳しい現実の中から、育っていってもらえればよいのである！もちろん、願わくば、この新生「イノベーション next」のサークルから育っていってもらえれば、これほど嬉しいことはないであろう?!果たして、どうなるのであろうか?!

なお、この企画を進めるにあたって、本当に想定外の？理解とご協力を頂いた（ようである？）、那覇市教育委員会生涯学習振興課のＫ・Ｅさんが、これまた本当に残念ながら、当日の体調不良により、参画が叶わなかった。残念というよりは、悔しいと言った方が、ここではよいであろう！那覇市とは（も？）、これも長年来のお付き合いがあって、「学校開放」や「生涯学習のまちづくり」等で、それなりの期間？協力、そしてお願い（「社会教育実習」の受け入れ等）もさせてもらったが、任期満了？につき（本当は、別の理由があったのかもしれないが？）、最近では、一部国補事業の関係を除いて、ほとんどお付き合いがなかったからである！

結局、もう一人のゲスト（協力者）である、県教育庁生涯学習推進センターのＭ・Ｔさんとだけのやり取りで終わってしまった感である?!彼の経歴（小学校教諭・教頭等）とか、この業務にかける思いとか、学生達にとっては、普段は、ここまでは情報として知らない（伝わってこない？）、ある意味生々しい話も聞けて、まずは、自分達が資格取得しようとしている「社会教育主事」の仕事、それに今従事している現場の人達の生の声を聞いてみたいという思い（希望）は、事前のインタビュー等も含めて、一応の首尾は収められたものと思われる?!取り敢えず、よかった[2]！

末尾になりますが、Ｍ・Ｔさん、Ｋ・Ｅさん、そして、インタビューだけでしたが、県生涯学習振興課のＴ・Ｙさん、お忙しい中ご協力を頂きまして、誠にありがとうございました！私の方からも（この場合も井上？）、この場を借りて、お礼申し上げます！そしてまた、新たな形での理解と参画を切にお願い致します！一方、学生達、とりわけ発表に携わった若者達?!反省も少しは？あるかとは思いますが、よく頑張りました！ご苦労様‼

（６月 27 日）

⑦ まだちょっと早いか?!「社会教育主事」最終考?!改めて、大切なのは何か?!

いずれは書かなければいけないと思っていた、標記のテーマであるが、ある事のきっかけで？ひょっとしたら想定以上に早まるのかもしれない、この仕事における自らへの決別（の前奏?!）として、今少しだけ語っておきたいことがある！それは、何か？とにかく、彼（実際上は井上！）は、26 年前、琉球大学教育学部に（「教育学専修」という組織の一員として）、東京の国立社会教育研修所（現「国立教育政策研究所社会教育実践研究センター」）から、家族５人全員で、ここ沖縄の地に赴任してきた。４月生まれなので、着任してからすぐに、37 歳を迎えた（一応？とても若かったということを言いたいのである！）。

もちろん、社会教育主事資格取得のための専任教員（「助教授」採用で、当時は「教官」と呼ばれていた！）としてである。当然、家計的にも救われたし、何より家族５人が、沖縄という全くの未知？の世界ではあったにせよ、安定して暮らすことができたのが、何よりの喜びであったし、新たな仕事の糧（ある種の恩返しの意も含めて！）にもなった。そのことは、断言できるであろう！

しかも、当時は、いわゆる「生涯学習ブーム」の絶頂期？でもあり、学外においても、県外を含めて、ある意味「引っ張り凧」の状態であった。思い起こせば、いろんなところに、「講師」として行かせてもらったし、各種委員活動も、それこそ枚挙に暇がないほどであった（決して誇張ではない！）。今は、懐かしさを超えて、あの頃は一体何だったのだろうかという、ある種の「幻想風景」のようにも思える?!

とは言え、大学においては、何せたった一人の専任であったため、その時必要とされた社会教育主事資格の総単位数（今も変わらないが、24 単位）の半数、８科目 16 単位（集中講義形式の「社会教育実習」２単位を含めて）を、毎年引き受けてやってきた！今思うと、とんでもなく無茶な話であるが、現実はそうやらざるを得なかったのである！ただし、もちろんそれだけの負担で済むわけもなく、いわゆる「教職必修科目」の分担（最初は「特別活動」、その後はずーと「教育原理」を担当してきた！）、そして、次の年からは、大学院の担当までもということで、それぞれの授業をこなすだけでも、本当に大変であった！

しかし、その時は、一応？若かったし、かなり諦めかけていた大学への就職でもあったので、それこそ無我夢中、あるいは猪突猛進的？に、いろんなことに挑戦もし、仲間づくりにも奮闘してきたのである！その延長線上に、今の「教育協働研究会」もあるわけである！その時々の反省や後悔は、常にあり続けてはきたが、「今に見ておれ！いつか分かってもらえる！否、分かってもらわなければ！」、その思いだけは、常に心の奥底にはあった！ただそれだけが、自分の支えでもあったのである！

ほとんどの人には、分かってもらえないだろうが、だからこそ、頑固なまでの、今回の退職劇でもあったのである?!単純に言えば、単なる「意地っ張り」

なのではあろうが、しかし、自負心や自己の尊厳？までは、捨てたくなかったのである！悔しくはあったが、最早ここまでと、腹を括った次第なのである！

さて、少々長く、過去の因縁（怨念？）を出してしまったが、要は、社会教育の大切さと、社会教育主事の、専門職としての養成の話は、実際には別次元の話であり、私が行ってきた（沖縄で志向してきた）専門職養成は、多分いつまで経っても成就しないということである！もっと単純に言えば、学校教育には「教員」というものがセットで必要とされるが、社会教育には、必ずしも「社会教育主事」が、セットで必要とされるということはないということである！別言すれば、社会教育主事という、単独の役職（専門職）は不要であり、言うなれば、それは、どこかの、誰かが、「事実上」その役割を果たせばよい、あるいはその役割は、どこかの組織や団体、つまり個人単独ではない形で、発揮されればよいということである！

本来なら、このことは、口が裂けても言いたくはなかったのであるが（だからこそ常に、必死で専門職養成の必要性を主張してきたのでもある！）、近年の、相変わらずの採用・発令の実態、そして何よりも、そのことを知っているにも拘らず、放置し続ける、その時々の責任者や担当者、そしてまた、その近辺にいて、そうしたことを黙認（擁護？）する、取り巻きの委員・関係者達?!何か、具体的な言動はないのか?!「教育公務員特例法」（第２条第５項）の、何と空虚（むな）しいことか!

ということで、こんな過激な？発言をしたのは、もちろん初めてであるが、改めて今、若者達（後継者？）には、声を大にして言いたい！（既に、言い始めてもいたが）、本当に必要なのは、「資格」ではないのだ！その分野の（人々の存在の）大切さと、自分が関わるだろう分野（職掌）の関係性、端的には、どういう人達と、どういうところでコラボ（→地域学校協働活動）すればよいのか、そこをきちっと見据えることのできる資質と能力、否、やる気と勇気をもて！単に資格さえ取れればいいと思うな！

少なくとも今の彼（多分井上？）には、そんな若者は迷惑かもしれない?!正規の職を自ら辞した人間が、そこに生じた責任を果たすことは、ある意味仕方ないが、何故彼が、今回のような形を君達に提案し、そしてまた、何故、それに応えようとする大人達がいるのか、どうか、そこのところだけは分かって欲しい！それは、単なる、君達の単位取得のための便宜供与ではないのである！

しかも、現実は厳しい！それは、重々承知している！だから、自分達の最善の取捨選択を、今からでも遅くはない！覚悟をもって、行って欲しい！これまでの学生、へたをすればゼミ生達だって、本質的には同じなのである?!やりくりや折り合いは、どこで、何をしていても、必要なこと?!（そこが分かる人よ！）頑張れ‼

（７月４日）

⑧人間の「ロボット化」?!ロボットの「人間化」?!両者はいかに結びつくか?!

本シリーズ②で書いたことであるが、標記のテーマ（問いかけ）は、その続編とも言えるものである！改めて、ここでは何を語りたいのか?!一言で言えば、現代人（若者？）の、それこそ露骨に言えば、ある大学の授業に足を運び、そこで無機質な表情・行動を採る（ように見える？）、一部の（かなりの？）学生の「ロボット化？」ということであり、一方で、最近とみに生身の人間と交流するロボット（人口知能ＡＩ）の「人間化」ということであるが、両者は、語義的には正反対の方向を示しているように見えるが、それらを総体として見れば、我々の人間社会が、何かこれまでとは違った状況（人間関係？）、ひょっとしたら、それがまったく新たな「位相」にまで（→「転移」?!）、移り変わってしまっているのではないかということである?!

ただし、今のところ、私には、その何かについては、うまく説明はできない?!でも、何かが変わってきている、あるいは何かが、そこで生まれようとしているという実感だけは、確実に生じているということである！

ところで、ロボット（人口知能ＡＩ）の「人間化」については、ＩＣＴ、最近年では「IoT: Internet of Things」(モノのインターネット)とも呼ばれ始めているらしいが、そこにおける最先端技術の、一つの形であり、我々人間社会の助っ人、頼もしいパートナーの生産（誕生？）ということであれば、そのこと自体は問題ではないし、むしろ大いなる福音でもあろう！

しかし、それが、一方の、人間（若者？）の「ロボット化」と連動し、それと並行して、ロボットの「人間化」という事態が進展しているとしたら、大いなる逆説（皮肉？）であり、別な意味では、それこそ憂慮すべき問題？であることは明白である！何故なら、人間は、まさに「人の間」に生きる、感情の遣り取りを行う生き物だからである！英語で言うところの「ヒューマン・ビーイング human-being」、つまり「ヒューマン」である「状態＝存在」ということも、それに通底することであろう?!

とは言え、私の目の前に姿を見せる若者達（受講学生達）が、果たして、私が今問題としている「ロボット化」の代表かと言われれば、そのこと自体については、あまり自信はない?!ただ単に、私の授業が面白くない、否、私の授業の雰囲気、話の持っていき方に慣れていない、要するに、私への不適応状態となっているだけかもしれないからである?!単純に、現代の若者にありがちな、いわゆる集団（クラス）の中での身の処し方、例えば恥ずかしい、あるいはヘマをしたくないといった、集団心理、群集キャラ？が、力強く作動しているのかもしれないのである?!

ということで、この場合の真偽については、今のところ何とも言えないが（と言っても、既に四分の三の授業が経過しているのであるが！）、何とも、もどかしいばかりではあるのである！要するに、質問等も含めて、積極的に発言しないと

いうことである。ただし、最後の「学習メモ」（出席確認も兼ねた書き込み用紙）には、一応、感想や質問等は書いてはいるので、単なる一歩通行の授業ではないとは思われるが…。

さて、私の眼前の若者達（受講学生）については、これ以上語らないことにするが、ここでは、いわゆる「人間性」の交流・発露の仕方について、若干ではあるが、改めて考えてみたいと思った次第なのである。極端に言えば、「人間性」とは何かというようなことを、今新たに、私なりに問い直しをしてみたいということでもある。

否、やはりそのことは、現代社会が、もう一度根本的に、問い直しをする必要が出てきているのかもしれないということである?! 別言すれば、生活のそこここに生じる生身の人間関係というものの大切さ、もちろん、煩わしさ等も含めてであるが、考えてみたいということである！何故なら、我々は、そうした状況から、決して逃れることはできないし、また、そういう状態でしか、生きることができないからである！

問題は、例えば、当然のようにそこにある便利さ、あるいは快適さ、否、自分の気分や意思次第で、周囲が思うとおりになる（自分の欲求を満たしてくれる？）、裏を返せば、自分の思う通りにならない（自分の欲求を満たしてくれない？）ものには、軽蔑したり、無視したり、さもなければ、ある種の見切りをつけたりもする?!これも否、自分の内と外を厳格に（ある意味幼稚？に）使い分け、しかも内なる自分を守るために、外なる自分をロボット化し（一応の反応は見せるが、そこにあまり喜怒哀楽を投入しない?!）、邪魔されたくない（壊されたくない？）という自己防衛意識を作動させる人が、そこかしこに増殖しているのではないかということである?!

ちなみに、外なる自分へのカムフラージュ（仮面人間？）ないしは自分の愛情を無条件に受け入れてくれる人やペットへの依存、そういった自他への過剰な愛（溺愛・偏向愛？）は、こうしたことと一脈を通じるものかもしれない?! 近隣の子ども達（随分と見えなくなってはいるが？）や若者達の外遊びやはしゃぎ声、時にはその地域の伝統芸能の練習音・声にも嫌悪感を示し、ただそれらを迷惑、喧噪としてしか感じられなくなっている人も、多々いる?!

一つのイメージ光景であるが、いわゆる地域社会（この場合は生活居住区！）に、濃厚な人間（隣人？）関係を嫌う人々が、それを、ある意味補うために、様々な生活ロボット？を要請または購入し、今や当たり前のように存在している各種の自動販売機のように、自らの人間性の交流・発露を、それによって満たすような時代が来るかもしれない?!まさに、人間とロボットの共生・混合？最早それなしでは、「コミュニティ」は存立しない?!ひょっとしたら、ロボットの「自治会長さん」までもが、登場してくるかもしれない?!

（7月10日）

⑨ 今、学校教育に求められるものは、「体験型学習」か「ドリル型学習」か?!

まず、標記のテーマは、表現の仕方はそれぞれ変わっても、ある意味学校教育の永遠のテーマである！また、その時々の文脈（経緯・背景）は異なっていても、いつの時代においても、まさに「学力（低下？）問題」に関わって、（学校）教育関係者が右往左往（右顧左眄？）してきた問題でもある！

ただし、〇〇県の学力問題？は、その「低下」というよりは、「低位（状態）」ということであり、問題の根っ子は、学校教育関係者の意識や努力だけでは、到底解決できないものが、宿根のようにくっ付いているのではないか?!とは言え、事実上は、そのことも含めて受止めなければならない、誠に悩ましい問題なのでもある！

ちなみに、その〇〇県の頑張りが功を奏して？例の「全国学力・学習状況テスト」では、小学校段階だけではあるが、飛躍的な改善？が見られたことは、現場（の影）の声としては、かなり複雑な本音も漏れ聞こえてはいるが、取り敢えずは、喜ばしい事件？ではあったと言えるであろう?!この兆候が、今後とも、持続・発展していって欲しいものではある！

ところで、この種の論議において常に見え隠れしてくるのが、標題のような、「体験型学習」か、それとも「ドリル型学習」かというような、一見対立しているような問題仕立ての構図である！しかし、実は、その双方は、決して反対語ではないし、はたまた二者択一的なスローガンにはならないのである！ただ、現実には（歴史的には）、残念ながら、それらが、反対語ないしは二者択一的なスローガンとして扱われてきたということは言えるであろう！

しかも、それらは、時の為政者・オピニオンリーダーに（それを理論的に導く学者・研究者も含めて！）、ある意味扇動された形で、あたかも時計の「振子」のように、ある時には右に振れたり、またある時には左に振れたりしながら、その時々の実態（混乱状態？）を作り出してきたのでもある！

そこで、である！もうそろそろ、その対応のスタンスは返上しようではないか！それは、何故か?!当然、その二つは、どちらも必要だということである！これに関わって、現在、学校現場では、「アクティブ・ラーニング」とか、それを結果的には生み出してきた（多少玉虫色ではあったが？）、「生きる力」とか「生きて働く知恵」とかが想い起こされる。もちろん、そこでは、表面的（文脈的）には、ここで言う「体験型学習」に重きを置いているようには受け止められる！その、言わば「騎手」的な扱い？が、今脚光を浴びている「キャリア教育」であろう?!

だが、そこでは、従来のような、特別な時間や場所・機会を設けての、いわゆる「職業指導」や「進路指導」（「ガイダンス」）ではなく、日々の学習それ自体に、「何故学ぶのか？」とか、「そこにはどのような知識や技能が必要なのか？」とか、そしてまた、「（人間が）生きるとはどういうことなのか？」とか、「自分

は、それにどう関わるのか？」とか等、まさに個々の人間の「キャリア（生きていく過程＝轍：わだち)」、その「生き様」自体に焦点を当てて、指導していこうとする理念及び活動なのである！そういう意味で、教育それ自体が、実はキャリア教育とも言え、まさに「教え育てる」とは、そういうことなのではないかとも思っている。

しかし、問題は、そのキャリア教育を、個々のカリキュラムに、どのように溶け込ませていけばよいかということである！現状では、特別活動（「学級・ホームルーム活動」あるいは「学校行事」の「勤労生産・奉仕的行事」)、道徳、そしてまた「総合的な学習の時間」等が、そのための時間（「コマ」）と考えられ、実践されているようであるが、大切なことは、その時間（「コマ」）だけが、キャリア教育ではないということである！ここに、突然ではあるが、真の「生涯学習の理念」が求められるのでもある！

と言うのも、実は、「生涯学習の理念」とは、「いつでも、どこでも、誰でも、（何でも、どこからでも)」学ぶことが必要とされ、その保障と、そこで学んだ成果が適切に評価される社会の実現を志向する教育理念であるが、何故教育基本法の第３条に規定されているのかである！この条文の出自の影響もあるが（旧法第２条「教育の方針」の焼き直し?!)、まだまだその立法の趣旨が普及・徹底されていないようである?!どこかでも書いたが、この条文が、いわゆる「社会教育」関係だと、誤解（無理解？）している関係者も多い？（それならば、その関係条文である、第 12 条近辺にあるはずである！）まさに、この新法第３条は、教育全体に関わる理念なのである！

ということで、学校教育、社会教育、家庭教育（多少扱いは違ってくるが！）の総体として、「一人ひとりの生涯に亘る学習（→「生涯学習」)」を、互いが一致協力して、その理念の実現を図ることが大切なのである（→lifelong integrated education/learning＝生涯に亘って統合された教育・学習）！最近年の、「学社連携・融合」から「地域学校協働（活動)」（→「教育協働」）への動きは、まさにこのような理念の実現への、具体的・実践的な動きなのである！要は、この「生涯学習の理念」は、社会教育（だけ）の理念ではなく、学校教育、さらには家庭教育をも包含する、まさに「教育全体」に関わる理念なのである！

改めて、そのような理念・スタンスを受けて、「体験型学習」か、それとも「ドリル型学習」かであるが、それを学校教育という狭い枠組みだけで捉えてはいけないということであり、誤解を恐れずに言えば、むしろ学校教育には、他の教育（形態）ではできない「ドリル型学習」を、必要に応じて、集約的に行っていくことが望まれるのではないか?!すべての学習を、学校という枠組みだけで捉えるから、相互対立的な問題仕立ての構図にならざるを得ないということである！

（７月 10 日）

⑩ 「まちづくり生涯学習」、迎える新ステージ?!目指せ、「教育協働のまち」?!

先日、浦添市の「まちづくり生涯学習推進協議会」が、委員の顔ぶれも新たに開かれた。若干の空白期間があったようだが、次なる推進の方向性を確立すべく、再び動き出したことになる！残念ながら、Ｉ教育長の出席が、所用のため、なかったが、M市長の元気な姿？はあった！事務局スタッフの顔ぶれも、ほとんど入れ替わっており、どこか新鮮でもあったが、一方でぎこちなさもあり？この先の見通しとしては、プラスの面も、マイナス面も、両方が同居しているような、そんな船出であったように思う！

ただし、今回の会議は、委員の発令儀式（会長・副会長の選出を含む）と、行政（事務局：生涯学習振興課）側からの状況説明と、今協議会の役割・任務の説明がほとんどであった。私（井上？以下同じ！）は、予め依頼があったということもあるが、今回は（も？）、これまで強力に？関わってきた同市の生涯学習推進の、新たな方向性を構築していくことは、単に同市の課題への協力ということだけではなく、他の市町村への波及、あるいは県教育委員会への再度（最後の？）アピールも視野に入れたものが、どうしても必要であるという（私の個人的な願望ではあるが?!）、新たな意識、そして何よりも、具体的にどのようなしくみや内容をそこに盛り込んでいけばよいのかという、新たなチャレンジ心（私にとっては、これまで提唱してきた「ひとづくりとまちづくりの循環構造づくり」の実践でもある！）を、胸の内に潜ましての参画である！

一応は、同市に対しては「卒業」？という意思表示をしていたこともあり、多少複雑な気持ちではあるが、改めて、その会長の任までも引き受けた次第である！

もちろん、副次的な動機としては、担当者の想いややる気を、事前に聞かせてもらっていたということもあるが、やはり私としては、昨年の中央教育審議会の答申（ここでは、「地域学校協働答申」と俗称させてもらう！）を積極的に受け止め、何とかして沖縄でも、その具体化を図りたいということである。しかし、単に国の答申が出たからという、言わば受け身の対応ということでは決してないことは、ここに宣言しておきたい！

さて、問題は、これまで同市が掲げてきた「まちづくり生涯学習」の成果と課題が、私の言う「教育協働」、すなわち「ひとづくりとまちづくりの循環構造づくり」と、どのようにリンクしてくるのかということである！とりわけ、これまでその中核的事業であった「てだこ市民大学」の今後の方向性、つまり「ひとづくりとまちづくりの循環構造づくり」、それに関わる人材の養成機能を、いかに創出していくのかということに対する目的意識の共有、そして何より、どのような内容（対象・カリキュラム・運営方法）で、それを行っていくのかということに対する合意形成である！

多分、ほとんどの委員の人は、そういうレベルの意識は、まだまだないであ

ろうし、あったとしても、自分の研究分野や職掌・活動領域における意見・要望が中心となるであろうから、現実の協議プロセスは、その意見の集約や調整の面で、かなり難航するかもしれない?!

とは言え、ある意味そのことは、事務局、そして私にとっては、当然織り込み済みではあるので、それはそれで、いい意味での生みの苦しみとなれば、よいであろう！大切なことは、多くの人達が、ある時は侃々諤々の議論を行うことであるということである。

ましてや、会議だけを、表面上スムーズに終わらせるだけでは、委員のみなさんには、甚だ失礼なことなのでもある！幸いにも、浦添市は（も？）、現在「市民協働のまちづくり」を、市政の大きな柱としているはずである！ここで言う「教育協働」は、教育委員会（教育行政）からの、それに関わる発信なのであり、全く別の文脈の施策の話ではないのである！

とは言え、現状ではまだまだその意識や実感が、関係者のみなさんには、十分に共有されているわけではないところもあり、具体的な施策・計画づくりにおいては、いわゆる「各論」の部分で、様々な齟齬も出て来るかもしれない！その意味では、この協議会での議論の中身、その真価が問われてくることは、多分間違いないであろう！そこが、まさに、本協議会の実力が試されるところでもある！事務局のみなさん、そしてまた、新たなご縁をいただいた、他の委員のみなさん、そういう意味での協力、建設的な発言でもって、話し合いの回数そのものは、少なくとも今年度は僅かですが、２年間に亘る協議、頑張っていきましょう！

なお、これは、同協議会とは直接関係ない話であるが、協議会の前日、第一ステージの頃の関係者のみなさんと（一部ではあるが）、懐かしい再会もさせてもらった。私の退職祝い？も兼ねていたようだが、呼びかけ人のO先生の計らいで、本当に予期しない人とも、出会うことができた。本当に良かった！とにかく、住んでいる所、つまり税金を払っているところはG市なのではあるが、何故か、隣の浦添市とは、お付き合いが長くて、深い?!ある意味、かなりの皮肉ではある?!

ちなみに、G市には、例の「教育振興基本計画」づくりでは協力させてもらったが、その後は、??である！一体、何の違いなのであろうか?!今の私には、何の思惑もない、素直にお付き合いできる関係こそが、貴重であり、心から嬉しいのである！そこで、どんな貢献ができるのか、今回は（も？）かなり不安でもあるが、気概と情けを感じさせる浦添市のみなさんには、精一杯のお付き合いをさせていただくつもりである！蛇足だが、あの口の悪さというか、辛辣さが、今なお健在かどうかは、微妙な？ところではある?!こちらとしては、ユーモア、もしくは親愛の情が込められているはずなのではあるが…?!

（７月 13 日）

⑪ 大岐路?!大学での「社会教育主事」の養成、ただ終えるだけでいいのか?!

本シリーズ⑦において、社会教育の大切さと、社会教育主事の、専門職としての養成の話は、実際には別次元の話であり、私（井上？）が行ってきた（沖縄で志向してきた）専門職養成は、多分いつまで経っても成就しないということ、そして、学校教育には「教員」というものがセットで必要とされるが、社会教育には、必ずしも「社会教育主事」が、セットで必要とされるということはないということを、かなりの皮肉（怨念?!）を込めて書かせてもらった！そんな矢先、決定的な知らせを受けた！と言うより、知ってしまった！

それは、事務サイドとの別件での話からではあるが、新組織への移行後、つまり次年度（平成 29 年度）以降の入学者からは、社会教育主事の養成（資格取得）は行わないという決定がなされていることを、聞かされたのである！何せ常勤職を辞した身であるので、たとえその任をこれまで担ってきた者とはいえども、正式に告知を受けたり、それについての意見を求められたりすることがないのは、ある意味仕方ないこと？ではあるが、このことに関する事前情報さえも入らず、今後の動向を、かなりやきもきしながら気にかけていた私（井上？）としては、甚だショックであり、残念でもあった?!遣り切れないが、しかし、これが、現実なのである！

とは言え、もちろんそのことについては、十分予感はあったし、ここに至る経緯からも、今更何も言うことはないが（悔しい限りではあるが！）、冷静に言えば、これで、沖縄県内の大学ではすべて、社会教育主事の資格取得は出来ないということになるわけである！決定を下した人達にしてみれば、他所で調達すれば（「主事講習」も含めて？）、それはそれでよいということであろう

！ちなみに、この流れ（決定）は、今となっては、あの腹立たしい？国立大学の「ミッションの再定義」からの動きなのであるが、要は、大学の教育学部（もちろん国立大学だけが対象であるが）においては、教員養成（小学校段階が主）に特化して、つまり財政的な理由が一番大きいが（その証拠に、国立大学以外は、かなり自由な展開が許容されている！）、それなりの規模縮小を行えばよいという、予めの着弾地があったということである。

何とも情けない話ではあるが、一方の「教職大学院」の強権設置と相俟って、ほとんどの国立大学（事実上は、いわゆる地方の弱小？国立大学！）は、一斉にこの方針の下、地ならし（悪く言えば「最小横並び」?!）を受け入れることになったのである！

ある意味、一応国立ではあるので（「国立大学法人」という、怪しげなマスクを被されてはいるが！）、いい意味での「横並び」、つまり国としての人材養成の責任の見地から、そこで必要とされる最小限の予算・組織体制が確保される必要はあるが、必要以上に「横並び」が強要されると、地方の独自性とか、そこにおける特別な人材養成のニーズには、とても対応できなくなることは明らかであ

る?!

一方で、その独自性、そして、ある種の強みを発揮せよとのお触れを出しておいて、こと教育関係人材の養成は、横並びあるいは単純縮減化で乗り切ろうとしている国の動向ではあるが（高等教育局？と言うより、結局は財務当局の意向？）、本当にこれでよいのであろうか?!

殊に、ここ沖縄においては、今構図的には（はっきり言えば、政治的には！）、かなり複雑な関係を作り出してはいるようであるが、学力問題、あるいはその背後にある貧困や経済格差、さらにはそれと連動している地域社会の教育力の問題等を考えれば、もともと規模も最小である琉球大学教育学部のあり方も、単なる横並びあるいは単純縮減化路線では、うまくいかないことは明白ではないか?!

ただし、そこには、大学関係者自らがそういう方針を、ある意味積極的に受け入れたということもある?!どこ（誰）も、自らの聖地あるいは既得権益を減らされたくない、あるいは手放したくないのは、世の常である！今回のミッションの再定義に基づく改革は、本来は大学全体の組織・体制の見直しが先にあり、そこから個々の学部の再編が続くものであった！（もちろん、一定の縮小ということは前提とはされていた?!）

そういう意味では、この度の社会教育主事の養成も、教育学部単独では難しいかもしれないが、大学全体としては、何らかの対応の可能性はあったのである！そうした論議がどの程度行われたのか、今の私には知る由もないが、もしそれが、教育学部だけの判断、決定だとしたら、誠に悲しい結末としか言いようがない?!要するに、大学内部においても、積極的に、その存続ないしは活性化を志向する者がいなかったということでもあるからである?!

いずれにしても、最早そのような決定は変えようもなく、そうした、言わば新たな？路線、組織改革の中で、いかに実現可能な動き、あるいは求められる人材の養成・確保を、まさに自主・独立的に創り出していくかが重要となるであろう?!言われるままに組織改編を行い、例えば「社会教育主事」の養成を、ただ単に終わらせるだけでよいのかということになるが、現実的にこの機能を、当地にある国立大学が放棄したのであるから、それに関わる人材の養成は、他ならぬ地域（民間セクターも含めて）で行うしかないであろう?!

こうした事態を招いたのは、結果的には私の責任？と言われれば、ある意味甘受せざるを得ない部分もあるが、時は、昨年末の中教審答申にもあるように、地域学校協働（活動）、私の表現では、まさに「教育協働」の体制づくりは必至なのであり、それを、地域にあって唱導、実現させていく人材が必要なのである！それが、「社会教育主事」の新たな役割であり、専門性でもある！改めて、そうした人材を、自らの手で育成、確保していこうではないか‼

（7月22日）

⑫始まる『社会教育』への新連載！「青年教育」の場でもある、大学ゼミ活動‼

過日、余りにも個人的過ぎて、連載の可能性は、ほとんど無いのではないかと思っていた、社会教育の専門雑誌『(大判) 社会教育』への記事連載の話が、K編集長から飛び込んできた！いくら旧知の中とは言え（それなりの協力？もしてきたが)、彼には、かなりの英断？を強いたのではないだろうか?!

企画構想案を送った時に、その雑誌自体が、現在まさに、「青年教育」を標榜する「日本青年館」の発行となっているので（そうなった経緯は、少なからず私も承知しているが！)、何か直接、その青年教育に関わるような記事内容も欲していたということであったが、その後何も音沙汰がなかったので、一応けじめとして、最後のプッシュをかけてみたところ、もう少し待ってほしいとのことであった！

その後も、特に連絡はなかったので、やはり無理を言ってしまったのかなとも思い、本気で諦めかけていた矢先のことでもあった。以前の記事連載（「地域教育経営の理論と実践」2013年５月～2015年３月）においても、本当は一つの本にして出したかったのではあるが、「これでは売れない！」と判断されたのであろう、行場のなくなった一冊分の原稿（論文）を、同誌の連載という形であったら可能であるということで、それを実現してくれたのも、実はK編集長であった！本音？はどうなのかは分からないが、ある種の「情」を感じるし、今の私には、紛れもなく、有り難い⁉話とも言えるのである！

ということで、本題に入るが、今回の企画連載は、「若者（琉球大学生）達の学びを見つめ続けて～教育学部に社会教育主事資格取得プログラムがあることの意味～」と題して、私（井上）の、これまでの大学での講義やゼミ学生等との学習・交流活動を振り返りながら、教員養成を主軸とする教育学部に、何故、社会教育主事資格取得のプログラムが必要なのか、そしてまたそのプロセスにおいて、若者（琉球大学生）達が、どのような出会いと学びの場を享受してきたのかを、読者のみなさんにお伝えすることが本旨である！

26年間の悪戦苦闘の日々ではあったが、そうした時間と空間、そして仲間（いわゆる「三間」？）を、ある意味意図的に準備し、それを見つめ続けてきた者として、その一部ではあるが、それらを、広く世間のみなさんに知ってもらいたいということでもある！果たして、どのようになるのか?!今は不安の方が先行しているが、折角のK編集長の厚意、もちろんそれもあるが、ある意味現代の「青年教育」の場でもある？大学、及びそこにあるゼミ活動の実相とその軌跡を知っていただくことは、これからの「青年教育」を考えていく際の、一つの示唆になるのではないか?!

とは言え、その基本的なスタンスは、私にとっては、過去の振り返り、思い出のオンパレードになるのかもしれない?!したがって、それは、ある種の、私の個人的な回顧録ともなるのかもしれない?!しかし、それはそれで寛恕しても

らって、そこで繰り広げられた若者達の青春模様を、思い思いに受け止めてもらえば、望外の幸せともなる?!

だが、やはりそれだけでは申し訳ないので、毎回卒業生や在学生にも登場してもらって、それぞれの回のテーマに即した、彼らの思い出やメッセージを、オムニバス風にではあるが、随時挿入していくことにはしている！現在、４年次と最近卒業した、近場の若者達に協力依頼を行っているところであるが、まだまだ多くの若者（卒業生）達には話はしていない。したがって、今後、新たな協力依頼をせねばとも思っている。

とにかく、私（井上）がここで企図しているのは、これまで、ここ沖縄の地で行ってきた様々な仕事・活動は、究極のところは、大学（ゼミ）という特別な場所・関係での、「青年教育」としての実践だったのではないか?!もちろん、それだけではなかったことは事実であるが、思うところがあって、若干自主早期退職をした私(井上)の偽らざる総括としては、まさにそうだと言いたいのである！そこで、そのことを踏まえた記事構成は、おおよそ次のようにしたい！メッセージの対応も、これに沿って考えておいてもらいたいということでもある！

「琉球大学での取得プログラム」※履修科目表添付：取得プログラムの紹介とこれまでの状況・学生達の受講状況とその後の進路　等

「科目提供で苦慮してきたこと」：科目提供の負担・工夫・専任一人の大変さ（エレジー風？）

「教育原理」：広く教職を目指す学生達に対して・「教育原理」とは何か、そこにおける「生涯教育（学習）」の位置付け／**「社会教育概論Ⅰ・Ⅱ」**：教職用（Ⅰ）…社会教育の動的理解（全体的・総合的）・社会教育主事資格専用（Ⅱ）…社会教育の静的理解（個別的・具体的）／**「社会教育計画Ⅰ・Ⅱ」**：理論的理解（Ⅰ）・実践的理解（計画の模擬作成）（Ⅱ）／**「社会教育実習」**：現場に行く（お世話になる）ことの重み　cf.　アクティブ・ラーニング・学生側、迎える側、双方にとっての意味／**「社会教育課題研究」**：若者（学生）達の気付きとアクション・卒論等への誘い／**「地域教育経営演習Ⅰ・Ⅱ」**：新たな目的・方法論としての「地域教育経営演習」・ゼミ活動（→サークル活動）とのリンク／**「地域社会と学習・文化」、その他の科目**：地域に目を向ける意味／実践家、「意味ある他者」との出会い／**「学社融合と学びの共同体づくり」**：新基軸としての取り組み・「教育協働研究会」との連動・「教育協働」の理論としくみづくり

「レポート・レターにみる若者（学生）達の学びのプロセス」①：～若者（学生）としての成長～「青年教育」の場としてのゼミ・サークル活動／②：～教育人材・関係者の卵としての成長～「人材養成」の場としての研究会活動／③：～一人の人間としての成長～「人間形成」の場としての「大学」

「おわりに、そして新たな発信」：活動や事例紹介あるいは情報交流、手紙（メール等）のやりとりを通して・「教育協働研究所」の紹介

（８月 27 日）

⑬ 新しいタイプの授業、ＶＯＤ視聴による大学での学び!でも、ちょっぴり?!

先日、ひょんなことから、ＶＯＤ（Video On Demand？）視聴学習による大学（正確には大学院！）での学びによる、新しいタイプの授業に参画した（事実上は、一部協力ということではあるが→「ゲスト講師」）。こうしたやり方は、多分かなり以前から行われていたのであろうが、私自身が、たとえ一部であるとしても、その当事者になろうとは、正直言って、全く考えてもいなかった！失笑を買いそうでもあるが、私自身は、やはり大学における、「懐かしの昭和の先生！」（の最後世代？）であり、まさしく「講義」（喋り？）が命と考えていた。

ただし、心のどこかでは、いわゆる「電子機器」への拒絶反応、と言うより、それを活用する知識や技術への無案内、さらにもっと言えば、それを活用できていない自分への腹立ち・言い訳？（情けなさを意地に替える?!）が、そこにはあったようにも思える?!しかし、冷静に考えてみれば、お互いそれを必要とする者同士が、基本的に遠距離（物理的に同じ場所にいることができないということ！ただし、距離の大小は、本質的には問題ではない?!）にあって、知識や情報の交換が、しかも即座にできるのであれば、それはそれで、貴重なツールであることに変わりはないであろう！否、そうした場合には、より便利な機器を活用した方がいいのは、むしろ当たり前でもあろう?!

ところで、この話は、もう随分前の、私の教育学専修時代の教え子？（ただし、直接のゼミ生ではない！）であるＳ．Ｈ君（氏？）からのもので、現在彼は、兵庫教育大学の大学院（教職大学院）で教鞭を執っているが、彼（ら？）の授業の一環（教育政策リーダーコース／グローバル化推進教育コースの共通基礎科目「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」）として、このようなＶＯＤ視聴学習を採り入れているということである！今回の授業では、私が２回目のゲスト講師であったようであるが、私の立場？は、いわゆる「社会教育・生涯学習」のそれという触れ込み？であった。

彼（ら？）が主張する？「地域教育経営」とは、一体どういうものであるのか、厳密にはよく分からないが、それには、様々な視点・捉え方があるという前提なのではあろう?!内容・テーマ的には、私の主張してきた「学社連携・融合から教育協働へ」「ひとづくり（教育）とまちづくり（地域づくり）の循環構造づくり」が視野に含まれており、一応は事前に私の論考を押さえていてくれたようで、ほとんど違和感はなかったと言ってよいであろう?!むしろ、いい機会ではあったと受け止めている！

ということで、私としては、最初「社会教育・生涯学習としての立場」という括られ方が、どうしても気になっていたのであるが、一応意味のある講義（対談）にはなったのではないかと思っているということである。もちろん、後日それを視聴する学生の皆さん（現職の教育長や校長等がメインらしい?!）の反応というか、評価は、まったく分からない?!ただし、今さら、「何をか況や」ではある！

結論としては、最近の国策（コミュニティ・スクールと学校支援地域本部→地域学校協働本部事業の一体的対応）にも出てきているように、学校教育と社会教育の合力の形成、そこにおけるコーディネート機能を発揮する人材の養成・配置（地域教育コーディネーターや地域連携担当教職員等）の重要性の確認ということになろうが、今回の受講者のみなさんが、教育長をはじめ、学校長等の管理職やキャリアを積んでいる人がほとんどらしいので、彼らの意識と行動のあり方の重要性を、特に指摘させてもらったということになろう?!

とりわけ、学校教育（行政）と社会教育（行政）の双方を所管している（全責任を行使する！）教育長さん達の意識と行動（なかでも人事に関わる！）が、その成否の鍵であるという、最近の私の持論でもあるが、そのことを、かなり声高く主張させてもらった！果たして、どうなるのかである?!

ちなみに、こうした最先端の授業の方法は別として、現職の教育長や行政のみなさん達、あるいは学校の校長・教頭等のみなさんへの、それこそ「地域教育経営」の理論構築と実践研究の場が、それぞれの地元の大学（の教育学部？）には必要なのではない（なかった？）か?!

その分野・領域を、例の「ミッションの再定義」の中で、秘かに採り入れようとしていた私にしてみれば（もちろん学部長時代であるが！）、かなりの複雑さ（悔しさ？）が、胸に去来したのも事実である！しかし、今となっては、そのことは、まがりなりにも全国設置された？各地方の国立大学の教職大学院に委ねるしかないであろう?!

そして、そのまた全国的なリーダーシップ役を、他ならぬ兵庫教育大学のような「新構想教育大学」（設置当時は、確かそう呼ばれていた?!）に、改めて期待するものである！今回の受講者のみなさんには、是非とも、その部分の成果を大いに担って欲しいものでもある‼

最期に、余談ではあるが、この珍しく、そして貴重な時間と場を、現４年次のＹ君とＭさんが、共有してくれた。その数日前に行った事前のリハーサルでは、卒業生のＮ君も手伝ってくれた。それはそれでよかったのであるが、当日本番中、Ｍさんが、向こうの視聴画面には見えないが、かなりの疲れからであろう？喋っている私の目の前で、かなりのコクリコクリをし始めた時には、何とも言えない心境であった！

流石に、それに気づいたのであろうか、隣に座っていたＹ君が、そちらのカメラ視線（こちらの側でも、この対談の様子をビデオ撮りしていた！）を、体を張って隠し始めたのを、後で個人的に視聴した私は、半ば確信的に？発見したのである！何と心優しい、Ｙ君なのであろうか?!それともそれは、ただ単に、全くの偶然だったのであろうか?!後で、本人達に尋ねてみよう?!何とも微笑ましい、青年達の姿、そして成長のプロセスなのであろうか?!

（９月 13 日）

⑭ 児童館（児童センター）の意義と可能性、そして、それを生み出す配置の妙?!

昨日（10 日）、浦添市勢理客（これを、「じっちゃく」と読む！）にある、「浦添市立森の子児童センター」の「開館 10 周年記念式典」に行かせてもらった！私自身は、設立やその後の事業・活動に、協力も含めて、直接関わったことはない。したがって、案内状をもらった時は、いささか複雑な思いであった?!しかし、現在の館長であるＯさんは、旧知の間柄であり、また近年の研究会では、頻繁なる参加・協力も頂いており、ある意味義理的？ではあったが、行かせてもらった次第である！

とは言え、もう一つ、このセンターには、今年卒業したメイト生のＭさんが、スタッフとして働いている。それで、彼女の働きぶりも見てみたいという思いが、一方ではあった！実は、最終的な参加案内をしてくれたのは、このＭさんでもあった！さらには、このセンターには、ひょんなことから、毎年行っている大学の「社会教育実習」の受け入れ先の一つとして、３人の学生の実習受け入れもやってもらっていた！やはり、お礼も兼ねて、行かなければならなかったのでもある?!

とにかく、そういう複雑な事情？の中で、初めての、同センターへの訪問となったわけであるが、会場（場所）へのアクセスが、まったくの不案内であったこともあり、一昨日、急遽同行することになった卒業生のＮ君（同センターに縁もあった！）の車で、会場へと向かった。会場に着くと、一人の若者が、駐車場係をしていた。具体的ないきさつは知らないが、私への案内状の事前手渡し、そして、当日の駐車場係と、そこでの実習生の一人、Ｋ君が頑張っていたのである?!

本人にも言ったが、彼の表情が、心なしか「清々しく」、また若干「逞しく」も見えた?!この間、何かが彼の中で化学変化でも起こしたのか?!それが、この実習のお陰なのだとしたら、ある意味思わぬ拾い物？と言えるのかもしれない?!そうであって欲しい?!だが、そのことは、多分彼にだけ通用する、ある種のユーモア（皮肉？）ではあるわけであるが…?!

ところで、今回の訪問で、改めて思ったことは、こうした「児童館（児童センター）」（そこにある「学童クラブ」も含めて！）の存在意義と可能性である！周知のように、児童館（児童センター）は、福祉行政所管の「児童福祉施設」である。しかし、やりようによっては、単なる児童福祉施設ではないということである！（こう書くと、福祉関係者には申し訳ないのかもしれないが?!）と言うのも、ここの児童センターは、名前とは違って？、子ども達（児童）ばかりではなく、地域の多くの大人達の出入りも多く、あたかも「公民館」のような役割も、果たしているということである！

そのことは、今回の式典プログラム、あるいはそこで紹介された、これまでの事業・活動の内容、そして、そこに集った人達の顔ぶれを見ても、大いに実

感されるものであった！とにかく、都市化された多くの地域社会の中に今必要とされる、人と人との出会い、交流、学び、そしてそこから生まれる相互支援の場が（いろんな意味合いを込めて！）、その 10 年の歳月の中で創り上げられてきているのではないか?! 実態（実績？）として、児童センターが、あたかも地域の公民館として、「人づくり（教育）とまちづくり（地域づくり）の循環構造づくり」を行っているとしたら、ある意味称賛の極みと言えるであろう！余談ではあるが、女性の数の多さ、今も至るところで感じるが、女性のパワー、「沖縄のおばぁ？」は、ここでも強かった‼

ただし、私が思ったことは、ただそれだけではない！多分、そのことが大いに関わってはいるが、今回、迂闊ではあったが、遅ればせながら知ったのは、同センターが、市立幼稚園と屋根・通路続きであること、そしてまた、この二つの施設に隣接して、市立小学校が立地しているということである！用地取得の問題で、結果的にそうせざるを得なかったのか、それとも、そうした施設の複合化（→「機能融合化」？）が、最初から意図されていたのか?!

要するに、これらの施設が、空間的に、したがって日常的に？繋がっている（繋がらざるを得ない？）ことが、高く評価されるということである！とかく、このような施設の複合化は、用地取得の問題は別として、利用者にとっては便利なものであるが、運営側にとっては、（本音は？）互いに迷惑に感じる（「なわばり意識」？）ことが多い?!そこに、いわゆる「行政のタテワリ？」が介在しているとしたら、なおさらのことである?!

だが、この浦添市では、全小学校区に、「児童館」（「児童センター」）が、しかもすべて、その小学校に隣接する形で設置されている！ということは、沖縄県では全小学校に「幼稚園」が併設されているが（いわゆる「プレスクール」?!）、結果的に、小学校、幼稚園、児童館（児童センター）の、まさに「鼎（かなえ）型配置」が実現しているわけである！福祉行政については、ほとんど分からないが、こうした施設の配置、以前に「複合施設化」のブームもあったが、そうしたブームとは無関係に、物理的にも隣接させ、それらが有機的な連携・協力関係を、恒常的に創り上げていっているとしたら、それより勝るものはない！学校等の教育施設、福祉施設等、その施設群を、一つの場所に集積させること、この発想と整備の現実は、誠に評価されるものであろう?!

最後になるが、センターからの帰路、同じ「社会教育実習」の受け入れ先の一つ、市立図書館にも、立ち寄らせてもらった。本日が、実習の最終日だったということを思い出し、実習生の二人（Ｄさんと Ｓさん）にはまったくの不意打ち？となったが、その光景のほんの一部を見させてもらった！これに関しては、その実習の報告会を兼ねて、来月（10 月）14 日（金）に、第 5 回研究会を行うことになっている。乞う、参加等！

（9 月 13 日）

⑮ 妙な？コースだったが、学生達には、かけがえのない時間と場所であった?!

一昨日（17 日）、今は亡き？島嶼文化教育コースのミニ同窓会？が、その血？を 3 分の 1 ほど受け継いだ？沖縄島嶼教育コースの卒業生Ｓ君が経営する店で、楽しく開催された！残念ながら、３～５期生？の参加がなかったようで、その意味では、少し淋しい？気もしたが、県外から駆け付けた卒業生も何人かいて（台風の影響で帰りを早める予定の夫妻もいたが！）、この時期の集まりとしては、なかなかの盛会であったように思う！

関係していた当時の教員の参加は、これも残念ながら、今一番暇をしている?!私だけであった！参加卒業生のほとんどとは、４月に開いてくれた、私の、（怪しげな？）退職記念パーティで出会っていたので、懐かしさというよりは、若干久し振りといった感じでの再会ではあった！

でも、それよりも何よりも、その時のお礼が言いたくて（まとまって会えるので）、顔を出させてもらったというのが、本音なのかもしれない?!それにしても、彼らは、本当に仲の良い集団である！そして、好青年達（一部、もうそう呼べない?!連中もいたが！）ばかりである！在学中は、必要単位を、卒業間際まで沢山残していたりして（一部卒業しなかった者もいる！）、いわゆる勉学の方は、あまり身を入れていなかったように見えていた者もかなりいたが、今では、教員や行政、なかには絵本作家にまでなっている者もいた！結果としては、このコースも、実は、まんざらではなかったのである‼

ところで、このコースは、今では遥か昔の？話となるが、国立大学（現在は、「国立大学法人」という名称になってはいるが！）の教育学部（教員養成課程）を、学生数としては 5,000 人を削減するという、当時の国策（「5,000 人削減」）に沿って、琉球大学教育学部においても組織改革を行った時に、新たな教育組織として設置されたものである。

いわゆる「ゼロ免課程」（本当は、そのようには言わせたくなかったが！）としての「生涯教育課程」の一コース（確か 7 コース、学生数 90 人?!島嶼文化教育コースは一学年 15 名！）として、教育学（私だけだったが！）と社会科、そして美術教育の教員達の（一部の）、まさに寄り合い所帯で、沖縄のような、島嶼地域の教育（文化も含めた！）に関わる人材の養成を目的に、鋭意スタートさせたものであった（本当に、そうだった！）。だが、これもまた、その後の時代状況の推移の中で、10 期生をもって、たたまざるを得なかったコースである！

なお、当時の時代状況（改組の背景）とは、ますます進行する少子化やそれに伴う学級減、さらには学校の統廃合等によって、教員の数が余剰になってい（く？）るのではないか？（短絡的に見れば、そう言えたのかな?!）、そしてまた、ここはやはり、ある意味真摯に受け止めなければいけなかったが、教員採用試験の合格率・実際の本採用率の低迷が続く国立大学の教育学部であったため、学生数のさらなる削減、さらには、不要と判断される？「ゼロ免課程」の縮減

あるいは廃止の方向が、文科省（実質は財務当局）から示され始めていたことである！こうして、全国の国立大学（特に地方のそれ）は、教員養成の強化（事実上は小学校に焦点をあて）に、大きく舵を取っていかざるを得なくなったのである！だが、まだその時点では、新しい教育組織に改編され、辛うじて？「生涯教育課程」は存続したものの、この島嶼文化教育コースは、10 年という、まさに短い命を閉じることとなったのである。

ちなみに、その、辛うじて残った「生涯教育課程」も、この年度（2016 年度）で入学生を採るのを止め、次年度から、まさに教員養成課程のみの、さらに学生数が縮減された学部となることになっている！何とも、情けない（悲しい？）、この間の動きなのではある！

ただし、他方で望まれた（陽動？された）「教職大学院」の方は、もう既に設置・運用されている！教員組織の再編・再配置の混乱等は、これからが本番なのではないだろうか?!いずれにしても、国立大学の「淘汰」は、これからも進められていくのであろう?!

さて、今回は、こうした、私が関わってきた教育学部の変遷について、真面目に？振り返るのが目的ではない。ここで言いたいことは、（現在も含めて）これから大学に入学してくる学生達が、ぎっしりと用意された、その専攻の専門性（期待されている？とりわけ、その職に必要とされる実践的な知識や技能）を培うメニューを、脇目も振らずこなして、ほとんど全員が、一発で採用試験に合格し、採用されるということが、強く求められている状況にあるとも言えようが、果たしてこれで、本当にいい教員が育つのであろうかということである?!

もちろん、学生達は、逸早く自分のやりたい仕事に就けるわけだから、それに越したことはないし、しかも、経済的にも助かるのであるから、他ならぬ親・保護者等にとっては、これほど喜ばしいことはないであろう?!

ただ、今回思ったことは（以前からそう思ってはいたが！）、ある意味一番大事な「自分づくり」の時間と場所である「大学」において（大学でなくてもよいのだが！）、ただ試験への合格のために、あるいは（見せかけの？）実践力を促成栽培的に賦与？され、いかにも一人前のように振る舞わざるを得ない（挙句、潰れていくかもしれない？）若者達を、数多く作り出すことになってしまえば、それこそ、本末転倒になってしまわないか?!

誰からも信頼され、そして、本当に心身ともに逞しい教師となるためには、たとえ一時（かなり？）は無駄ややんちゃ?!であっても、そこでいろんな事物を見聞きし、その過程で、様々な志や覚悟をもって、仕事や活動をしている他の人達との出会い・交流等を経験していることが、時間はかかっても、結局は早道なのではないか?!このコースの若者達を見ていたら、何故か、その思いを強くしたということである?!果たして、実際はどうなのか?!

（9 月 19 日）

⑯ 社会教育実習、予想以上の成果あり?!異例ではあったが、得るもの多し?!

昨日（21 日）、今年度の社会教育実習の打ち上げ（お疲れさん会？）が、浦添市の某居酒屋で開かれた！ただし、この会は、13 人の受講学生のうち９人がお世話になった、同市だけの集まりではあった。今回、改めて嬉しかったのは、この会を、浦添市のみなさん（世話役は生涯学習振興課）が、私と受講学生に呼びかけてくれたことである！以前は（と言ってもかなり昔？となるが）、こういったことも、かなり頻繁に、受け入れ先のみなさんが開いてくれていたのであるが、最近では、ほとんどなかったからである！

私の依頼の仕方、あるいは関わり方や思いが、徐々に変わっていったこと（機械的に、否、薄れて？）が原因ではあろうが、表面（文書上？）だけのつき合いになっていた感が強いのである?!これも時代の流れで、ある意味仕方のないことだと、半ば諦めてはいたが、今回の浦添市のみなさんの、厚情というか、心意気には、何か今まで忘れかけていた大切なものを、思い出させてもらったような気もするのである?!

しかし、この、厚情というか、心意気は、何も、この打ち上げ（お疲れさん会？）のことだけではない！実は、今回の実習では、私のある思い（企図？）から、従来の形式（原則として、近隣の市町村教育委員会事務局の社会教育所管課に依頼する）を変え、ある特定の市町村に集中させ（今回は浦添市であったが）、いわゆる点ないし線としての関係から、面としての関係を、何とか創れないかという思いで、お願いしたのである。

ただし、教育委員会事務局だけに、それこそ一度に、沢山の学生をお願いするのは、流石に申し訳ないと思い、いくつかの機関・施設に、それぞれ分散させてお願いすれば、何とか引き受けてもらえるのではないかと思い、結果的に、教育委員会事務局（生涯学習振興課）、中央公民館、市立図書館、そして驚くなかれ、福祉関係の施設である、市立森の子児童センター（神森小校区）に受け入れをして頂いたのである！

もちろん、社会教育主事の実習であるので、個別の機関・施設だけでのそれでは、やはり問題？があるので、何とか、それぞれ横の連携とか、あるいは共通の課題意識等が共有できればという思いで、各関係の施設・機関に思いをぶつけてみたのである！

さて、ここからが、今回声を大にして言いたいことなのであるが、この私の呼びかけ（企て？）に、上に挙げた機関・施設の、まさにしかるべき立場の人全員（すなわち、課長及び館長さん達）が、この話を積極的に聞き入れてくれて（本当は、かなり迷惑だったかもしれないが？）、何と、自主的に、合同現地事前研修会？を、受講学生全員を集めて、行ってくれたのである！

残念ながら、この会には行けなかったが（本当は、日程を直前で失念していた?!）、受入れ先及び受講学生、その双方にとって、結果的に、この合同現地事前研修

会のメリット・成果が生かされていて（ある館長の、会直後の電話での報告、あるいは実習後の学生達のレポートより！）、本当に、予想以上の協力と、その成果が得られたものと、改めて感謝する次第なのである！

だが、他ならぬ受講学生達にとっては、かなり面食らうものであったろうし、本音では、自分の行きたいところは、自分で見つけたかったであろう（自分の地元の教育委員会とかである！事実、そうした学生もいた！）?!そうした思いとか雰囲気は、最初のオリエンテーション時にも察せられたのであるが、私の思い（押し？）に負けて（ほだされて？）、今回のような、一点集中的な実習先選びとなったのである！

ちなみに、あらかじめ４つの場所については、事前にアナウンスしており、その中でどこにするかは、個々人の自己決定ではあったので（ただし、配置決定への暗黙の圧力？は一部あったかもしれない？）、単なる受け身の実習先選びではなかったと言える?!

とにかく、こうしたことも含めて、今回の実習は、改めて、その意義と可能性を呼び覚ましてもらうものとなったが、実は、言い忘れそうになったが、そのしかるべき人達とは、私の、個々に旧知の仲（お互い同士も然り！）であり、私にしてみれば、ある意味絶好のチャンスでもあったのである！しかも、その人達は、全員が女性であり、その女性としての感性あるいはフットワークのよさも？、改めて感じさせてもらった。恐るべし！女性パワーなのである！

余談ではあるが、この会は、私にとって、誠に嬉しいものであったので、久し振りに往時の私に戻って？、最後は学生達のことをほったらかしにして？、世話をして頂いた大人のみなさんとの懇談に、大いにのめり込んでしまった！学生達には、一応申し訳なかったとは言いたいが、本当に楽しい時間であった！最後まで残って頂いて、しかも私を、自宅まで送り届けてくれたみなさん、改めてお礼申し上げます！そしてまた、今後ともよろしく！

なお、やはりここでも、他の引受先のみなさんにも、同じように、お礼と感謝を申し上げなければいけません！改めて、ありがとうございます！そして、同じように、今後ともよろしく！

最後に、今回の社会教育実習の報告会を兼ねて（そこでの発表を踏まえた！）、来月（10 月）14 日（金）に、第５回目の「教育協働研究会」を行います！そこで、改めて学生（若者）達と、協力して頂いた、それぞれの機関・施設の職員のみなさん（当然、浦添市以外の人達も含めて！）との再会、そして、これからの新たな協力・交流、そして協働の機会となることを念じています！

そう、（社会教育）実習は、その期間中で完結してはいけないのである！今回の、とりわけ浦添市での社会教育実習は、そのことを強く再認識させられるものであった！

（９月 22 日）

⑰ 最後の?!「教育実習校」訪問！ある種の因果か?!双方共に、ゼミ指導学生!!

本日（23 日）、浦添市内にある小学校で「教育実習」を行っている、４年次のゼミ？学生の研究授業を見にいった（本当に見るだけだった?!）。同じ教育学部の学生でも、学校教育教員養成課程の学生とは違って、私が関わっているコース（子ども地域教育コース）の生涯教育課程の学生達は、俗に言う「母校実習」（自分が卒業した学校での実習）となるのであるが、よくよく考えてみると、まさに奇遇な？取り合わせであった?!

これが、おそらく私にとって、最後の「教育実習校」訪問となることはもちろんであるが、その最後の実習生と指導教諭が、正真正銘、私のゼミ生であったということである！何という「因果」なのか?!おそらく確率的には、ほぼゼロ？に近い、取り合わせだったのではないだろうか?!誰かの意図？が、そこには介在したのであろうか??

ちなみに、一昨日（21 日）も、これと同じ「教育実習」を行っているゼミ？学生がいて（しかも、同じ浦添市内の小学校）、その研究授業を見に行った（これも、本当に見ただけ?!）。ということで、今日が、小学校の４年生の「国語」、一昨日が、３年生の「算数」の授業であったが、一応二人とも、以前の実習生同様（否、それ以上かな?!）、それなりの先生ぶり？で、授業を行っていた?!私も、その昔、教育実習（中学校）を行ったことはあるが、はるかに堂々としており、ある意味流石であった?!

ただし、実は、もう一人、同じ「教育実習」を行っているゼミ？学生がいるのであるが、こちらは、場所的にも遠い？ので（うるま市！）、最初から行かない（行けない？）と宣言していた！何せ今、非常勤の身であるので、そこまでは勘弁して！ということでもあったが、その学生には、ちょっぴり？申し訳ないと思ってはいる（本当である！）。まあ、６月の県外生（宮崎県）のそれにも行かなかったので（これは、まさに行けなかった！）、多分許してもらえるであろう?!

ところで、教育実習におけるこうした母校実習については、一時期（今も？）、その廃止の方向性が敷かれていたようだが、現在はどうなっているのであろうか?!実習希望者にとってみれば（人によって、違うではあろうが？）、自分の卒業した、あるいは生まれ育った地域の学校で実習ができることは、ある意味嬉しいことであり、迎える？側の学校においても、そこの卒業生が、同じ教職の道を歩もうとしているのだから、精一杯の受け入れとエールを送ることは、単純に考えれば、喜ばしいことではないだろうか?!

これが、まさに母校実習の良さ、メリットと言えば、そう言えるであろう?!実際、そのための専用機関である？大学の附属学校等で実習を行うよりは、将来、実際に勤務するであろう公立学校での実習の方が、より効果的なのではないかというような、斜めから（裏から？）の声を聞いたりもする?!（もちろん、ここでは私立の学校のことは視野には入れていない！）

しかし、一方で、母校実習は、どこかに温情的な部分があり、教員の余剰（本当はそうではないのだが！）あるいは教員免許状保有者の大量生産？に、拍車をかけるのではないかというような論もあり、廃止した方がよいというような動きが出ていたのでもある！

さらにはまた、そうした母校実習（公立実習？）が良いのであれば、他ならぬ附属学校（での実習？）は不要となるのではないかという論も出てきそうではあるが（賛否両論に行く可能性もあるが？）、とにかく、当事者達（学生及び受入校双方）は、それぞれの今において（現実の制度の中でという意味！）、精一杯、準備・対応する他ないのである?!

要は、どこで資格をとろうが、どこで実習しようが、本番で、きちんと仕事ができるようになればよいのである！しかもそれは、最終的には、本人次第なのでもある！

とにかく、以上のようにして、教員（の卵？）が養成されていくのであるが、今回のような、その取り合わせの妙はともかく、養成課程をもつ大学（それに相当するものも含めて）だけで、教員（の卵？）を育てているわけではないということが、ある意味嫌と言うほど、目の当たりにさせられたことは事実である！やはり、少なくともこの時点までは、学生を送り出す（お世話をお願いする？）大学側が、もっと関わり、そして感謝すべきものなのであろうということである！

しかし、現実はどうか?!ここでは、最早グダグダとは言わない（言えない？）が、それも含めた、まさに全体としての教員養成のプロセスに、大学（というよりは個々の教員と言うべきか！）は、どこまで真摯に関わっているのであろうか?!

もちろん、人によって違うと言えばそれまでだが、大学の教員は、そこまでは頓着していないであろう（本音を言えば、実は私もそうだった？）?!謝礼とか、経費の負担とか、そういったものはともかくとして、そのプロセスを共有しているはずの大学（の教員）と実習校（の教員、事実上はその指導教員！）との目的共有、意思疎通は、かなり??なのではないか?!

特に、この実習については、実習校の指導教員の負担に、ほとんど委ねられている?!最後の訪問で、こんなことを言うのは、あまりに身勝手、あるいは綺麗ごと過ぎるかもしれないが、つくづくそう思った次第である！ただし、私にしてみれば、もう一つの社会教育主事の養成（資格付与だけに留まってはきたが？）を、それこそ、そこでの実習も含めて、一人で精一杯やってきたのではある！その上、教員養成の責任も…ということであったわけであるが、それはそれとして、ある意味静かに退場していくこととしたい！

最後の「教育実習校」訪問！そして、ある種の因果を感じさせた、ゼミ？学生とその指導教員の取り合わせの妙から、それこそ妙な話の展開とはなったが、関係者の皆さんには、感謝の意を捧げたい！

（9 月 23 日）

⑱ 必要な「ひとづくり」と「まちづくり」の循環！改めて、何が重要なのか?!

10 月、いよいよ、大学は後期を迎えた！台風 18 号に、のっけから掻き乱されたが、授業登録等、思ったほどの混乱もなく、結果的には順調にスタートした！これから、各授業（４コマ＋他の非常勤対応の２コマ）の進捗と並行させて、研究会等を、それらとどう連動させていくか、そこが思案のしどころである！近年のＡＬ（アクティブ・ラーニング）騒ぎ？はともかく、理論と実践あるいは知識と行動の連動は、こと大学においては必須のアイテム？となっている！

だが、こういう言い方は、これまでの私はしなかった（否、できなかった？）わけであるが、何故か、妙に自信を得て、と言うか、他ならぬ、近年の学生達の学びの成果？を、具に見てきてということであるが、そのことの大切を、今、ひしひしと感じている次第である（多少??遅かったか?!）。

ところで、昨日（８日）、たまたまテレビを観ていたら（NHK『逆境こそ笑え　ぺこりゅうと地域再生』）、熊本県の地域づくり（活性化）の専門家（残念だが、名前を失念！確か、水俣市役所の職員であったが、かの水俣病との関わりから、現在では、地域活性・再生の救世主？として、全国を飛び回っているらしい?!）が出ていた！これまで、そういう人達のことを、多少は知っている？ので、最初は軽い気持ちで、それを見ていた。

しかし、彼の手法が、改めて披瀝された時に、ある思いが去来した！「自分達の足元を知る」「そこにあるものを生かす、発見する」、あるいは「そのことの意味や大切さを、他ならぬ地元の人たちが気付く」「決してないものねだりはできない」、さらには「他所からの助力やおすそ分けを期待してはいけない」「そのための人材を、派遣してもらうことはできない」というような、ある意味一般化されたものではあったが、改めて確認させてもらったのであるが、今回注目したのは、そのことを、その仕掛人が、どのように当事者（地元の人達）に伝えていた（る）かであった！

要は、そうしたことを、彼が、言葉で（講話等）で伝えていた（る）のではなく、あくまで地元の人達が見つける（感じ取る？）働きかけや下準備、さらにはそのための現地調査（一人で、ふらりと集落を周る等）を、目立たずに行っていたということである！まさに、上に挙げた手法（考え方）が、言葉の先行（説明や指示？）で提示されていなかった（い）ということであるが、言わば、そうした手法（考え方）の展開の仕方を、教えてもらったということである。

実は、それが、いわゆる、それを生み出していく「仕掛け人」や「コーディネーター」あるいは「インキュベーター」と呼ばれる人達の働きかけ方についての、これまでの私のやり方や考え方を、再考させるものでもあったということである！そこには、地元の人達（学習者）の学びへの触発（ある意味、無意識の「誘導」？）があるのであり、しかも彼らは、単なる学習者（承り学習？）ではなく、自らの気づきと行動を、必要な場合には、その仕掛人（協力者）の助力も得

ながら（視察先の紹介等）、主体的に行い始めていたのである！これがまさに、「教育協働」が求める、教育の原点なのではないかと思ったのである！

だが、もう一つある！こちらの方が、今回は、より声を大にして言いたい部分であるが、これまで私が提唱してきた、学校と地域、学校教育と社会教育の連携・協力（→教育協働）の最終目標？である、「ひとづくり」と「まちづくり」の循環構造づくりの重要性についての新たな？意味づけ、つまり単に方法論としてだけではなく、まさに目的・内容論的にも再考を促すものを、そこから感じ取ったということである！

ただし、この部分は、テレビあるいはその仕掛人には、直接は意識されてはいなかった?!それはやはり、教育論、すなわち「地域教育経営」という視点では、語られてはいなかったということであるが、そのこと自体は、ある意味仕方がないし、それはそれでよい！誰かの理論のために、そうしたことをやっているわけではないからである！

とにかく、私は、学校教育と社会教育、あるいは人づくりと地域づくりの循環構造を創り出していく意味は、ある事業やプログラム（学校の授業を含む！）の合同、あるいはどちらかが、どちらかへ協力する事業やプログラムの実施だけではなく、それを創り出していくすべてのプロセスあるいは関係、そしてまた、そこから波及してくる様々な活動や思いの発展、それらすべてを含んだ形で追究していく、言うなれば、それらの成果の総体が大切なのではないかと、主張はしてきた。

しかし、その具体というか、本当にどういう場面がそれに相当するのか、自らの、それに関わる直接的な実践（フィールド）がないということもあるが、それが見えていなかった、あるいはそれを、示すことができていなかったのではないかということである?!

そして、そのことが、改めて何故重要なのか?!そこに住む、あるいはそれに関わっている人達の思いや、彼らが辿る気づきや成果の積み重ね（失敗や挫折も含めて）、そのことを、いかに受け止め、いかにそのプロセスを共有できるか、そこが、教育論としての「ひとづくり」と「まちづくり」の循環構造づくり（「地域教育経営」）の命綱ではあるが、とかく学校（大学も含めて）は、子ども（学生）の学び・成長の方だけを見て、地域の人達の活動（学び）の成果？を、活用しようとするだけ?!

それでは、そこにある全体の意味や成果は見出し得ない?!そこに、例えば「総合的な学習の時間」等の限界も、あるのではないか?!だからこそ、もう一方の社会教育（行政）が、それらを踏まえて、連携・協力（教育協働）の輪を広げていく、というよりは、そうした視点での取り組みでないと、教育協働などということは、ほとんど実現しないのではないか、そう思ったということである?!

（10 月 9 日）

⑲ 一つの回帰?!我が想い漂えるままに！平成 15 年４月頃の私?!

○ 敢えて今、何を書こうというのか？

51 歳になって、12 日が過ぎた。敢えて今、何を書き始めようというのか？何かの記念でもなく、はたまた何かの決意でもなく、ただふと書き始めようとしているだけの話である。強いて言えば、ここ数年（ひょっとすると 10 年近く？）、私の生活の糧である？学生の教育（ちょっとおこがましいが）に対する、私自身の「ゆらぎ」のなせる故とも言えるのかもしれない。いずれにしても、「学生が変わってしまった」と思っている自分自身が、今確実にいることだけは名状しなければならない。そう思っている自分自身が情けない、だが、やはりそれを払い除けなければ、自分自身のやりがい、これまでやってきたという自負心が危うい、その二つの想いのせめぎあいが、今ここにあることだけは間違いない。

直接のきっかけは、ある授業での学生のメモにある。「いくら制度とかシステムを、頭のよい、上の人が作ろうとしても、結局は、人は人につく。そういう制度やシステムの問題を論じることは、無意味である」というのである。これには、いささか驚かされた。ある意味、その通りであるからである。しかも、私の教育研究・実践のスタンスは、実はそこにあると思ってやってきたから、二重のショックでもある。それも、ほとんど専門的には何も分かっていない？一介の学生に言われたのであるから、なおさらである。本当に、学生たちは、そのように受け止めているのだろうか?!まあ、このことが直接のきっかけと言えば言えるのだが、そのことは現時点ではどうでもよい。やはり、自らを振り返るべき一つの時期を迎えていたことは事実なのだから。

○ 若者が「変わった」「変わってない」論議の教育（学）的意味

改めて捉えれば、ありふれた話題ではあるが、再び、最近の若者は変わった（新人類、最近は珍人類、超人類）と言う人がいる。一方でまた、これも再び、そうしたものは「見かけ上の違い」であって、本質的なものは変わっていないと言う人もいる。ちなみに、その中で、ある意味冷静あるいは超越的な発言をする人もいる。例えば、「何が変わって、何が変わっていないのか、その具体的な指標を提示せよ。そうでなければ、そのどちらにも与しない」というようなエセ科学者？もいる。一方、そうした論議は、いつの時代、いつの社会にもあったことだと、高を括っている人もいる。

しかし、ここでは、そんな論議はどうでもよい。要は、それを発する人間が、他の人間（世代）のことを、生きている今の自分とどう関わりをもたせ、またそのことに対して、どのような意義を見出そうとしているかが重要なのだから。つまり、私（堂本）は、「私」自身が有する、「変わった」あるいは「変わってきている」という、言わば生活者あるいはその時代を生きている（生きてきた）世代ないしは個性としての「実感」が、大切だと考えているということである。「事実」それ自体と、その事実に関わる生活者ないしは世代としての意識・意味が混同されて論じられて

はいけないということである。まして今大切なのは、後者に関わる論議ではないだろうか。

○ 教育にとって大切なものは何か？

私の授業は、大半が教育についての考え方（理念ないし理論的な指向性）、そしてそこから導かれる制度やシステムづくりへのヴィジョン提示である。今、そうした視点や働きかけが、専門的な指導者・人材養成にとって必要なのだという思いからではあるのだが、なかなかこの問い方が難しい。ただし、やり方は、決して一方的な伝授型の授業ではないのだが…。一般論的には、分かろうと努力しない若者（個体）、論議の混乱や相手の反応を見て楽しもうとする若者（個体）、自分ではそのことを深く追求したことはないはずなのに、突然思い突いたかのように、深刻かつ悩ましい質問・疑問を平気で提示する若者（個体）、数え上げれば枚挙に暇がない。

ところで、こうした若者について、今でもかなり鮮明に思い出されるのが、「人を殺してはいけない理由が分からない」と主張し、テレビ番組の最中に、知識人（大人達）を慌てさせた若者（個体）のことである。今、こいつ（敢えてこう表現したい！）は、なにを考え、どう生きているのだろうか。まあ、そのことはどうでもよいが、問題は、そういう質問に対して、あの人達が（ひいては我々が）、確固たる答えを彼（若者）に与えられなかったことである。尤も、このことで、世の良識ある人達が、これではいけないと、斯界の専門家達に論陣を張ってもらい、挙句の果てには本にして、金儲け？までした経緯がある。ある意味では、とんでもない時代、社会でもあるのである。

要は、そういうことを、そういう場で、（その）若者に言わせてはいけなかったのである。たとえ、その答えが、各自の口から出されなかったとしても、最低限一言、「そのことは、自分で答えを出すべきものだ！」あるいは「私も君と同じように、そのことを問い続けて、今まさに生き続けている！」、とだけ告げればよかったのである。人生には、たやすく他人に「尋ねてはいけないもの」があるのである。ことほど左様に、現代の若者は考える足場を持たない（正確には言えば、そのことを築けないままに）、形の上だけで成長してきているのである。そのことが結局は、学力のなさ、理解力のなさ、生きる力のなさにつながっているのに、目先の学力論争に終始している現代は、まさにそれ故に末期的とも言える、最悪の状態なのであろう。

例えば、そうしたことを言わせない体験、あるいは生活のプロセスがそこにあったならば、そうした奇妙な光景を見ずに済んだはずである。問題は、そうした体験や生活のプロセスを準備していない大人（親）や、それらが作り出している周囲の環境である。見かけの優しさ故の、甘やかし、放任の状態に成り下がっているのである。どうしてそこに、問題を解決する目が集中されないのであろう。皮肉にも、大自然の中で、自らの生活と種を守りながら、健気に、そして懸命に生き続けている動植物たちの姿は、我々が忘れて（捨てて）しまった大切なものを、数多く思い出させてくれる。

（10 月 15 日）

⑳ 学生の理解・成長か?!「教育協働」の研究・協議か?!ゆらぐ私?!

昨日（14 日）、第５回目の「教育協働研究会」を終えた！大人（現場）の側の参加が、キャンセルもあり、予想以上に？少ないものとなったが、新たに加わった２年次の学生（「学社融合と学びの共同体づくり」という授業の受講生）の参加により、数的には、かなりの盛況であった！今回は、夏季休暇中に行った「社会教育実習」の成果報告？に基づくもので、無理を言って？、受入れ先の浦添市と宜野座村の教育委員会の方にも来て頂いて、学生の発表を聞いて頂くとともに、コメントや質疑への応答もして頂いた！

金曜日の夕方（夜？）にも拘らず、こちらの方に足を運んで頂いたことに、まずは深甚なる感謝をしなければいけないが、来て頂いたみなさんにとって、今回が有意義であったかどうか?!単に学生の発表を見守るだけの参加であったならば、ある意味申し訳ないと思う?!特に、今回初めて、遠く宜野座村から来て頂いたお二人（担当のＹさん、課長補佐のＳさん）には、その思いを強くするのである！ただし、会全体としては、それなりに良かったのではないだろうか?!

ところで、研究会の様子等については、別途（かなり遅れて?!）、イノベーション NEXT（以前のゼミのようなもの？）の方から報告があると思うので、ここでは、今（実は以前から？）思案している、この会のあり方について、率直な思いを記してみたい。なかなか言いづらいのであるが（否、会の「性格」それ自体の曖昧さ、多分欲張り？のせい?!）、この研究会の目指すべき目的・方向性が、極端に言えば、大人（現場）の側にあるのか、それとも参加学生・受講学生の側にあるのか、それがはっきりとしないということである?!

もちろん、私は、結果的には、あるいは総合的には、その双方にとって意義・メリットがあると思って（信じて？）はいるが、やはり多くの参加者にとっては、とりわけ大人（現場）側の参加者にとっては、そこら辺が、なかなか難しいというところであろうか?!

端的には、今の自分にとって、この会がどう位置づけられるのか、どう役に立つ（っている）のかということであるが、ある意味当然、双方の側では、そのスタンス（実感？）は違うであろう?!しかも、大人（現場）の参加者からすれば、忙しい？日常の合間を縫って、あるいは直接の業務でもないのに、参加学生・受講学生との、「研究・協議」という名の出会いだけでは、恒常的な参加のモチベーションとはならないであろう?!

要は、そうなると、極端に言えば、（社会教育に関する？）学生の理解・成長を優先させるのか?!それとも、たとえ学生としての参加であっても、今、この分野で必要とされている?!「教育協働」についての研究・協議を優先させるのかということになるが、実際の参加者（ほとんどが学生となっている?!）からすれば、やはり前者を優先せざるを得ない?!少なくとも、大半の学生が、社会教育に関する知識や体験をほとんど有していない（自覚も?!）間は、そちらの方を優先せ

ざるを得ない?!だから、今年（前半）は特に、ほとんどそういうことでやってきたわけでもある！ただし、それは、他ならぬ学生の要望に応えるということでもあった?!

しかし、実は、ここからが難しい？のであるが、常にそうなってしまうと、この研究会が、学生の授業の延長ということだけになり？、本当に、現場の人達の、そして個別の分野（持ち場？）での切実な悩みや課題を解決していくための研究・協議の時間（機会）とはならなくなるであろう?!

簡単に言えば、参加のメリットがなくなるのである?!これまでは「ゼミ」というものがあり、その学生達の専門的な学び（文献研究や事例研究等）、あるいは卒論に向けての研究・考察のプロセスや成果（それはある意味、私の研究成果や言いたいことを代弁しているものでもある?!）を、研究会のテーマや内容として、まがりなりにも組み込んでいくことができていた?!

だが、今年から、その部分が出せないのである?!その原因は、周知のように、私が作ったわけであるが、そこの部分をこれからどうしていくかである?!ということで、目下の悩みは、これから（後半）、双方にとっての、真に有益な研究・協議的な中身・要素を、いかにこの会に注入（復活？）させるかということになる?!

一方で、そうした研究・協議的なものは、鋭意稼働中のホームページの活用（７つのコーナーでの記事や情報の掲載・提供、その中でのブログやツィッターでの交流等）でと願ってはいるが、今までのところ、なかなかそれを成就させるまでには至っていない?!アクセス数は順調に増えてはいるが?!、現実は厳しい??

なお、余談であるが、会終了後の懇親会（飲み会？）では、会自体には参加できなかった卒業生達（ＯＡ）も駆けつけてくれて、人数的には、多少？盛り上がりに欠けたが、久し振りに楽しい一時となった！Ｕ君、Ｔさん（決して２次会要員ではありませんよ！）、本当にありがとう！そして、残念ながら、今回は参加できなかったＮ君、Ｓ君、次回は、必ず参加するように！

本音を言うと、私は、こちらの方を？、秘かに期待している?!（みんな分かっている?!）研究会の参加者・受講学生には申し訳ないが、当の研究会では、時間の関係もあって、なかなか個々のみなさんと（学生も含めて！）、膝を割って話をすることができない?!本当に必要な会話や、これからの、それぞれにとっての思わぬ情報交換や企て？の相談は、そういう場でしかできない?!

そう、夢は、夜創られる？のである‼末尾に、ずっと私の傍で飲んで？喋っていた、最近は常連？の、ちょっと怪しげな？若者、Ｍ君（サイバー大学ＩＴ総合学部生）！やっと？君の面白さ（存在意義？失礼！）が分かったような気がします！これからも、足しげく顔を出して下さい！出来れば、何かこの会への企画案を出して下さい！待っています！

（10 月 16 日）

㉑ 研究会の後半日程等、大方決まる！那覇市とのコラボも実現！

先日、那覇市教育委員会の二人の職員が、我が「岳陽舎」（自宅兼事務所！）に、２度目の訪問をしてくれた！ＫさんとＳさんである！実を言うと、なかなか２度目以降の来訪は難しい？のではないかと思っていたが、それこそ意を決しての訪問であったことと、推察している?!本当にそういうことであれば、こちらも、それ相当の覚悟をもって対応しなければならないが、とにかく、その心意気（覚悟？）を感じたということである！

というのも、彼女らの今回の訪問は、本シリーズ③及び⑨⑪ ⑱（直接的には③）と関わってくるのであるが、現在取り組んでいる事業（「中高生を中心とした生活習慣マネジメント・サポート事業」。文科省が那覇市教育委員会に事業委託。若狭公民館・NPO 法人地域サポート若狭と沖縄キャリア教育学校支援ネットワークに一部業務再委託。１中学校、３小学校が参加。）、これをきっかけに、まさに「スクール・コミュニティ」（「教育協働ネットワーク」の核?!）の、（この地域では、さらなる？）構築を目指してはどうかということを、しきりに勧めて（囁いて？）いた私なのであるが、具体的にどういうことが、これから可能かということで、話し合いに来たということであったわけである！

とは言え、担当のＫさんとＳさんの方でも、この事業の運営委員会的な「那覇中校区教育協働推進協議会」があるわけであるが、年２～３回程度の、しかも限られた時間だけの集まりとなっているので、何かこの推進協議会として、別途働きかけられるものはないかと、思ってはいたようである?!過日それを知った私は、ある意味ここがチャンスとばかり?!、我々が行っている「教育協働研究会」と合同で、「教育協働」についての勉強会というか、情報交換会のようなものが出来るといいね！ということで、その実現可能性を探っていたわけであるが、やっと？その方向で動こうということになったようである！

とかく行政は（どこでも、基本は変わらないか？）、とにかく予算がついていなければ、まずはやらない（やれないと言う?!）のが相場なのであるが、今回の、この二人は違ったのである?!私が、無理にしつこく?!何回も囁くので、ある意味根負けしたのであろうか?!、思い切ってやってみようと、大きく動き出したのである！しかも、一部経費（予算？）も何とかなるという部分も創った？ということである！よくやった！まさに、そう言いたい！頑張れ、ＫさんとＳさん！

一方、先の⑳において、こちらの方（研究会）の方向性に関わって、多少の（かなりの？）ジレンマがあることを吐露した私であるが、このことを、学生達に率直に？ぶつけてもみていた！彼らもやはり、そのように感じていたらしく？、研究会後半は、本来の方向性（趣旨？）を取り戻すべく、「教育協働」に向けての学生側と実践者側との意見・情報交換や事例発表等を、研究会（学習会？）として実施しようということになっていた！

そこで、現在、12 月 23 日（金）（国民の祝日）の予定であるが、那覇市教育委

員会の主催事業とし、我々「教育協働研究会」が協力するという形での、コラボ事業ということになったのである！場所は、若狭公民館であるが、詳しい案内等は、後日イノベーション NEXT の方から行うであろう！いずれにしても、我々にとっては、今年最後の研究会、結果的には、今年度最大の？ビッグイベント?!（昨年の「全国融合フォーラム」とまではいかないが?!）ということにもなるわけである！心して、頑張らなければ！

ということで、研究会自体としては、これから 12 月９日（金）＜予定変更後＞、23 日（金）＜祝日＞、年が明けて１月 20 日（金）＜予定＞、そして３月４日（土）ということで実施していくことになる！もちろん、さらなる予定変更等もあるかとは思うが、要は、出前的なプログラムも可能な限り採り入れ、授業等の、単なる学生発表に終わるのではなく、出来るだけ多くの現場、最前線で活躍（苦労？）されているみなさんとのコラボ、多分？大いにご迷惑をお掛けすることもあるかもしれないが、長い目で見ると、そのことが実は、お互いにとっての貴重な財産となる?!

どん臭い？言い方になるが、やれること、やったことは、たとえちっぽけなものであったとしても、それがいろんな形で蓄積され、飛び火もし、そして、ここが大切かとも思うが、若者達（次世代）の成長、さらには真の後継者育成にもなっていく?!実は、若者達は、そういう場や機会を欲してもいるのである?!

だが、以上のことを実現するためには、ゼミ？（サークル）の学生達の負担？は相当なものとなるであろう?!期待していた３年次の参画が予想以上に？厳しいものとなっているので、４年生（イノベーション NEXT の主力！）の負担とプレッシャーは、それこそ大きなものとなるということである?!幸い、２年次の参画もあるので（授業としてではあるが?!）、いい意味での拡大（飛躍？）を期して、やるしかないであろう?!

卒論だけに集中できない状況とはなるが、それを承知の５人組?!君達の、二重の意味での最後（決して最期ではない?!）を、心優しきＯＡ達と一緒に成就しようではないか‼そして、３月４日（土）には、有終の美酒？を酌み交わそうではないか‼

なお、２月２日（木）には、国社研の社会教育主事講習Ｂ（沖縄会場）の講義「グループワークの理論と実際」を、糸満青少年の家で、学生と一緒に行うことになっている！先の「社会教育実習」においてお世話になった浦添市との、何らかのコラボ（個別のものは、それはそれであってよい?!）も、あるかな?!

それはそうと、Ｕ市のみなさん（ここでは、敢えてイニシャル！）！次の会議の日程は決まっていますが、そろそろ事前の相談とか、打ち合わせとかは?!ほとんど決まってからの報告？あるいは会議当日のシナリオ確認だけでは、ＮＧですよ?!

（10 月 29 日）

㉒ 教職は辛い?!だが、やりがいもある?!「納得」の持続が全て?!

過日、沖縄県の教員採用試験（二次試験）の結果発表があり、1 昨年卒業したＮ君とＡさんが、無事合格した！２年越しとは言え、実質的なチャレンジは、今回が初めてだったと思うので？、「おめでとう！」そして、「よく頑張った！」と言いたい！本当に、よかった！

だが、実は秘かに吉報？を待っていた若者？が、もう一人（否、二人？）いる！残念であるが、今のところ、それがない?!再び、？だったのであろう?!毎年のこととは言え、何か切ない思いが、胸を過る?!それぞれが、それぞれに頑張っているのであろうが、就職というのは、そして、こと教職においては、さらに厳しいのであろう?!

ただし、それは、いつの時代も、どこの世界も、同じだと言えば、同じではある?!とは言え、多少遅い？決心ではあったが、彼らは、それを目指そうと、それなりの期間？チャレンジし続けている（はずである？）！何とか、ならないものか?!しかも、一方で、折角勝ち得た？、そして、それなりの働き（貢献？）をしていた（はずの？）、その教員としての身分を捨てた者もいる！また、かなりの期間、我が身をすり減らして？頑張ってきて、やっともう大丈夫かなと思えていたのに？、（再び？）休職を余儀なくされた者もいる?!何と、教職とは辛いものか?!

ところで、以前は、こういったことを書いたりすることは、ほとんどなかった?!一応は、大学の授業（「教育原理」等）で、教職は、「聖職者」「（通常の？）労働者」あるいは「専門職」というような説明？をするのであるが（通念的には「専門職」として定着?!）、今回のように、卒業生達（教え子？）の種々相を具に受け止めながら、教職とは、一体何なのかとか、改めて述懐することが、ある意味不思議ではある?!

とにかく、私としては、多少誤解されるかもしれないが？、教職の原点は、やはり「聖職者意識」にある（あって欲しい？）と思っているが、なかなか現実には、そのことを主張することは難しい?!余分な仕事とか、時間外の仕事とか、それらが、あたかも当然だというようには、決して思わないが（思ってはいけない！）、結果としてそうなったとしても、それが何（誰）のためなのかということを、少なくともその本人が「納得」しておれば、それこそが、大事なのではないかということである！よく言う、「やりがい」ということにもなろうか?!

ただし、例えば、それらが制度で縛られる、誰かの指示（命令？）で強制されたりするものであれば（実際には、そういうことが多い？）、やはりそれはおかしいと言わなければいけない！しかしながら、通常言われている「専門職」あるいは「（通常の？）労働者」という位置づけだけで、現実の仕事（業務？）が成り立つとは、とても思えない?!

では、実際は、何だと言えばよいのか?!結局は、その本人が、どう思うかで

あるとしか言えない?!、ということになるが、そうした状況において、これまで私の教え子？達は、一応教員あるいは社会教育主事等の、教育関係職員を目指して卒業していった（はずである?!)。教員としては、ほとんどが小学校ではあるが（残念ながら？中学校の教師はいない！)、高校の教員も、何人かはいる！社会教育主事については、専門職的に働いている者もいるが、ほとんどが一時期のみの（出戻り的なものも含めて）担当ということになっている！

だが、よく考えてみると、近年では、一般の行政職に就いている者、あるいは民間（ＮＰＯ法人とか）で働いている者も多くいるし、中には自分で学習塾？を経営している者もいる！一応彼らは、ほとんどが教員免許状を取得し、卒業していったはずだが、何故か？教員になる（った）者が、少ないと言えば、少ないのである?!

いずれにしても、大学入学の時は、たとえ漠然としたものであっても、教員ないしは教育関係職員を目指していたと思われるが、結果的には（これから変わることもある?!)、そうした道に進んでいない者が多くなっているのである?!この間、彼らに、どんな思いや人生選択の岐路があったのか？

私から見ると、明らかに向いている、あるいは是非この道で頑張って欲しいと思う（った）者が多々いるのであるが、実は、そのようになってはいないということでもある?!（もちろん、まっしぐらに、その道に突き進んでいった者もいることはいる！）

その原因？としては、例えば教育実習での悪しき？体験（普通はその逆が大きいはずだが?!)、それともそれをきっかけとして、本当の？自分のやりたかったことへの目覚め？があるのかもしれない?!あるいは、希望ややる気をもっての入学であったとしても、大学での学び、その延長上のゼミ活動、あるいはその対極にある部活やバイト、そこにおける人との出会い、新しい世界の発見？とかが、当初の思いや希望を変えていく（った）のかもしれない?!

ただ私は、それらが、彼らにとって、真に前向きの方向転換ならば、それはそれでよいと思うが（教育学部の教員としては、それ自体は微妙ではあるが？)、もし教育現場への失望感や幻滅感？がそこにある（った）ということであれば、何ともやるせない?!彼らに、否、そうした彼らだからこそ?!、教育現場に行って欲しいのである！

その上で、件の「納得」は、実は永遠には続かない?!切れる時だってある?!あっていいのだ！と、伝えたいのである！永遠に？素晴らしき教育者もいるであろうが、私は、そういう人達を目指して欲しいわけでは決してない（自分のことを正当化しているようでもあるが?!）！自分を偽り続けてまで、そして、自分の身も心もボロボロになるまで（ひょっとしたら、家庭まで？)、いい人を演じる必要はないということである！

（11 月 6 日）

㉓ 近未来の教育?!学校教育制度の「相転移」は、実は目前?!何故?!

周知のように、我が国の教育、多少専門的に言えば、いわゆる近代学校教育制度がスタートしたのが、1872 年（明治５年）である。この間、幾多の紆余曲折あるいは不幸な？出来事があったにしても、全体としては、質・量ともに、一応成功を収めたとは言えるであろう?!

識字率、就学率等の高位、学問あるいは科学技術等の飛躍的な進展、経済活動の発展や社会制度の充実等（もちろん、地域や個々人の状況においてはかなりの凹凸があり、それらすべてが肯定的に受け止められるわけではないが?!）、それらはすべて、この近代学校教育制度の賜物？であったことは間違いないであろう?!まさに、教育、否、「学校の力、恐るべし！」ということでもある?!

要は、それ以前までは、極端に言えば、人類が社会生活を始めて以降ということになるので、途方もなく長い年月の間ということになるが（もちろん、その近代学校教育制度以前にも、それに相当するものが、部分的にではあるが、徐々に出現していたことは事実であるが）、我々が当たり前にあると思っている「学校」、別な言い方をすれば、一定の期間、すべての子ども達が、そこに行くことを義務づけられ、それ以降も、ある時期（年齢）に至るまでは、能力や意思あるいは親の財力等によって、かなり多様にはなるが、そこもまた、「学校」という名の教育機関を創り、対処するというしくみはなかった（or 十分ではなかった）！

しかし、我々人間社会は、いつのまにか、半ば当然（必然？）のように、それを創り上げ、その成果を大いに享受しているということである?!そう！、学校は、人類の英知の一つとして発明され、今や人間社会の必需品？として、今日に至っているのである?!

しかしながら、それでもこの間（ある意味ほんの短い期間でもある?!）、徐々にそのしくみに陰り、行き詰まり？が見え始め、近年様々な弥縫策?!（敢えてここでは、そのように表現させてもらった！）が採られているが、なかなか、その抜本的な解決や明るい未来を予感させる兆候は出て来ていない?!

こう言うと、上から目線、あるいは当事者意識を感じさせない物言いになっているようにも思うが、いじめ・不登校、その先にある？引きこもり、はたまた自死？、一方では学力の剥落、学習意欲の減退、多種多様な学習障害の露呈?!、さらには「生きて働く知恵（生きる力）」の脆弱等、これまで成功を享受してきたはずの「近代学校教育制度」は、関係者の尽力（予算等の導入、入試・カリキュラム・指導方法等の工夫・改善、教員養成制度の改革？等）によって、必死に対処されてきているようであるが、なかなかその求めるところには、至っていないのではないだろうか?!

そこで、思うのである！それは、ひょっとしたら、この「近代学校教育制度」それ自体が、ある意味破綻（と言うより、この間の役目を終えた?!）ということではないのか?!端的に言うと、次代を担う子ども達全員？を、人生の早い一時期

に、「学校」というところに「集め」（囲い込み？でも、保護の機能もある?!）、集約的・効率的に勉強？させるという、その役割自体を、時代の推移、社会状況の変化の中で、もうそれ以上は、うまく果たせなくなっている?!特に、我が国の場合は、あまりにも「学校教育への依存度」が高く（知育・徳育・体育のすべて?!）、その機能麻痺、さらには機能不全が、一気に噴き出してきているということではないのか?!

だから、結局は、多くが「弥縫策」とならざるを得ない?!「子ども達を、良かれと思って、どこか一定の場所に集めて、特別な時間と空間を与える！」というこのしくみが、今やそのメリットよりは、デメリットの方が凌駕しているのではないかということでもある?!その意味で、学校は、ある種の「相転移」が、必要なのかもしれない?!

ちなみに、「相転移」とは、元来は物理学（熱力学）の用語（物質が、ある状態から、まったく別の位相の状態に移行すること）であるが、その考え方を参考にすると、ここで言う「学校」（近代学校教育制度）の相転移とは、近代社会（国家）が創り上げてきた、（そこで生まれ、育つ子ども達の）教育を全て引き受ける「学校」中心の教育・学習のしくみを、根本的に創り変えていくことを意味する?!

今、考えていることは、地域社会あるいは大人社会の生活ないしは関係の枠組みの中に、直接子ども達を入れることであるが（学校成立以前では、まさに生活それ自体が教育・学習の場であり、関係であった?!）、もちろんそれは、過去への逆行ではなく、様々なツール（「ＩＣＴ」あるいは「ＩｏＴ」等）も駆使した、しかし、本来の？教育・学習のしくみ（状態）に作り変えるということである！

なお、これまで、そのことを予感させるものとして、生活科や総合的な学習の時間の新設、インターンシップや職場体験等の導入、道徳の強化（準教科化）、そして最近年のアクティブ・ラーニングの唱導、あるいは放課後子ども教室、地域を巻き込んだ土曜事（授）業、さらには学習支援員や、その他の学校支援ボランティア等の導入、またさらには、それらを包括する「チーム学校」や「コミュニティ・スクール」「学校支援地域本部（→地域学校協働本部）事業」等、地域とのつながりやそこへの協力依頼を、より強く求める、あるいは新たな関係・状況を創り出そうとする動きが顕著となっている?!

こうしてみると、学校にすべてを任せる、あるいは学校それ自体で自己完結する教育・学習の営みが、確実に？方向転換を余儀なくされているというようにも言える?!これを、まさしく学校の「相転移」の兆候と言わずして、何と言おうか?!制度疲労、行き詰まり、限界、etc.様々な形容で、その問題点や課題が指摘されてきて久しいが、この、これまで実に見事であった？近代学校教育制度は、まさに自ら、その「相転移」を、求め始めているとも言えるのかもしれない?!

（11 月 9 日）

㉔ 「生涯教育」は、近代学校教育制度の「相転移」を前提とする?!

さて、流石に㉓のテーマは、本コーナーの定形（１テーマ１ページ）では、その真相を描くことは難しかったようにも思える?!しかも、「相転移」というような、ある意味「おどろおどろしい？」表現を使ってしまったことに、多少の反省もないことはない?!

要は、そこにある原理的なものの「変更」あるいは「再構築」？（「潔い？受入れ」?!）の必要性を述べたつもりではあるが、そうは言いながらも、その具体的なイメージ、少なくともその大きな骨格？くらいは示せないと、単なる言葉遊び・戯言？として、失笑を買ったり、逆にお叱りを受けたりすることにもなりかねない?!

そこで以下、その続編の意味合いも持たせて、標記のテーマを掲げ、改めて近代学校教育制度の「相転移」（の必要性！）について、その意味するところを述べてみることとしたい。まず、そもそも生涯教育、すなわち教育制度の「タテの統合・ヨコの統合」を求める理念の導入は、期せずして？、近代学校教育制度の「相転移」を求めるものであった（る）ということである?!

残念ながら、これまでのところ、その理念は、学校外あるいは学校後教育、すなわち社会教育の方にだけ目が向けられ、本来的に求められる教育全体の統合理念とは、なり得ていないようであるが、以前から述べてきたように、「生涯教育」は、ここで言う近代学校教育制度の「相転移」の鍵概念、すなわち「次代を担う子ども達を、ある一定期間、『学校』というところに『集め』（囲い込み？→保護の機能もある?!）、集約的・効率的に勉強？させるというしくみ」、まさに「人生の早い一時期のみに集約された、学校教育中心の教育制度」を改め、人生のあらゆる段階において（life-long）、そして生活の全範囲において（life-wide）、人々の学習を支援・鼓舞するしくみを創り出そうとする考え方だということである！

すなわち、繰り返しになるが、その理念は、事実上は、いわゆる「社会教育」の世界の話だとか、たとえそれが学校教育にも関わるものであっても、何か雲を掴むような話で、「タテの統合」や「ヨコの統合」が必要だと言っても、具体的に、何（どこ）を、どのようにしていけばよいのかが、分からなかった?!（否、分かろうとしなかった？だから、「相転移」なる物騒な？言葉を用意したのでもある！）

そういうこともあって、とにかく「生涯教育」は、近代学校教育制度の「相転移」を前提とするものではあるが、実際上は、これも何度も主張してきたことであるが、理念を、言わば上段から被せるのではなく、目の前にある様々な課題や問題点を、個別・具体的に解決していく取り組みやエネルギーに集約して、まさに実感として、あるいはより目に見えるような形で、システムづくりや事業・プログラムを展開していくことが、重要であるとしてきたのである?!

それが、現在、その学校内部で進行する動き、例えば、幼少連携・小中一貫・

中高一貫・高大連携といった動き（→タテの統合）、あるいは学社連携・融合／学校・家庭・地域の三者連携、公開講座・社会人入学、民間活力の導入・産官学連携等の動き、そしてまた、生活科や総合的な学習の時間、インターンシップや職場体験等、そして最近年のアクティブ・ラーニング、あるいは放課後子ども教室、地域を巻き込んだ土曜事（授）業、さらには学習支援員や、その他の学校支援ボランティア等、さらにはまた、それらを包括する「チーム学校」や「コミュニティ・スクール」「学校支援地域本部（→地域学校協働本部）事業」等（→ヨコの統合）ということである！

だが、そのように機は熟しているのに?!、まだその自覚？は希薄?!つまり、現時点においても、これらはすべて、地域とのつながりやそこへの協力依頼を、より強く求める、あるいはその新たな関係・状況を創り出そうとする動きではあるが、それらが、「生涯教育」の理念に合致するものとは、思われてはいないのである?!

しかも、一方でまた、近年においては、限りあるヒト・モノ・コト・カネを有効に活用し、個々人の人間としての成長・発達、そして社会全体の維持・発展のための連携・協力活動のしくみを、その地域社会の上に、創り上げていくことが求められているということがある（→地域づくり・絆づくり）！改めて、地域社会は、他ならぬ、そこに生まれ、そこに生きる人達の生活の場、必要な知識や技能の習得の場、あるいはそこにある文化や経済活動の継承・発展の場でもある！

しかし、それは、旧来の閉ざされた社会ではなく、物理的にも、機能的にも、まったくの開かれた社会（コミュニティ）でなければならない！だが、まだまだ上述の動きは、学校での、子ども達の教育・学習だけに目を向けるものであり、そこで創り上げられる様々な人達のつながり、あるいはその人達の学習や交流、さらには生きがいつくり等にもなっているということは、あまり注目されてはいない（それが、「弥縫策」の域を越えられない要因？）。そこが、何とも、歯痒いのでもある?!

そういう中で、今回、思い出したことがある！実は、かつて「合校」という、午前中は「学校」、午後は「学校外」、すなわち「地域」に出かけ、思い思いの学習を、各自が行うというしくみが提案されたことがある（「経済同友会」の提唱であったこともあって、今は、ほとんどその動きは見えていない?!）。

冷静に捉えると、そのエキスは、先に列挙した取り組みに、ある種の示唆を与えるものと、言えなくもない?!要は、学校という場所に、少なくとも物理的に、すべて集まる（集める？）必要はないということである?!遅ればせながら、ここに、一つの姿・形が見えているようにも思える?!とにかく、今必要なのは、そうした、その具体的な姿・形なのである?!

（11 月 14 日）

㉕ 「コミュニティ（協働）性」、その内と外へのベクトルの超克を?!

先の㉓と㉔を受けて、ここで改めて、「近代学校教育制度」の「相転移」の意義と、その方向性を考えてみると、単純には、インターネットの世界（ネット社会）と目前にある現実世界（地域社会）の、いい意味での「融合」が必要となる?!

何故なら、それは、時間と空間の、より有効な組合せの問題、つまり特定の時期・時間帯に、特定の場所に集まり、特定のメニュー・カリキュラムを、特定の人間関係（教師－生徒）で行うという、これまでの枠組みを変えるということだからである?!

ここでもまた思い出されるのが、生涯教育論の一角として一世を風靡した、イワン・イリッチの「脱学校論（deschooling)」(『脱学校の社会』、1970 年）である！そこでは、「learning web（学習の網状組織)」「learning exchange（学習交換)」「educational brokering（教育仲介)」が提唱されたが、それは、あたかも今で言う、ネット上での様々な情報やコンテンツのフロー（流れ・遣り取り）と言えなくはない！ただし、彼は、今我々が目の当たりにしている「ネット社会」を、その前提としていたわけではない！

とは言え、少なくとも技術論的には、結果的に、このことを予想（予言？）していたと言えるのかもしれない?!すなわち、(ネット上で) あることを必要とする人とその必要を叶える（たい）人、まさに需要と供給の関係の中で、情報あるいは現物の遣り取りが、ある意味自由に行われるということである！

そこには、いわゆる「ビジネス」として、あるいは広くボランタリーな活動として動いているもの等、様々にあるが、いずれにしても、そこに教育・学習的な要素が介在しているならば、それらはすべて、イリッチの言う「learning web（学習の網状組織)」「learning exchange（学習交換)」「educational brokering（教育仲介)」が、そこで実現しているということにもなるであろう?!

当時の私は、彼の主張（理論)、あるいはその背景にあるもの（近代学校教育制度への批判?!）には賛同したが、それに替わる上述のシステムについては、少なくとも論理的には、首肯できるというようにしていた（「実際上は、受け入れ難いものがあった」という意味である?!）！そのことを、改めて今、自らの考察の俎上に上らせようとは、自分自身でもかなりの驚きではあるが、やはり今、それは避けては通れぬテーマとして、復活してきたということにもなるであろう?!

では、改めて、何が問題であったのか?!それは、ごく簡単に言えば、そういうシステムを作ってしまえば、各自が生きて、生活をしている場所、他ならぬ「地域（コミュニティ)」それ自体が瓦解するのではないか?!すなわち、各自が、思い思いに動き、必要なものを、必要な形で調達？できるようになれば（まさに自由市場経済化？)、その地域（コミュニティ）の存立、あるいはその存立基盤自体が崩れていくのではないか?!そして、その「地域（コミュニティ)」が瓦解してしまえば、それこそ、そこでの教育・学習論議どころではなくなるということ

であった?!地域(コミュニティ)は、まずは人々の生活の場でなければならない！

ちなみに、そういう意味で、これとはまた違う文脈ではあるが(「競争原理の導入?!」)、例の「学校選択制」は、実は同じような危険性を、一方では孕んでいるのである?!

要するに、その地域（コミュニティ）に働く、まさにそこに必要な「コミュニティ（協働）性」への内向きと外向きのベクトル（力）が分断され、そのバランスが崩れるということである（二極分化？）?!

そういう意味では、改めてその超克のシステムを、実際の地域社会の中に、どのように具現化させればよいかということが、特にインターネット社会の進展の中で、大きな課題となっているということである?!大きな話とはなるが、学校教育制度も含めて、近代社会（国家）は、その基礎単位であった、人々の地域(コミュニティ＝村落共同体？)を、ある意味壊す方向で動いてきたとも言える?!

その極みが、実は、最近年の「グローバリゼーション」の未曾有の拡大であり、それに対応（反動？）する、各国・各地域の保護主義的な動き（ネオ・ナショナリズム／ローカリズム?!）であると思われるが、その構図は、まさにその基礎単位である「地域（コミュニティ)」においても、厳然と、しかもかなりの不安定さを内在させて、形作られているのでもある?!なお、外向きのベクトル(力)は、地域（コミュニティ）を開く（ある意味崩壊させる？）方向で動く！

したがって、基本的には、その地域（コミュニティ）にある（伝統的に守ってきた？）内向きのベクトル（力)、それは人々の結びつき、内部への凝集性（最近では、「縁」と呼ばれる?!）であるが、それを弱める（消滅させる？）方向に動く?!

その生々しい現実が、学校の消滅・統廃合であり、その背後にある過疎あるいは限界集落等の、地域（コミュニティ）の崩壊なのである（間違いなく、それらは相応の関係にある?!）！

ということで、我々の生活の基礎単位である地域（コミュニティ）の「コミュニティ（協働）性」の内向きと外向きのベクトル（力）を、新たな？制度に、どのように組み込ませるか？

しかも、それは、当然「生涯教育」の理念を実現させることも含まれている?!皮肉にも？イリッチの言う「learning web(学習の網状組織)」「learning exchange（学習交換)」「educational brokering（教育仲介)」が、一方の、外向きのベクトル（力)、いわゆるグローバリゼーションやネット社会においてのみ実現されることになれば、誠に悩ましい現実となる?!

だが、このことは、ある意味仕方がないことであり（宿命的？)、地域（コミュニティ）は、教育や学校のためにあるわけではない！まずは、人がそこに住むということが、前提である！

だから、勇気と知恵が必要なのである?!

（11 月 17 日）

㉖ 今、見え始めてはいるのだ?!改めて、教育行政に期待するもの?!

とにかく、先にも述べてきたように、「教育」、表面的には「学校教育」？を巡る状況は、ほとんど「臨界」とも言える状況であることは、ほぼ間違いないであろう?!したがって、そうした状況の中での教育の舵取り、現実に生起する多種多様な問題・課題への対処を、「行政」という立場（任務？）で、どのように行っていくのか?!

（法律・条例等に基づく）制度や施策・事業の運用あるいは企画・実施という、基本的なスタンスは変わらないであろうが（否、変えてはならない?!）、本当に「教育行政」は、とてつもなく大きな試練・関門の前に立たされているのである?!「『教育行政』よ！どこへ行く」、まさに、そのようにも言えるであろう?!

ところで、そんな状況において、地域社会における「ひとづくりとまちづくりの双方」を、自らの課題（使命？）として、より良いものにしていこうとしてきた「社会教育行政」にとっては、その意味で、二重の困難・課題に直面せざるを得ないであろう?!もちろん一つが、「ひとづくり（教育）」という面（要素）で、もう一つが、「まちづくり（地域づくり→地域活性／地域創生?!）」という面（要素）で、である?!

ただし、冷静に捉えてみると、現場で必死に頑張っておられる関係者には、大いにお叱りを受けることにもなるが?!、ある意味、社会教育行政は、本来的にそうした課題性（性格？）を有しているのであり、実体的には常に、ある種の「二律背反（アンヴィバレンス」にあるとも言えるのである?!

ただ、これまでと違うのは、そこにまた、特別な事情（現行の学校教育がある種の臨界点を迎えている→地域社会に様々な要請・依頼が来る?!）が架上しているということである?!

そこで、であるが、このコーナーで機会ある毎に紹介しているＮ市とＵ市の教育委員会のみなさんは、上記からすると、改めて、本当に難しい（辛い？）仕事（任務？）を引き受けて、やっているということになるわけである?!

尤も、事実上は、私が関わっている事業・取り組みから見たということになるが（ならざるを得ない？）、前者は、ある中学校区における「各学校と地域（社会教育）との連携・協力のプログラム・しくみづくり」、後者は、一応その成果とインパクトは、それなりのものを残してきた「市民大学」というものの、「今後のあり方」を検討するということである！

だが、それは、表面上の、あるいは眼前の（直接的な？）課題（任務？）として、である?!したがって、実際の担当者・関係者は、目の前の課題・プログラムの遂行でよい（そのこと自体でも大変な仕事なのではある！）、あるいはそういうことは、本当は、我々の直接の仕事・任務ではない（ある意味、そうとも言える?!）と思っている人等々、いろいろであろう?!

しかし、実は、それらは、これまで述べてきたような現状を受けての課題（任

務？）であることは、多分（ここがミソであるが？）間違いないのである?!

さらには、例えば、経済・産業、労働・福祉あるいは観光・環境・消費・男女共同参画といった課題（部局）においても（これが、一般行政、つまり首長部局の所掌事務、言い換えれば「まちづくり」）、ある意味当然であるが、人々の意識や行動を変える、あるいはそれらの動きやエネルギーを、そこに組み込むという流れが求められ、一方でヒト・モノ・カネの逼迫で、その動き・流れが増幅させられている（「協働のまちづくり」等の動きは、まさにそれを象徴している?!）?!

故に、その「まちづくり」「ひとづくり」の双方に関わる「社会教育（行政）」への期待も高まるのであるが、現実にはスタッフや予算は減らされ、仕事は増え、過剰な期待となる？だから、ボランティアや嘱託職員の配置、さらには指定管理者の導入等が進められることになるわけである?!

その上、一方で、社会教育行政には、教育行政（の一分野）という位置づけ、枠組みの中で、それを遂行していかなければならないという、さらなる過重・ジレンマが襲ってくる?!行政委員会という形の、一般行政（首長）部局からの、ある種の独立を担保されている組織ではあるが、その本来の立場（任務？）からすれば、苦労するのは、当然と言えば当然なのでもあるが、そこには、やはりこれもまた「相転移」？、つまりこれまでの立場や役割を、改めてどのような形、位置づけで遂行すればよいのかを、自ら模索しなければならないのである?!

しかし、それを、ある時期のように、「生涯学習体系への移行」とか、市民の学習の鼓舞、あるいはその成果の活用という「生涯学習のまちづくり」とかという、ある種の「牧歌的な」施策・事業の提案だけでは（たとえ「まちづくり生涯学習」というスローガンを前面に出したとしても?!）、甚だ困難なのでもある?!

ということで、改めて問われる（言い換えれば、自らが「覚悟」を決めなければならない？）のは、何故、「生涯学習の推進」あるいは「地域学校協働活動」を、他ならぬ「教育行政」で担うのか、そこを、自他共に認め合える「組織、施策・事業体系」、そしてここが重要となるが、そこで働く「ヒト」、つまり専門的な職員・スタッフの養成・配置を、どのように行うかということである?!

そうした視点や課題意識を、今行っている施策・事業に、どのように反映させているのか、否、今後どのように反映させればよいのかということが、最終的には求められるということである?!今やっていることだけを、視野狭窄？でやってはいけないのである?!もちろん、そのことは、大変難しいことなのではあるが…?!

ということで、かなりの激しい？投げかけとはなったが、N市のみなさん、U市のみなさん、そうは言っても、結局は、「やれることしか、やれない！」のです?!どうせやるなら、せっかくやるなら、明るく、楽しく！そして、いつでも、愚痴なぞ零して下さい！待っています！

（11 月 19 日）

㉗ 本当の「地域づくり」とは?!「だいだらぼっち」が教えるもの?!

先週、信州下伊那地方・長野県泰阜（やすおか）村に在する「だいだらぼっち」の、30 周年記念祝賀会に顔を出させてもらった。ただし、その祝賀会場自体は、近接の飯田市であった。「だいだらぼっち」とは、当地の民話に出てくる大男・鬼の名前であるということであるが、多分？、「強くて、逞しい子どもに育って欲しい！」という思いで、最初の人（達？）が名づけたのであろう?!

現在の団体名称は、「NPO 法人　グリーンウッド自然体験教育センター」であるが、とにかく、この村、このセンターでの取り組みで注目されるのは、「ひとづくりとまちづくりの循環」ができていること、そして、それを、いわゆる「学校教育と社会教育の融合＝学社融合」という形で実現していることである！

そこで若干、この間の歩みを見させてもらうと、まず「１年間のキャンプがしたい！」という子ども達の声を受けて、７人（４人の子どもと３人の大人）が集まって始めたのが、「暮らしの学校だいだらぼっち」（一種の「山村留学」）であったそうである（現在 500 人弱の卒業生がいる！）。

今、パンフレットには、「誰もが安心して暮らせる（→「あんじゃねぇ」な）社会を創るために、わたしたちは『ひと』を育てます。」とある。詳しいことは省かざるを得ないが、その中心理念が「ねっこ教育」とあり、それは「暮らし」という必然の経験（「体験」）から育てる教育とある。そして、そこで育てる３つの心が、「感じる心」「楽しむ心」「生み出す心」とある。

特筆に値するのは、「暮らしから学ぶ　ねっこ教育」として、幼児（親子）：森のようちえん「まめぼっち」、小・中学生：夏の信州こども山賊キャンプ/冬の信州こども山賊キャンプ/暮らしの学校　だいだらぼっち、高校生・大学生：夏の信州こども山賊キャンプボランティア/冬の信州こども山賊キャンプボランティア/青年教育（大学との協働事業）/教師・指導者育成プロジェクト、社会人・家族（親子）：安全教育/書籍出版、地域：講演・講師・ファシリテーター派遣/見学・教育セミナー/企業・団体との協働（ＣＳＲ）、という形で整理されている、幼児からお年寄り？までを対象とした、各種の教育プログラム（教育・学習のしくみ）である！

何故、そうしたプログラムやしくみが出来上がったのか、その時々の声や思い、必要なことを、それこそ一つ一つ実現させていった結果が、そうなったのか、それとも、最初から（事実上は、その過程において?!）、そうしたことを企図してきたのか、少なくとも資料等を見ると、前者のようであるが、それはともかく、我々が評価？しなければならないのは、結果として、その取り組みが、「ひとづくりとまちづくりの循環」を形成しているということである?!

つまり、そこには、何のために生きるのか、何のためにそこで暮らすのかという、まさに我々人間社会の究極の目的に照らし合わせた時、二つの要素、すなわち「ひとづくり」と「まちづくり」の双方が分かち難くつながっていると

いうことであり、一方ではまた、その目的を実現するためには、現在（の日本社会の状況）においては、子ども達の教育（の立て直し？）を中心にした、そこにおける人々の交流や協力関係が、結果的には、その土地（住んでいる所）の存続、地域活性にもつながるという事実なのである?!

ここが、今現在、国・文科省が大いに推奨している「地域学校協働活動」にも、是非つながって欲しものである?!

ここで、もう一つ思い出されるのが、島根県隠岐島の海士町である！ただし、どちらについても、私自身は、ほんのちょっとしか知らず（直接の訪問も、たった一度！）、こうした形で紹介するのも、ある意味申し訳ない（失礼に当たる？）ことと思いつつも、過疎に喘ぐ農山村・離島、日本の高度経済成長とは裏腹に?!、人口が減り、ある意味「衰退社会の最前線？」でもあった双方の地域、そこに共通しているのは、実はまったく強かな！、外部からのキーパーソンが流入・活躍しているということである！

最近は、ほとんど会うこともないＩさん達であるが、そう言えば、ある時訪れた時にお世話して頂いたのも、これもまた、全国を股に？飛び回られている、「学校と地域の融合教育研究会（「融合研」）のＭさんであった！「人が人を呼ぶ！」ということであろうが、本当にそういう人達が、全国には沢山いるということでもある！

今の私には、そうした人達に対して、多少の気恥ずかしさと申し訳なさ？を感じるが、とにかくそういう人達がいるからこそ、多くの自治体や集落が、ある意味救われていると言えるのかもしれない?!もちろん、受け入れ側の実力？もあろう?!

なお、これらに関しては、過疎や限界集落、学校の存続ないしは統廃合問題、都市と農村の交流（いろんな表現があり得るが！）、定住人口と交流人口、Ｕ・Ｊ・Ｉターン（Ｓターン？）、（若者達の）流入・移住、一方では、豊かな自然、地場産業、山村留学、生活体験学校、通学合宿等、キーワードは数限りなくあるが、この「だいだらぼっち」、すなわち「NPO 法人　グリーンウッド自然体験教育センター」の取り組みには、我が国の地域活性化策のほとんどが、期せずして？取り込まれて（融合して）いるようにも思える！

さしずめ、このセンターは、僻地？山間部ではあるが（逆に、そこだからこそ?!）、ヒト・情報、さらにはモノ・カネ？までをも結集させる、ある種の「グランドセンター」（総合商社？）の役割を果たしているのかもしれない?!だが、やはりここで押さえておかなければならないのは、その（思いをもった！）人達が、そこに入り、そこに生きている（暮らしている！）ということが、まずは、その前提にあるということである！

本当に、頭の下がる思いである！

（12 月 1 日）

㉘ 今こそ?!、「生涯教育（研究）」のレゾンデートル（存在理由）が?!

先週末（12/３～４）、日本生涯教育学会第 37 回大会に行ってきた！会場は、今や恒例の、東京上野公園の一角？にある国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（本当に長い名前である！）である。かつての私の職場でもあるが（昭和 59 年６月～平成２年３月）、今年は 12 月の開催でもあり、かなりの寒さ（雪も？）を覚悟していたのであるが、まったくの杞憂であった（むしろ暑い？くらいであった！）。

現在私が所属している学会は、実はこの学会だけであるが（それなりの理由はある?!）、年に一度、ある種の里帰り？も兼ねて、ほぼ毎回参加させてもらっている。副会長や評議員（こちらは現在も！）もさせてもらってきたが、昨年からの私自身の身辺・心境の激変？もあって、そろそろ卒業？しようとも思っていたが、会長（当日まで！）のＡ先生から、お引き留めのラブコール？もあり、もう少し続けてみることにした!これについては、何とも優柔不断な？私ではある?!

とまあ、こんな状況の中での参加ではあったが、今年も、様々な発表・研究課題（タイトル）が出されていた！もちろん、物理的にもすべての発表を聞くことはできなかったが、今回私が秘かに期待していたのは、大会テーマでもある「生涯学習社会における学校と地域の連携・協働－『学社融合』論からの 20 年と今後の展望－」の下に開かれた、「生涯学習政策研究フォーラム」であった！

文部科学省生涯学習政策局Ｎ社会教育課長、秋田県由利本荘市のＳ教育長、東北学院大学のＭ教授を登壇者として、国・文科省の政策動向、地方の教育行政（教育長）の考え方や動き、そして研究者の立場からの事例報告・分析と続いたが、残念ながら（失礼だとは思うが?!）、目新しい刺激・発見に至るものは、あまりなかった?!ただ、やはりＳ教育長さんの、長きに亘る苦悩（度重なる学校の統廃合等）と、その中での確固とした取り組み・思いには、改めて胸を打たれるものがあった！

ところで、本学会が「研究対象（課題）」としている「生涯教育」というのは、そもそも何なのであろうか?!概念の曖昧さ（多義性？）、一方で、その用語を使用する大学の教育組織等の縮減や廃止の中で、改めて本学会は、何を、そのレゾンデートル（存在理由）とすればよいのであろうか?!しかも、詳しいことは分からないが、（生涯）教育・学習に関わる学会（協会等を含む！）は、かなりの数に上っている?!以前は、教育関係の学会は、いわゆる「日本教育学会」を頭に、その傘下・枝学会？として（発展としての専門分化?!）、一定の成層構造をなしていたように思うが、現在はどうなっているのだろうか?!

とにかく、様々な名称、目的を有する学会等が、ほとんど相互の脈絡もなく、枝分かれあるいは乱立しているのであれば、それは、決して好ましいことではない?!どこの学会でも、本人の自由意思で、どんな研究課題・テーマも発表で

きることは良いことであろうが、まさに乱立、あるいは総体としては停滞している状況にあるならば（からこそ?!）、改めて何故、本学会が「生涯教育学会」であるのか、その存在理由（レゾンデートル）を、真摯に？問わなければならない?!

そこで、その、そうした中での本学会の役割・任務（俗に言えば「ウリ」？）とは何か？実は、このことは、私だけではなく、心ある多くの本学会関係者が、長年に亘って追究？し続けてきたことではある（会員の減少・伸び悩みと連動して?!）。だが、ある意味今（だから?!）こそ、それを発揮（実現？）するチャンスなのかもしれない?!と言うのも、それは、いみじくも？今回の大会テーマが、「生涯学習社会における学校と地域の連携・協働」とあるように、現在、いわゆる生涯教育が目指す「タテの統合」「ヨコの統合」の課題・目標、すなわち学校教育と社会教育の合力の必要性（「融合」から「協働」へ！）が、政策課題的に意識されてきているからである（期せずしてではあろうが？）！

ちなみに、「生涯学習社会」は、その目的論であり、「学校と地域の連携・協働」は、それを実現するための、言わば方法論である?!もちろん、これは、実際（表面？）上は、子どもの教育・学習における「学校と地域の連携・協働」に焦点化はされているが、しかし、それは、同時に「生涯教育（研究）」のメルクマール（目印→統合 integration へのパースペクティブ！）を、具体的に提起しているとも言えるのである?!

現状ではまだまだ、関係概念や研究の枠組みが、十分には共有化されておらず、種々雑多な研究あるいは実践の対象・スタンスが混在している？本学会であるが、ここにおいてやっと？、「生涯教育（研究）」の独自の役割・任務（「ウリ」！）として、「どういうスタンスや成果が、それとして評価され得るのか」という視点ないし評価の枠組みが、確実に共有化され得るということである！

別言すれば、表面的には、新たな（別な？）課題と見える？「学校、地域、（家庭）の連携・協働」（施策・事業やしくみづくり→「教育協働」）の動きではあるが、「学社融合」の「社」が何であるのかとか、そうした部分の研究（概念規定）も新たに加え、学校教育と社会教育の連携・協働に関わる政策提言や課題の分析・提示を行うという視点やスタンスが、改めて本学会の生命線（ウリ？）となるのではないか、そして今、それが、一つの形として顕在化してきているということである！

これからも、様々な研究あるいは実践が出てくるであろうが、それが、たとえ学校教育の分野（から）であろうが、あるいは社会教育の分野（から）であろうが、さらには、表面的にはそれらとは違う分野（から）であろうが（福祉とか、まちづくりとか）、そこに教育・学習のあり方（「統合」の要素）を提起するものがあれば（施策・事業・プログラム・しくみ等）、それらはすべて、「生涯教育（研究）」の対象であり、テーマとなるということである！　（12 月 8 日）

㉙ 確実に見えてきた！「教育協働」の形?!後は、誰がどのように?!

過日（12/９）、第 6 回目の教育協働研究会を行ったことは、本コーナーの別シリーズ（「東シナ海眺望記」㉘）に書いたとおりである！本来は 11 月に行う予定であったが、スケジュールの都合で、今月にずれ込んでしまった！しかも、今月（12/23）は、もう一つ第７回（那覇市との共催）が控えており、卒論作成真只中のイノベーション Next（４年次）には、多大な負担とプレッシャーをかけることになる?!

だが、ある意味、それが大一番とも言えるので?!、大変申し訳ないとは思うが、やるしかない?!しかも、今回は、那覇市の皆さんが、やる気を見せている?!そこが、新たな期待であり、楽しみでもある！泣くな、愚痴るな、若者達！何とかしようぜ?!

ただし、その前に、ここで、第６回の研究会について、私なりの総括を行っておきたい！全体のテーマは、「今一度考える！教育協働について‼～社会教育側の視点から～」であったが、当初、一体どうなるのかと、正直かなりの心配をしたが、最終的には、うまくいったのではないか?!と言うのも、第一部を、別途、非常勤講師のＹ君（ゼミＯＢ最長老？・Ｋ小学校教頭）にやってもらっている、「社会教育計画Ⅱ」という授業の発表会の一部（二つのグループの発表！）として行ったために、趣旨・内容的に、少しちぐはぐな？部分が出てしまった（当初、本当は別のねらい、別な期待もあったが？）！

つまり、第二部で、「『教育協働』は進んでいるのか?!」ということで、ゼミ？４年次Ｏ君の、インタビュー（動画）を組み入れた事例発表を下に、これに関する討議・意見交流を行ったが、一部と二部の連続性・関係性という点では、かなりの懸隔があったということである（当然予期していたことで、ある意味仕方がないし、しかも、学生のせいではまったくない！）。とは言え、改めて、全体としては、受講学生の多数の参加（２年次＋３年次）もあり、大いに盛り上がった研究会とはなったということである！

いずれにしても、今回の成果としては、もちろん学生達（特に、４年次のＯ君）のふんばりと頑張りがあるが、まさに「教育協働」の、一つの具体的なあり方が、「確実に見えてきた！」ということであろう?!それは、端的に言えば、公民館と学校と地域で形づくる「ネットワーク」（「プラットホーム」と呼んでもよい?!）による、展開の仕方ということである！

事例的には、Ｎ市Ｈ公民館の取り組みが挙げられたが、要は、その地域、基本的には「学区」（その中でも「中学校区」が望ましい！）、これを、「スクール・コミュニティ」（学校を核とした、あるいは学校を介在させた「地域コミュニティ」という意味！）として位置づけ、そこにおける学校と社会教育施設（望ましいのは「公民館」であるが、実態的には、「児童館」のような施設でもよい?!）、そして地域が、言わば「三位一体的に関わるしくみ」が、そこに形成されているということで

ある！そしてそれを、行政、もちろんそれは、教育行政！望むらくは、学校教育と社会教育の融合行政の形で、バックアップしていくということである！

ただし、この形は、同じＮ市のＷ公民館（地区）でも形成されており、とにかく、その形が、まさに「ひとづくり（教育）とまちづくり（地域づくり→地域活性・創生？）の循環づくり」の必要性（今や「必然性」?!）を、具現化したものであるということである！ちなみに、他県においても、このようなしくみ・取り組みの形は、かなり顕著となってきており、いよいよこの方向性が、加速度的に広まっていくことと予想される?!沖縄県も、まんざらでもないのである?!

蛇足的ではあるが、この双方の公民館は、ＮＰＯ法人による「指定管理者」受託の成功？事例として、国・全国からも注目されている公民館である！ただし、実は何故、この公民館が注目されるのかであるが、私は、ＮＰＯ法人による「指定管理」を行っている、ただそれだけで、評価されているのではなく、要は、それを動かしている、あるいは新しいもの、必要なものを、そこのスタッフが、鋭意創り出していっているということが、評価されていると考えている！

ということで、改めて、これからの課題は、こうした動きや形を、いかに各学校関係者に知らせるか（従来のように、校長・教頭等の管理職だけではなく！）、あるいは、いかにそれを具体的に進めていくか、とりわけ、必要な（切実なニーズとなる）取り組みを提案し（今回のような「あたいぐぁプロジェクト」や「『中高生』を中心とした生活習慣マネジメント事業」等）、それを、一つの事業やしくみづくりとして動かしていく人間（コーディネーターとかインキュベーターとか呼ばれる！）を、いかに学校の内外（特に学校内）に配置していくかということになる?!

それについては、本県では、逸早く導入されている「地域連携担当教員」が注目されるところであるが、今のところ、その存在や意義自体が、ほとんど学校現場では意識されていないようである（そのせいか？、設置の事実が、文科省・全国に知られていない！）?!それを立ち上げた時の関係者の一人？として、甚だ残念なことではある?!

最後になるが、そうした動きや、その動きの意味や意義を、他ならぬ学校（教師）側が、あまり知らない（多分、これが一番大きい？）、あるいはあまり理解（実感？）していないことが、これからのしくみづくりにおいては、障壁ないし困難となることは必定である?!その意味において、実は、そのことを予期しての？、第７回研究会なのでもある?!

それ故に、この研究会は、単なる我々の「出前研究会」ではなく、若狭公民館を中心とした、これまでの学校や地域と連携・協力してきた事業、その成果を踏まえた「新たな取り組み」として、市教育委員会（生涯学習課）が、改めて内外にアピールするものでもある！とにかく、一緒に頑張らなければ‼

（12 月 11 日）

㉚ 改めて、自らの「教育協働」の形は?!そして、それはどのように?!

一昨日（12/23)、今年最後の、そして、実質今年度最大の？第７回教育協働研究会を終えた！那覇市教育委員会との共催という形であったが、我々にとっては出前研究会、那覇市にとっては、同市の「教育の日 10 周年記念」のプレイベントということでもあった！人数的、あるいは顔ぶれ？的には今一つではあったが（秘かに予想はしていたが、学校の教師の参加が、ほとんどなかった?!やはり、残念ではある！)、なかなか実のある研究会ではあった！

ちなみに、卒論作成真最中である４年次のＴ君、Ｙ君の頑張りは見事であった！と言うより、かなり恰好よかった?!（もちろん、ＰＬのＭさんも！）とにかく、予想以上に、賢く、逞しく？成長したものである！後は、卒論を、無事提出するのみである！本当に、それを祈る！

さて、ここでは、そのことはさておき、参画してもらったＷ公民館のＭ館長さん、熱心かつ丁寧な、これまでの事業・活動報告、本当にご苦労様でした！そして、改めて、頭の下がる思いでした！とにかく、これからの公民館のあるべき姿を（特に、都市部における)、存分に創り上げられているように思います！

これからも、(内外共に？）大変でしょうが、大きな輪を広げていって下さい！ただし、健康には留意されて、くれぐれも、無理はしないで下さいね！

また、Ｎ中学校々長のＹさん、Ｎ市教委の指導主事Ｋさん、こうした（社会教育側からの？）投げかけ、取り組みに、学校現場全体としては、なかなか呼応できないとは思いますが、結局は、私（達）がどう言おうと、本当に「コミュニティ・スクール」や「学校支援地域本部→地域学校協働本部事業」のようなしくみが必要であるのならば、自ずと（いずれは？）そういう方向に向かっていくのではないでしょうか?!

とにかく、今回のみなさんのように、知ること、参加（画？）することから、実質は始まるのだと思います?!これからも、関係者への呼びかけやスケジュールの調整等、甚だ難しいのかもしれませんが、学校教育と社会教育の、双方の関係者が出会える、話し合える、しかも自由な雰囲気の中で意見交換できる、そんな機会を創っていければいいですね?!

そして、私にとって圧巻だったのが？、Ｉ公民館の社会教育指導員（兼認定キャリア教育コーディネーター)のＡさん?!あなたの思いと迫力？には、正直言って、度肝を抜かれました?!

私が忘れていた？以前の出会いのことも思い出させてもらいましたが、本当に、人の思いは、感染？するのですね?!現在の立場や職種が、今後どのように発展していくのか、私には、直接は分かりませんが、ひょっとしたら、この人は、いずれ（近い将来？)、沖縄の（というより、本物の？）オピニオン・リーダーになっていくのではないか、そんなようにも思いました！

Ａさん！案外、そうした私の直感は、当たるのですよ?!改めて、これを機会

に、よろしく！

なお、これは、新しい可能性でもあり、私としては、本当に最後の？望みとなるのではないかと期待するものであるが、市町村域、行政分野・職務、立場・活動分野、さらには、個々の人的ネットワークを超えた、それこそ融合的な「ひとのあつまり・交わり」が、毎月とは言わないが、年に一度は、この沖縄という地にあればなあと、思う次第である?!

本当に、個別には、それぞれいいものがあり、いい人がいるのであるが、先に挙げたような意味合いでの「ひとのあつまり・交わり」があれば、もっともっと大きな力・エネルギーになるのではないか、そう思っているということである?!

実は、「そうした動きや、その動きの意味や意義を、他ならぬ学校（教師）側が、あまり知らない（多分、これが一番大きい？）、あるいはあまり理解（実感？）していないことが、これからのしくみづくりにおいては、障壁ないし困難となることは必定」というようなことで行った、今回の研究会でもあったが、それはやはり、今回も突破することはできなかった?!

しかし、研究会が、単なる我々の「出前研究会」ではなく、N公民館を中心とした、これまでの学校や地域と連携・協力してきた事業、その成果を踏まえた「新たな取り組み」として、N市教育委員会（生涯学習課）が、改めて内外にアピールするものであったことは、何よりの成果であったろう！

この他にも、今回の掘り出し物？は、いくつかあったように思われるが、よく言われるように、こうした人と人との出会いは（たとえ、一方からの協力依頼という関係であったとしても）、固定された場所での、毎回の研究会の実施よりも、はるかに有効なのではないかと、思ったりもした！

確かに、学外に出ていくのは大変ではあるが（特に学生にとっては！）、通常は顔を合わすことのない（できない？）人達との出会いは、たとえ数は少なくても、意味がある（新しい発見や展開が期待できる?!）ということでもある?!

交流会も、久し振りに那覇市内で行ったが、これもまた、少なくとも私にとっては、懐かしい？ということもあるが、新鮮でもあった?!

言い訳ではないが、出向いていくことを、最初から忌避しているわけでは、決してないことだけは分かってもらいたい！

末尾になりますが、多分、このコーナーは、これが、今年最後の記事（メッセージ）となるでしょう！

私が、今言えることは、**改めて、自らの「教育協働」の形は?!そして、それはどのように?!**です！

それでは、**みなさん、よいお年を！**そしてまた、**来年（以降？）も、よろしく!!**

（12 月 25 日）

31 論文指導という名の、自らの学習（確認）?!しかし、それも最後?!

現在（11 日）、４年次は、まさに「卒論」作成の山場を迎えている?!毎年の光景（行事？）ながら、今年も、彼らの張りつめた、なかには寝不足や焦りからであろうが、苦しい表情も垣間見られる?!沖縄風に言えば、若干「ヤナカーギ（嫌な人相）」にもなっている?!そんな彼らを見るにつけ、「ああ、今年もその時期を迎えているのだなあ！」と、つくづく思う！

とにかく、提出日（今年度は２月１日！）までには、全員が、颯爽と書き上げることを、切に祈っている?!ただし、何度も書いているように、今回で、実質的なゼミ・卒論指導は終わりである！妙な関係で？５人の４年次が、私のゼミに残ることとなったが（形式的には、ゼミは既に消滅している！）、人数的には、久し振りに多人数となっており、かなり大変ではある（特に、途中段階の添削？は、誠に辛い！）?!

ところで、実を言うと（まだ終わってはいないが！）、今回ほど、彼らに助けられたことはない?!否、助けられてきたのは、これまでと同じであるが、彼らの存在自体（５人一緒にゼミ生として残ること！）が、私を力づけて（慰めて？）くれたということである?はっきり言えば、長い間、この大学で精一杯やってきたという私の矜持？が、彼らによって、辛うじて保たれてきたということでもある?!

もちろん、彼らは、そんなことはついぞ思っていないであろうし、私の、そんな述懐なぞは、今の彼らには、何の力にもなり得ないし、そもそも無縁である?!だから、この文章？も、今でなくてはならない理由は、何一つない?!

そう！本当は、ここで、こういうことを書きたかったわけでは、決してない！要は、今回、５人の卒論のテーマ・題材が、まさに私が、これまで追究？してきた「地域教育経営」に関わるものばかりであり、その理由からではあろうが、彼らの論文を事前査読（添削？）させてもらう度に、私の論の確認や新しい情報の入手？が、それによって、大いになされているということを言いたかったのである?!

これこそ、指導という名の、自らの学習（確認）であり、子弟同伴どころか、子弟反転？ということにもなっている?!本当に、（大学の）教員というものは、いいものである?!ただし、そのことだけで、その仕事が全う出来るのであれば、であるが…?!

いずれにしても、それも、おそらく最後ではある?!否、最後であろう！改めて、これから、非常勤講師としての学期末の仕事（試験・レポート及び評価）が待っている！そして、今月 20 日の第８回研究会（「総合的な学習の時間を介した教育協働のしくみづくり」）、そして、26 日の東京・国社研主事講習での講義（「生涯学習の振興とまちづくり」）、さらには２月２日、糸満青少年の家での国社研主事講習（沖縄会場）での講義（「ワークショップ」）も控えている！また、卒業論文発表

会（16 日）もある（どんな形となるか分からないが、臨席？はしようと思っている！）。

しかし、ここでみなさんに、本当にお伝えしておきたいことは、３月４日（土）に予定している、第９回の研究会についてである！これまで通り、年度最後の研究会ということにはなるが、今回は、三重の意味で最後の研究会となるということである！

すなわち、①イノ研、すなわち私の研究室（ゼミ）としての主催・呼びかけ②在学生（ゼミ生）による企画・運営③大学という場での開催、この３つの要素（条件）が、全てこれで終わりとなるということである?!そこで、以下は、私なりの、第９回研究会の案内となる！よろしく！

昨年は、私（井上）の（早期）退職ということでの、みなさんからのご理解とご協力、そして身に余るご厚情までいただきましたが、今回はついに?!、その宿命？として、「イノ研としての研究会」が、最後を迎えるということになりました！そういうことで、今回の研究会を、もちろん前半は、研究会としての要素（５人の卒業生？の卒論成果発表！）を採り入れ、いつもの「もう一つの卒業式」も行いますが、全体としては、「イノ研、フェアウェル・パーティ（仮称）」と位置づけて、教育学専修、島嶼文化教育コース、そして子ども地域教育コースの、各ゼミ卒業生全員（縁の人も含めて）に呼びかけて、盛大に行えればいいなあと、思っているところです！

ただし、これにつきましては、改めて案内状等準備すべきかとは思いますが、そのための時間やスタッフ？が厳しい状況にあります！そのため、これをご覧になったみなさん、あるいは何らかの形で、この情報を取得されましたみなさん！可能な限り、お互いに情報交換、お誘い合わせをされまして、参集していただければと思います！そうなれば、私はともかく？、最後の卒業生達も、きっと喜んでくれるのではないでしょうか?!会場は、ある意味懐かしい、大学の「50 周年記念館」を抑えています！詳しいプログラム等は、別途（かなり遅くなるかもしれませんが？）「案内ちらし」を作成しますので、いつものように、メール、ホームページ、手渡し等の方法で、入手していただければと思います！

なお、末尾になりますが、研究会という要素も、単なる卒業生の論文紹介ということではなく、私が言うのも変ですが、全て重要なテーマ（出来栄えも？）となっているかと思いますので、そちらの方も、是非、期待していただければと思います？ちなみに、５人の研究テーマですが、キーワード的には、教育協働の形としての「スクール・コミュニティ」、教育協働における「公民館の可能性」、学校教員の「社会教育経験の有用性」、学校における「キャリア教育の継続性」、そして離島における「地域活性化の可能性」ということになるでしょうか?!それではみなさん、これ以前にも、可能な限りの交流、情報交換、近況報告等、大いに待っています！そして、当日、お互いに元気な顔で、懐かしい？再会ができればと思います?!今回は（も？）、本当に？本当に！待っています!!もちろん、いつもの研究会のみなさんも‼

（１月 12 日）

32 「研究会」という名の、若者の「学びの共同体」「縁」づくり?!

昨日（20 日）、今年最初の研究会、今年度８回目の「教育協働研究会」を行った！週末（金曜日）ということと、肌寒い北風？が強く吹くという天候でもあったため、学外からの参加者が、期待していたよりは少なかったものの、学生達、とりわけＰＬとして動いた新勢力？（ゼミ生ではない、他専修３年次の２人及び２年次の３人！全員「学社融合と学びの共同体づくり」の受講学生）の頑張りで、予想以上の盛り上がり、成果を見せたように思う！もちろん、自らの卒論作成を行いながら、世話役？としての苦労を背負ってくれた、４年次のＹ君の踏ん張りも、忘れてはならない！

なかなかまとまった時間も取れないまま？、年を越し、具体的なメニュー構成ができないまま、予想通り？直前のドタバタ劇？も招き、やっとの思いで本番を迎えることができた今回の研究会・ＰＬではあったが、結果オーライとは、まさにこういったことを言うのであろう?!

否、ある意味、若者（学生）達は、こうした追い込まれた状況においての方が、実力を発揮する（成長？）するのかもしれない?!ということで、この研究会（授業）のもう一つの目的でもある、自分達の「学びの共同体づくり」「縁づくり」も、見事に果たしたということでもあろう?!

ただ、いずれにしても、今回秘かに期待していた、新たな？現職教員との出会いが実現しなかったことは、少なからず残念なことではある?!とは言え、ＰＬ・参加学生にとっては、特に教員志望の学生にとっては、非常に有益な時間・人との出会いとなったことは、一方では喜ばしいことである！

とりわけ、ひょんなことから再会？することになった、スペシャル・ゲストの元公立小学校長のＭさんには、本当に感謝しなければならない！そして、ゲスト（アドバイザー）として参画してくれた、島嶼文化教育コース時代の卒業生Ｈ君（公立小学校教諭）、お馴染みのＳ君（Ｆ小学校非常勤講師）、また、いつものように駆けつけてくれたＮ君、Ｍ君、さらにはＴさん！本当にありがたいと思う！彼らの参画・協力が、どれだけ現役学生への刺激やエールとなったことか！（彼らも、現役学生の頃、そのように感じていたからこそ、その恩返し？の意味も含めて、来てくれているのだとは思うが?!）

以上、会自体の内容は、ほとんど触れていないが、思うところを述べた次第である！（内容については、いつものように、イノベーション NEXT の方から、後日報告あり?!）そういうこともあり、今回は、以下、その延長として、これまでほとんど紹介することはなかった、会終了後の「交流会」（という名の「打ち上げ会」？）の光景を、少しだけ語ろう！

いつものように？終了時間を多少オーバーした後、寒風すさぶ？学外に出て、最近では恒例となっている、東口近くの「居酒屋大学」（本当に、名前が「大学」なのである！）に向かった！アの付く奴を呑んだのは、私とＨ君だけであった

が？、夕食もまだで（皆同じ！）、お腹も空いており、久し振りの熱燗（「鬼殺し」という銘柄？）が、五臓六腑に染みわたった?!だが、美味しかった！定番の「チャーハン」を真っ先に注文し、全員が揃うのを待ったが、逸早く食べてしまった?!何とも卑しい、前期高齢者？（４月でその仲間入り！）であった?!

ところで、今回は、学生、とりわけ４年次のことを慮って？、いつもよりは、かなり早い時間にお開きとした！確か１時間余の間であったが、これも恒例の１分間スピーチ？を行い、参加者全員が、会の感想等を述べ合った！個別に、長く話しをしたかった学生もいたであろうが、今回は、そのスピーチ？を聞く時間が、ほとんどだったかもしれない?!申し訳ないとは思ったが、これも彼らの成長の糧？となることは、これまでの経験から分かっているので?!、時間がなくても、これだけは強行したかったのである！

驚いたのは、お世辞ではなく、若い（新顔の？）学生達が、良く喋れたことである！特に、研究会での司会・進行、そして、忘れてはいけない！、開始前のアトラクション（前座？）で、ゼミ４年次のＯ君（ギター担当）と共演？してくれた、２年次Ｎさん（ホルン担当）の喋りは、なかなかのものであった？ある意味、末恐ろしさを感じさせた?!（ちなみに、参加学生達は、すべて「未成年」ではない！そのことは、予め確認を取っている！ご安心を！）

その後、学生達とは別れて、今回、本当に忙しい中、アドバイザーの一人として駆けつけてくれたＨ君と、今ではかなりの馴染みとなっている？「BAR あまくま」（ただし、いわゆる世間でのバーとはかなり違う?!）に、仕切り直しの？会話をしに行った（単純に、もう少し飲みたかっただけ？）。

Ｈ君とは、最近はよく会っており、思い出話？はあまりしなかったが、やはり彼が言うには、近年の学生達の活躍、あるいはその成長には目を見張るものがあり、非常に頼もしく、そして、期待ももてるということであった?!かなりの謙遜、あるいは私への外交辞令もあったのであろうが、確かに真意ではあったようである?!

私としては、非常に嬉しかったが、そうした想いで受け止めてくれている「先輩達」の存在は（たとえ、新旧のコースの違いはあっても！）、こちらも頼もしく、また嬉しいものでもある！これもまた、「学びの共同体づくり」の一つの成果？でもあろうと思う?!

最後になりますが、本コーナー㉛で、一足早く案内を行っている第９回の研究会についてです！２月は研究会を予定していませんので、考えようによっては、この間、かなりの日数が空くことになりますが、どうぞ、早めのスケジュール調整をしていただいて、一人でも多くの方々の参加を期待しています！
３月４日（土）15：00～、大学 50 周年記念館にて、お待ちしています！改めて、よろしく！

（１月 21 日）

33 「社会教育主事」の「ウリ」は、「職」or「行動（魅力）」?!

別コーナー（「東シナ海眺望記㉞」）でも述べたように、この 25～27 日に、東京上野の国社研（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）に行かせてもらった。今年度の社会教育主事講習（B）の講義担当ということであったが、最近、改めて真剣に？考え始めている、「社会教育主事とは何か？」あるいは「その専門性（ウリ？）とは何か？」ということについて、今回の国社研での講義、あるいはそこでの素敵な人との出会いに触発されて、ここでまた、考えを少しまとめて（進めて？）おくことにしたい！

もちろん、この話は、理論的（理想・理念として?!）というよりは、むしろ実践的（現実・実際として?!）ということではある！ただし、そうは言っても、ここで「理論」と「実践」の別立てを前提として、論じなければならないもどかしさ（腹立たしさ？）は、大いにある?!

だが、今となっては、それも致し方ない?!（認めたくない！）目の前の現実があると言っても、その現実自体を、それこそ苦悩しながらも、意味のあるものにしようとしている人達が、実際にいるからである?!

例えば、今回出会った埼玉県幸手市のＫさんのように、たとえ首長（一般行政）部局に移っても、社会教育主事時代と同じような仕事振りなのであり（事業の企画・運営等）、何も社会教育主事が、法律に言うように、教育委員会事務局に（だけ？）いる必然性はない（これは、社会教育が多様にあるということを、示してはいるのだが!）！

だとすれば、「社会教育主事」の「専門性（ウリ）」は、その「職」ではなく、その人の「行動（魅力？）」にあると言うことも出来る?!そうした理屈？は、実は、これまでにもあった?!社会教育以外の部署において、社会教育主事を発令したり、有資格者を配属したりということである！

また、学校の教員に、「地域連携担当教員」や「嘱託社会教育主事」というような役職・校務分掌を委嘱して、彼らに社会教育主事としての役割を担ってもらうというようなことである！

さらには、同じ社会教育（行政）において、公民館や青少年教育施設等において、「社会教育主事」という職名ではないが、その資格や専門性？が、そこで生かされてきたというようなこともある！ただし、いわゆる「兼務発令」については、多少趣は違う（一種の数字合わせ！）?!

いずれにしても、「社会教育主事」の「専門性（ウリ）」は、その「職」にあり、その上に、その人の「行動（魅力？）」が加わると言いたいのであるが、上記の場合は、明らかに、その「職」というよりは、その人の「行動（魅力？）」にあるということになる?!すなわち、その人は、どこで働いていても、社会教育主事的な活動をしているわけであり、また、出来ているのでもある?!

ということは、冷徹に言えば、「社会教育主事」の「専門性（ウリ）」が、実際

上は、その「職」自体にはないことを、自ら露呈させているということでもある?!理論的には、まずは前者を整合させて欲しいが、後者が、ある意味一人歩き（拡散？）しているとも言えるのである?!ただし、それらは、もちろんほとんどが、苦肉の策ではあったであろう?!否、資格（専門性）の有効活用か?!

ところで、近年は、そうした行政内、あるいは社会教育施設等における、実質的な社会教育主事の配置・処遇？を超えて、例えばＮＰＯとか、その他の民間活動団体・事業所等における、社会教育主事の登用（そこでの採用条件として）という形で、その資格の活用？範囲が広がっているようにも思える（逆に、行政内部においては、激減している！）?!そこには、いわゆる「指定管理者」としての質の担保？というような要素が、その背景としてはあるにはあろうが、新たな局面を迎えているとも、言えなくはない?!

以前にも、どこかで述べたようにも思うが、改めて現在、この「社会教育主事」の養成についての議論が、文科省レベルでなされているようであるが、その議論の推移においては、教育委員会の事務局に置く「専門的教育職員」という位置づけを、ある意味曖昧にしながら、その有資格者の「専門性（ウリ）」を、その「職」にではなく、言わば「行動（魅力？）」にシフト変換しようとしているようにも見える！

強いて言えば、政策立案・事業計画づくりの「専門性（ウリ）」よりは、人々の活動の支援（組織化援助・コーディネート機能）の方に、その「専門性（ウリ）」の中心を置こうとしているのではないかということであるが、そうなれば、それこそ実際に、その有資格者が、そういった仕事や活動（役割・機能）を、たとえ民間という立場であろうが、行うことが出来る人ということになれば、教育委員会の事務局に置く「専門的教育職員」という位置づけ（職務）は、特段必要ではなくなるということにも、なりはしないか?!

ちなみに、その資格が、例えば教員免許状のように、他の分野・領域において、ある種の市場価値（有用性？）を保有しているものとして、受け入れられるものであれば、それもまた、ありなのかもしれない?!

しかし、それは、逆に言えば、ある事の「専門家」ではないという烙印を押すことにもなり、本当に、その資格が必要なのかということにもなる?!しかも、おそらく「社会教育主事」という資格自体は、教員免許状のような市場価値・有用性は、ほとんど広がっていかないのではないか?!

とは言え、今回の主事講習では、任用とか職務とかに、直接は関わらない人の受講もあるようである！純粋に、社会教育のことを学びたい、知りたいという、まさにその人の「生涯学習」の一環ということにもなろうが、こうした、誠に悩ましい？新たな現実も、一方では出て来ている?!改めて、今後の議論及び実態は、どのように推移していくのであろうか?!

（1 月 30 日）

34 「社会教育主事」は、いかに輩出されるのか?!遠隔受講の近未来?!

先月（26 日）、東京上野の国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（通称「国社研」）に、今年度の社会教育主事講習（B）の１コマを担当しに行ったことは、先に紹介したが（㉝）、この担当とは別に、去る２日に、地方会場の一つである「沖縄会場」の２コマを担当した（場所は、同講習の宿泊研修先の県立糸満青少年の家！久し振りの来訪であった！）。

これは、いわゆる「国社研」が主催・配信している、インターネット回線を利用した、社会教育主事講習の「遠隔受講システム」の一環であるが、沖縄のような遠く離れた地方にあっては、近場（沖縄の場合は那覇市内→県生涯学習推進センター）で受講できるとあって、それなりの受講者が集まっていた（この日は 15 人）?!

ちなみに、今年度は、全国で９会場（新潟／静岡／鳥取／島根東・西／広島・福山／愛媛／沖縄）が、この遠隔受講地となっている！その全体の受講者数は、科目によって違うが（いわゆる「分割受講」が可能）、主会場と同数程度となっている！これは、ある意味、驚異的な数字である?!

さて、私の担当は、宿泊研修プログラムの一環である、「社会教育演習」の「２学習要求把握とプログラム」の、「（２）ファシリテーションの基礎」と「（３）ワークショップの実際」の２コマで、午前・午後の１日を通した授業であった。ワークショップや、そこにおけるファシリテーションについては、実を言うと、まったくの素人の私であるが（正真正銘、本当！）、折角の、県の担当のM君（社会教育主事・私が琉球大学に赴任した当時の、元気のよい学生だった！）の依頼でもあったので、ある意味情にもほだされて、引き受けることにした次第である！

私にとっては、過日の東京での講義の感触（成果？）を確かめたいということと（受講者達は、一方的に私の講義を聞いて、否、見ていただけ?!）、今回の沖縄の受講者との出会いが、やりようによっては、今後の、新たなつながりに発展するかもしれないという思いが、あったことも事実である?!ひょっとしたら、かなりの掘り出し物（失礼？）が、見つかるかもしれない?!そう思った、ということでもある?!

ところで、これに当たっては、県担当のM君からの内々の要望もあり、卒論を書き上げたばかりの４年次を誘い、助っ人？として、一緒にＧＷをやってもらうこととなった（残念ながら、一人は来られなかったが）！本当に、この若者達は好青年であり、私にとっては、過ぎた学生達である！４人とも、よくＧＷに溶け込んで、まさに各グループの一員？として、一日中付き合ってくれた！

その後、交流会という名目で、宿泊の受講者のみなさんと、所の特別な部屋？で、一杯やることになっていたが、その前に、その学生達と、そのお礼の意味も込めて、所外に夕食を食べに出かけた（時間待ちのためもあった！）。だが、かなりのボリュームであったため、肝心の会？では、ほとんど食（飲？）欲が出な

くなっていた！そういうこともあって、飲み会というよりは、私の勝手な注文？で、受講者のみなさんのスピーチの方に、力点を置かせてもらった！みなさん、私を喜ばせるためであろう?!、ほとんどが耳触りの良い話ばっかりであったが、本心はどうであったのであろうか?!

それはともかく、この会場に、大分県からの受講者（現職のＳ市職員）が一人いたが、流石に！意欲・関心、そして実力？も高く、最初は異様だとは思ったが、こういった受講もいいものだなと思うようになった！そして、時代はやはり変わったのかなとも思った！

というようなことで、思いも寄らなかったが、私にしてみれば、こうした遠隔システムの意義と可能性も、現実的には視野に入れるべきかもしれないと、真剣に思い始めた講習でもあった?!でも内心は、やはり「主事講習」であれば、可能な限り東京の本会場に行ってもらって、多くの全国の同志？と出会うとともに、国社研の職員のみなさんや多くの著名な講師等とも親交を深めて欲しい、そして大きな視野とネットワークを形成していって欲しいとは思う！

ただし、受講の条件（長期間の受講）や上京のための経費的負担等を考えれば、このシステムも、ある意味効果的かなとも思うのである?!そしてまた、地方ならではの良さも??しかし、そうなると、事実上、そのお世話をする？都道府県レベルの教育委員会の意欲（実力？）が問題となる！

その都道府県レベルの教育委員会の、社会教育主事の配属状況もさることながら、そこが、それぞれの市町村と強力な協力体制を創り、それを積極的にリードしていけるだけの陣容を整えていなければ、とてもじゃないが、社会教育（行政）の専門家である社会教育主事の養成なぞ、そもそも無理であろう?!単に、資格が取れるだけの話で終わる?!

だが、それはそれで、特に受講者にとってみれば、ある種の福音であり、これも先に書いたように（㉝）、物は考えようという思う部分もある?!つまり、何も、社会教育主事の資格（そのための専門的な学習）が、教育委員会の社会教育主事だけに要求されるのか?!

もちろん、異論もあろうが、一定圏内の社会教育主事、さらにはそれに相当する（代替する？）人達が、一つの大きな縁で結ばれ、官民問わず、様々な協力関係（ネットワーク）を構築していくことができれば、現在の、ある意味膠着（低減？）している社会教育（行政）の意義も蘇生？し、それこそ「ひとづくり（教育）とまちづくり（地域づくり）の循環」を、鋭意創り上げていくことができるのではないか?!

結論は、そのためのセンター（フランチャイズ）が、物理的にも必要である?!それが、現在、その存在価値が揺らいでいる？「生涯学習（推進）センター」であることは、ほぼ間違いないであろう?!

（２月７日）

35 ＣＳ＆地域学校協働活動の法制化進む?!必要なのは確かな人材?!

日本教育新聞（2 月 13 日付）によると、ＣＳ、つまりコミュニティ・スクールへ移行が、新年度から「努力義務」になるという。今通常国会で「地方教育行政法（略称)」を改正し、教育委員会に対して、「学校運営協議会」を置くよう努めなければならないとする規定（「置くことができる」→「置くように努めなければならない」）を設けるということである！

これは、私が、事ある毎に評価してきた、平成 27 年 12 月の中央教育審議会答申を受けたものであることは言うまでもない！「設置義務」から「努力義務」へと、トーンは下がってはいるが、まずは、次なるステップに、確実に進んだものとも言える?!ちなみに、同紙によると、昨年４月の集計では、公立小・中学校の９．０％（2654 校）がＣＳに指定されており、一時期目標とされていた１割に、ほぼ達している状況ではある！高校は 25 校に留まっているが、これらの数字が、ある意味飛躍的に伸びることは間違いない?!

ところで、記事自体からすれば、この「ＣＳ」の動きだけが紹介されているが、私が、再三再四唱えてきている、もう一つの必要な動き、すなわち「地域学校協働本部（活動)」の動きはどうなっているのであろうか?!

もし、こちらの方の動きが、このＣＳの「努力義務」化への動きと連動していないならば、事態は、かなり複雑とならざるを得ない?!教職員人事に関する意見を出す権限（発言権）の扱いは、柔軟ではあるが、一定の対応が求められようとはしているが、それよりも何よりも、このＣＳの「努力義務」化への動きだけが、先行していっているのであれば、これまでも懸念事項であった、教職員、とりわけ管理職の業務過多の問題が、先送りにされることにもなる?!

もちろん、新たな組織・動きが加われば、それなりの業務負担は、少なくとも当初期には、当然あり得るが、大切なことは、そのことよりも、そうした業務負担に関わる、もう一つの「地域学校協働本部（活動)」との協働、一体的運用の動きがどうなっているかである?!

ということで、それを確かめるために、ホームページで調べてみたら、決してそういう方向だけではなかった?!具体的には、社会教育法を一部改正して、教育委員会の事務に「地域学校協働活動」を加え、地域住民と学校との連携協力体制の整備、普及啓発などを図るとされている！そしてまた、その地域学校協働活動に関わる人を「地域学校協働活動推進員」に委嘱し、ＣＳの学校運営協議会の委員にも加えるといったことが挙げられている！むしろ、それは当然であろう?!

と言うのも、平成 27 年の中央教育審議会の答申は、「チーム学校」も含めて、そうしたＣＳと地域学校協働本部（活動）との一体的運用が、唱導されていたからである！まだ、すべてが法律案の段階であるが、「地域学校協働本部（活動)」が、正式に社会教育法に定められる「教育委員会の事務」となり、改めて社会

教育（行政）においては、それに対する組織的対応が、正式に求められることとなる?!もちろん、これまでにそうした対応や準備を、まがりなりにも行ってきたところは、さほど心配はないが、まったくその体制（態勢？）が出来ていないところは、かなりの混乱（躊躇？）が生じることになろう?!

ちなみに、余談？かもしれないが、この新聞記事を直接批判するわけではないが、基本的にマスコミは、いわゆる社会教育関係の記事は、あまり多くは書かない（ひょっとしたら、無視している?! ）！それは、ある意味仕方がないが、今度ばかりは､そうはいかない?!これまでは､それでよかったかも知れないが(決してよかったわけではないが！)、これからは、そうしたスタンスには、いささか変更が必要となる?!

何故なら､たとえ子ども達の教育､学校教育のことが中心ではあるにしても、それが、そこだけの関わり、そこだけの問題ではなくなっていることは、今や明白であるからである?!それは、平成 27 年の中央教育審議会の答申が、まさに学校教育と社会教育の協働（地域学校協働活動）を主張していることからも、容易に推察されるであろう！マスコミの報道が、一般の人に多大な影響を与えることは事実であるので、問題の構図や政策の全体性に、忠実に目配りをしてもらいたいということである！（ただし、そう思っていたら、社説の部分に、少しその言及はあった！）

まあ、そのことはこれぐらいにして、これからの準備・対応のあり方を、私なりに考えておきたい。とにかく、これから必要なことは、いかに多くの人に、このＣＳと地域学校協働本部（活動）の一体的運用に向けて、関わってもらうかである！その中でも、とりわけ重要なのは、今回の法案に登場してきている「地域学校協働活動推進員」のような、有能なコーディネーターの養成・確保であろう?!

ただし、これは、これまでの「学校支援地域本部事業→地域学校協働本部事業」の中の、いわゆる「地域（教育）コーディネーター」の活用・拡大によって、何とかなるのかもしれない?!問題は、学校側（内部）のコーディネーターの必要性であるが、27 年答申で出ていた､「社会教育主事有資格者」の活用による「地域連携担当教職員」のことが、今回の法律案には特段何もない（事務職員の活用に特化されている?!）！

もし、そのことまでは、今回は予定されていないのであれば（予想されたことではある？)、各自治体・学校が、これまでのように（それ以上に？)、先見の明を発揮して！、自らの自助努力を行っていくしかない?!社会教育主事有資格者の活用・活躍の場の拡大が、別途検討されているが、この際、これと連動させて、地域における教育協働の中核として、今回提案されている「共同学校事務室」を､「教育協働事務室（仮称)」に転換し、この人材を、そこに登用・活用するということも考えられる?!　　（２月 16 日）

36 やはり貴重な社会教育主事講習（資格）?!学び、繋がる同志達?!

今回は、少し明るい（心温まる？特に前半！）話をしてみたい！それは、本シリーズ㉝㉞で紹介した「国社研」の社会教育主事講習、直接的には、1月から2月にかけて実施されている、遠隔授業方式の「Ｂ講習」の意義と可能性の発展話?!でもある！

まず、その遠隔授業方式の意義と可能性については、先に述べた通りであるが、その極め付けが、同講習の最終日（２/23）の、「社会教育演習」の成果発表会であった?!会場（遠隔受講場所）は、県生涯学習推進センターであったが（同センターへの訪問は、かなり久しいものであった！）、本当に感動したというか、まさかこんな光景が、ここで（も？）見られようとは、ついぞ思ってもいなかった?!

もちろん、そう思ったのは、今年度は、県からの依頼もあり（立ち上がりの２年は別として！）、かなり濃厚な関わりとなったことも一因ではあったろう?!単純に言えば、「情が移った?!」ということである?!ただし、その思いの確信は、正確には？、それが終わった後の、まさに講習終了直前の受講者達の言動であったかもしれない?!

それはともかく、県担当のM君（社会教育主事）の、徐々に判明？してきた本気度（意欲！）にほだされて、一応最終日にも足を運んだ私ではあったが（そんなにも忙しくなく？、ちょうど那覇行きの用事もあったので、引き受けた部分もある?!）、少しでも彼（ら？）が喜んでくれるのであれば、それもまた良いのかもしれない?!そう思っての協力であったことは、まちがいない?!

だが、そこで、いろんなキャリア、立場、年齢の人達が、一種の同期の桜、同じ釜の飯を食った者として（程よい人数で、期間は37日間！）、お互いを称え合っている！本当に苦楽を共にしたのであろう、各々のこれからの決意と仲間としての繋がりへの期待が語られ、私が一番弱い？涙のお別れ風景が、そこで繰り広げられたのである！

雰囲気がそうさせたのかもしれないが、その光景を見て、ひょっとしたら、想像以上に、この講習は意義・可能性をもっている、そう思った次第である！それは、私にとっては、今では、はるか昔の？こととなってしまったが、「国社研」時代の懐かしい？光景でもあった！

ところで、本音を言えば、前にも書いたように、社会教育主事講習を受講するなら、東京に行って欲しい！そこには、内容もさることながら、大きなインパクトがある！そして、全国のみなさんとの、素敵な？「思いの共有」ができる！それが、一番大きい！資格取得だけだったら、どこでもいい！そんなことを、ずっと思ってきた私である。

もちろん、大学での資格取得では、それとは違う（主事講習では果たせない？）「別の意義と可能性」を発揮（創出？）したい！そんな思い（意地？）で、ここまで来た私でもある！だが、これからも、やりようによっては、それと同様、

あるいはそれ以上の意義と可能性を追究することができる?!今回、はっきりと、そのことを見据えたということでもある?!

とは言え、ここで改めて思うこと（問題？）は、こうした、新たな「同志」として、ここでの学びを共有した人達が、この後、どのような仕事・活動ぶり、あるいは関係づくりをしていくのかということである?!これについては、私が勝手に期待したり、語ったりすることは、いかようにも出来るが、その実現ということになると、やはり厳しいものがあるであろう?!

これに関わっては、現在、社会教育主事の養成について、文科省の方で鋭意検討中だということは、先にも述べたが（講習のカリキュラムについてが中心?!）、長年、このことについて意見（理想?!）を述べてきた人間として、改めて（これが最後？）言わせてもらいたいことは、この資格の有用性はもちろんであるが、社会教育主事という職の「安定性・継続性」の確保ということである?!言い換えれば、現在までの、人数も少なく、すぐに他部署への移動があるという「脆弱性」の払拭ということである?!

そこで、新たな提案となるが、近隣市町村の協力・資金拠出等によって、広域人事で、各地域の（社会）教育の機会均等・格差是正を図るということが、打ち出せないかということである?!単独市町村での専門職採用・処遇が、これからも実現不可能？であれば、そうした施策や方向性も考えてよいのではないか?!教員の養成・配置のように、国や都道府県も関わり、同じ教育（行政）の枠組みで行っているのであれば、そのことは可能なのではないか?!

折しも今、学校教育と社会教育の連携・協働による「地域学校協働活動」（もちろん、「チーム学校」や「コミュニティ・スクール」も含めた！）のしくみづくりが唱導されており、そのための人材・要員の育成・確保の動きが、法制化されつつある（十分かどうかは？であるが！）。

要は、折角、有為な（やる気のある！）社会教育主事の資格取得希望者が、ただその取得だけで終わるのであれば、甚だ勿体ない（ただし、現在または将来の職務・活動に、何らかの形で生かされるのであれば、それはそれでよいし、そのこと自体を否定するものではない！）?!特に、その資格取得をもって、新しい職場・活動分野に入っていきたい人達、とりわけ若者達にとっては、二重の意味で、そのことが妥当する?!

それを実感させるのが、各種のＮＰＯで働いている人達である（彼らは、まがいもなく、ある種の「社会教育主事」的役割・機能を果たしている！少なくとも、私がこれまで出会ってきた人達はそうである！）！けれども、その仕事・活動を続けていくことは、人生設計的、単純には生計的に厳しいのである！そういう人達のためにも、社会教育主事有資格者あるいは資格取得希望者の有効活用の方途（雇用の創出！）を、（地域）社会全体で追究していければということである！

（３月２日）

37「中心と辺境」、そこに彷徨う　「沖縄の思い」?!我もまた、然り?!

下の文章は、私が、平成２（1990）年４月に琉球大学に赴任してから２年目（正確には１年半！）に、「沖縄」について語ったものである。今読み返してみると、何とも悩ましい？文言が踊っているが、書いていることは、決して間違いだとは思わない（むしろ、それが鮮明になっているとさえ思える?!）！しかし、かなり複雑な心境ではある?!

と言うのも、こうしたことを思った、記した、他ならぬ当時の自分が、現在どうなっているのか、どこにいるのか?!ひょっとしたら、その自分自身が、まさに**「中心と辺境」、そこに彷徨う?!「沖縄の思い」**という中に、どっぷりと浸かっているのではないか?!

否、そのことをどこかで意識しつつも、一方で、そのことを否定（憎んで？）いる自分も、確かにいるのではないか?!今の私にしてみれば、ある種複雑な**「沖縄論」**なのである?!それはともかく、まずは見てみよう！

こちらに移り住んで、まだ１年半余り。沖縄について語ることに、少々気恥ずかしさと後めたさを感じるが、ある本に触発されての思いを、少しばかり書き記してみたいと思う。ちょうど沖縄には、"いちゃりば、ちょうでー"（出会えば、みな兄弟の意味？）という格言もあるので、勝手に、それらに則らせていただくことにする。テーマは、「中心と辺境」という視点から見た「沖縄の思い」である。

さて、沖縄は、確かに「日本」の中心ではない。歴史的にも、「日本」という中心を、あるいは「中国」という中心をその外に有してきた、いわば辺境の地である（人為的なものであれ）。そして、その狭間の中で、ある意味では、観念の彼岸を向こうに意識し、自らのアイデンティティを、それとの関係の中で確立してきた。

たとえば、「大和」「本土」「内地」という呼称には、「うちなぁ」の、中心「日本」に対する思いが反映されている。もちろん、そこには、「沖縄の苦悩」が隠されているわけではあるが…。

いずれにしても、中心「日本」に対する「反発」と「従属」、あるいは「甘え」と「憧れ」の「アンビバレンツ（二律背反性）」は、多分そうしたところから生まれたのであろう。日本である（と思いたい）が、そうでない（と思える）部分が、どこかにある？…。

ところで、中心「日本」が、果たして何なのか？それは、非常に曖昧である。少なくとも、中心となる対象は、思っているほど実体的ではない。我々は、よく「日本」とか「日本人」とか言うけれど、その正体は、多分深層心理としての同属感、あるいは所属感みたいなものであろう。

言語、衣食住の様式、自然・生活環境、容姿、物の見方・考え方、こうしたもののまとまりとして、日本とか、日本人とか言うのであろうが、地理的、政治的、経済的な中心であったとしても、それが、日本や日本人を代表しているわけでは、決

してない。「中央対地方」などという言い方があるが、中央が、より日本的で、地方が、より日本的ではないなどとは言えない。逆もまた、然りである。

とは言え、「辺境」になればなるほど、その思いは、「中心」の方に向かって増幅される。言わば、虚構の中心が、意識の上で、周辺のほうから形成されるのである。まさに、その虚構の中心に対する思いが、沖縄の思いなのではないか?!「地方の時代」「地方のアイデンティティ」と言われるが、沖縄にとっては、自らの「アンビバレンツ」を相対化し、そこに立脚した、新しい生活あるいは文化を、志向するということになるのだろうか?!

いみじくも、日系三世に、どちらの国にもアイデンティティを見いだすことができず、言わば「中間のアイデンティティ」を、自らのものとする意識が芽生えていると聞いているが、何かを暗示しているように思われる。こうなると、決して「反発」（甘え）の、あるいは「従属」（憧れ）の辺境ではなくなるはずである。その兆しは、現にある！

（1991 年 11 月）

とまあ、このようなことを書いているのだが、そこから 25 年強、まさに 1 /4 世紀が過ぎ去ったことになる。

しかし、何がどうなったのであろうか?!貧困問題や格差問題、環境問題や基地問題等、そして「学力問題」と、様々な問題があるが、それらは、まさに**「中心と辺境」**の関係の中で、**「反発」（甘え）**と**「従属」（憧れ）**のねじれ？構造を形づくり、ここ沖縄は、相変わらず？その問題構図で推移してきている?!それは、私が長年勤務してきた某国立大学にも、嫌と言うほど蔓延している?!

ということで、こうした中で、私の「沖縄への思い」は、目の前で繰り広げられる**「反発」（甘え）**と**「従属」（憧れ）**のねじれ？構造（ひょっとしたら、**「二重構造」**？）に、ある時は憤り、ある時は翻弄され、またある時は、それを活用し、またある時は、その是正を目指して、ある意味一生懸命に突っ走ってきたようにも思う?!

ただ、そのことを、昨年一旦止めにして（常勤を降りるということであったが！）、改めて、この間の来し方を反芻してみると、救い（希望または期待？）が、まったくないわけではないことに気がついている?!

それは、眼前で育っていく若者達（もちろん、すべてではない！否、ほんの一握り?!）である！当人達は、多分、そのようには思っていない？が、それは、丁度上に記した「日系３世」のような立場・生き方である?!

しかも、それは、「日本だけ」ではない、そして「沖縄だけ」でもない！まさに、**「日本でもあり、沖縄でもある」**！

だが、それは、従前の**「反発」（甘え）**と**「従属」（憧れ）**のねじれ・二重構造を克服した、「新たな沖縄」である?!それでないと、意味がない?!

（３月 10 日）

38 心配ではあったが、無事終了?!「岳陽舎」の新たな可能性の予感?!

もう随分日数が経ったが、別シリーズ「東シナ海眺望記㊲」で紹介したように、過日、珍しく県外からの宿泊来客があった！長野県泰阜村のＮＰＯ法人グリーンウッド自然体験教育センターのＴさんと、彼の友人？である、北海道からのＳさんの二人が、我が家「岳陽舎」を訪ねてくれたのである?!Ｔさんとは、もう随分前になるが（年数等は覚えていない?!）、沖縄のＮさんのイベントで出会って以来、何故か気が合い（私より随分若いのであるが！）、今でもお付き合いが続いている！

私も、かなり寒い時期だったと思うが、一度、今では懐かしい？Ｕ市のＫさん（Ｔとした方がよいかな?!その後、どうしているかな？）と、その泰阜村を訪ねたことがある！よくもこんな場所で、よくもこんなことができるものだと、秘かに驚いた（感心した？）ものである！老若男女？大勢の人が集っていたこと（だけ？）が、何故か思い出される?!かっぽう？酒を、かなり飲んだことも?!

一方、この間、Ｔさんには、私が仕掛けた？大学でのイベント（生涯学習教育研究センター長時代）等にも、何度か来てもらい、多くの人に貴重な指針や感銘を与えてもらった（その最大のものが、平成 23 年の「熟議」としての「琉大フォーラム」！その前の、地域活性化がテーマであった？「琉大フォーラム」も?!）。話のテクニックはともかく（かなりの場数を踏んでいる?!）、そこには確かな信念と題材の確かさもあり、名状するが、かなりのジェラシー？を感じてもいた?!彼の活躍ぶり？は、今の私にとっては、かなり複雑な部分もあるが、元気で頑張って欲しいものである！

北海道のＳさんは、まずは母親としての苦労？、そして目覚めから、現在の仕事・活動をされているということであったが、沖縄の基地問題が気になっているらしく、この時も、我が家のベランダ上空を、ひっきりなしに飛行（下降）する物体？に、本当にビックリされていた！Ｓさんの、ひっきりなしのシャッター音が、何故か鮮明に思い出される?!

なお、この場に、いつもの？Ｔさんと、手伝い？の４年次２人（Ｔ君とＯ君）、そして、ある報告をもって、後から駆け付けたＦ（Ｋ?!）君も集ってくれたことは、別に紹介した通りであるが、そこでは、Ｔさんの本についての失礼話から、別途その情報は提供したいとしていたので、ここで、それを履行しておくこととしたい。

改めて、「自然体験活動を教育資源に、子ども達を山村に招き、今では村ごと『こんな村いやだ』から『この村で自立したい』へ。舞台は人口 1900 人の長野県泰阜村。信号がない、コンビニがない、そんな”ないないづくしの村”に毎年 1000 人の子どもたちがやってくる。わずか 25 年で、いったい、この村に何が起こったのだろうか？ヨソモノ・若者がむらに根を張り、山村教育で起こした奇跡の旋風。まちの子どもを対象とした『暮らしの学校 だいだらぼっち』『信

州子ども山賊キャンプ』から、むらの子どもが主役になる『あんじゃね自然学校』まで、具体的な実践手法だけでなく、課題となるＮＰＯの経営術にも光をあてる。ＮＰＯグリーンウッドが歩んだ 25 年。その葛藤と地域再生の道を痛快に描く」とある。ただし、詳しくは、現物を見るしかない?!

だが、本当は、ここで、こうしたことを、詳しく書きたかったわけではない！要は、こうした出会い・再会・交流の場として、我が「岳陽舎」が、大いに利活用されて欲しいということである！家自体は、まさに個人の自宅であり、事業所登録はしているにしても、手狭で（熟年夫婦の生活の場であるから、それは仕方がない?!)、多くの人が、気軽に集まる場としては、かなり不便である?!

しかし、それも承知の上での話であり、呼びかけなのである！単純に言えば、そうしたことを気にせずに（本音ではともかく！)、出会い・交流の場としての意義・可能性に賛同・協力してくれる人が、一人でも多くいて欲しいということである?!

とにかく、大学の施設（研究室や教室、一番大きいのは、50 周年記念館?!）の利活用が、基本的に出来なくなった今、残された場所は、我が自宅「岳陽舎」しかないのである?!だから、今回のような、県外からの訪問・交流、そして宿泊利用は、まさに私の望むところなのである！ただ、本当に言い訳がましいが、手狭で、来訪者・宿泊者には、逆に申し訳ないと思う部分もある?!そういうことでは、あるのである！

いずれにしても、不便な？（だが、天気が良ければ、見晴らしは最高である！)、こうした利活用ではあるものの、我が「岳陽舎」の新たな可能性として、少なからずの予感があったということだけは、是非みなさんに、お伝えしておきたいのである?!

末尾になるが、現在、年度末とは言え、これからまだまだ、訪ねて来てもらわなければいけない人達もいる（本当にそう思っているかは、かなり怪しいが?!しかし、そのことについては、私の方からは、直接にはコンタクトしない！何故なら、あくまでも本人達の問題？だから！）?!

とは言いつつも、そろそろ次年度に向けての、幾つかの準備のための集まりも必要である?!なかでも、今年度装いも新たに立ち上がった「教育協働研究会」、そしてそれを支持・企画・運営する若者集団（実働部隊！)「イノベーション NEXT」、次年度以降、どんな顔ぶれ・動きとなるのか（必要なのか?!)、我が「岳陽舎」が、そのためのフランチャイズとなるべく、頑張っていかなければならない！

とは言え、みんなが物理的に、頻繁に集まれるわけでもない?!特に、「イノベーション NEXT」の主力？においては?!そのためにも、電話、メール、そして、本コーナー・シリーズが掲載されているホームページの利活用は、お互いの活動・関係をより良くしていくための、まさに生命線（ライフライン）なのである?!

（３月 11 日）

39 所縁の人達よ！心ある人達よ！次なる年度・形へ、いざ進もう！

早いもので、年度末も、いよいよ大詰めである！尤も、今の私は、常勤ではなくなっている身であるので（本当は、いわゆる「現役」を退いたわけでは決してないが?!)、年度末だの、年度初めだのということは、ほとんど無縁とはなっているが、個人にとっても、組織にとっても、この時期は、本当に大変な時期である?!新人となる人はもちろんであるが、勤務地移動あるいは内部異動（昇進を含む！)、さらには転職や復帰の身の人は、さらに大変であろう（心身共に！）?!

そうした中、あらゆる組織・事業体（行政であれ、学校であれ、民間であれ）は、今まさに新年度に向けて、年度総括（反省も含めて）を行い、次年度の体制（態勢？）づくり・事業執行計画づくりに勤しんでいることであろう?!このことは、今、私が直接関わっているＵ市やＮ市においても、同じであろう?!

例えば、Ｕ市においては、先般連絡が入り（これについては、本当に首を長くして？待っていた！)、次年度以降の作業工程が決まりそうだということであった！もちろん、私の関心事（ここでは委員長としての責務？）は、「まちづくり生涯学習推進協議会」であるが、これまで一定の成果を挙げてきた?!「てだこ市民大学」の新たなあり方をはじめ、今後のＵ市の「生涯学習推進」の全体的な方向性を、今後２か年をかけて協議することになっている（→「まちづくり生涯学習推進基本計画」の策定）！

前回もそうであったが、そのための「策定検討部会」というＷＧをつくり、鋭意進めていくことになるわけだが、まずは、その人選をどうするかが、当面の課題ということになろう?!いずれにしても、かなりの関連状況の変化の中で（その最大のものが、学校教育と社会教育の協働体制づくりの加速化→Ｈ27 年 12 月の中教審答申→旧？「馳プラン」)、新たな方向性・具体策をどのように構想していけばよいのかが、最大の焦点となることは明らかであろう?!

一方、Ｎ市においては、先月（２/23)、今年度最後の「協議会」（これについては、本シリーズ③㉑㉚）で紹介してきている）が開催されたが、実は、この事業は、国の補助事業であり、単年度事業でもあるので、ひょっとしたら、これが最後の会議となるのでは?!と思っての参加であったが、やはりそうであった！

一応、年度の事業報告（総括）が、すべての事業においてなされ、様々な質問・意見も出された！お世辞抜きで、各事業とも、一応の成果を収めていたと言えるであろう！私達とコラボ開催した「教育協働研究会」も、懐かしく？思い出された！

折角、思いのある人々が集まった、否、かなりの盛り上がりを見せ始めていた、この事業?!このまま終わるのは、本当にもったいない?!何としても、あるいは何らかの形で、続けていくことはできないのだろうか?!

とにかく、ここでの問題は、この種の事業の宿命ではあるが、補助金（そんなに高額ではないだろうが?!）が切れると（→予算が無くなる！)、その事業が出来な

くなるということである！出席委員からの、かなりの説得（熱意表明？）もあり、結局は、補助金（予算）がなくても、何らかの形で継続・発展させようということにはなったが、協議会自体の開催はともかく（今年度のように、何とかなる?!）、個別に行われていた、有益・有用な事業や活動がどうなるかは、今の私には、まったく分からない?!

それこそ、心ある人達の英知とエネルギーが、今後も注ぎ込まれることを期待するだけである！何故なら、これは、いろんな意味で、リーディング・ケースとなるからである！頑張れ、関係者！とりわけ、Ｋさん（異動はどうなのかな?!）！

この他、県教委生涯学習振興課（人事の一部を知った?!）及び同生涯学習推進センター、もちろん義務教育課等の動き、関わりも気にはなるところではあるが、近年は、それこそ、ほとんどお付き合いもなかったので、まったく分からない?!県立図書館の設置案件もあるようであるが、学校教育と社会教育の協働体制づくり（「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部事業」の一元化・一体的運用！）、何とかならないものか?!

ちなみに、市町村にあっては、別の自治体であるＧ市やＯ市のことも、一応は気になるところである?!どちらも、一応私のゼミの卒業生がスタッフにいる（ようである？）が（Ｏ市は４月から？）、果たしてどうなるか?!特に、Ｇ市においては、先の「教育振興基本計画」づくりに大いに協力？してきた関係もあり、その具現化には、本当は！コミットしたかった?!否、今でも、その気持ちが、ないわけではない?!

また、どこかで紹介したとも思うが、先日の、国社研の社会教育主事講習で出会った、16 人の仲間たち?!何らかの動き・形が生まれてくるのであろうか（ただし、今のところ、残念ながら、その後誰一人便り・連絡はなし！）?!要は、私の思いや気持ちはともかく、彼らが、どのような動き、ネットワークを創り出していけるかである?!

最後に、やはり一番気になるのは、昨年立ち上げた若者集団「イノベーション NEXT」が、次年度以降、どのようになっていくのかということである！一応、我が家でもある「岳陽舎」が、そのフランチャイズとなるが、これまで行ってきた「教育協働研究会」をどのようにやっていくのか、鋭意稼働させてきた「ホームページ」の運用をどのようにやっていくのか、大きくはそのことが大きな課題となるが、可能な限り、その実績を残す（広げる？）べく、彼らに頑張ってもらうことになっている！

だが、彼らも、これからは大人側?!現役（後輩）の学生には、多分大きな期待はできないので、改めて、先輩大人のみなさんの理解と協力を得ながら、まさにＯＡ集団として、やってもらう他ない！所縁の人達よ！心ある人達よ！次なる年度・形へ、いざ進もう！　（３月 27 日）

40 あるべき姿・あって欲しい形、いかなる思いで、それを見つめる?!

さて、別シリーズ「東シナ海眺望記」(㊵) で書いたように、本号もまた、一つの区切りである！昨年の５月末から、三つのシリーズ (テーマ) で、まさに「我が想い　漂えるままに」、様々なことを書き記してきた。このシリーズでは、多少、その趣旨から外れたものもあったとは思うが、時々の人との出会い・イベント等に関わらせて、一応「教育への思い」というタイトルで、私の所感や期待（時には、多少辛辣な、あるいは的外れな指摘もあったかもしれないが？）を、正直に披瀝させてもらった！

もちろん、そこには、いわゆる「現役」を退いた人間の「諦観」や「現実への揶揄」？が、底流にはあったかもしれないが、基本は、未来への預託であり、関係者への期待やエールであったはずである?!否、絶対にそうである?!そうでなければ、甚だ滑稽？であり、ある意味惨め？でもある?!何故なら、名状するが、私自身は、まだまだ「現役」を退いたなぞとは、実は思っていないからである！

ただ、不本意ながら？、そのように見られていることは事実であり（表面的には、そのように振る舞ってきているので?!)、私自身も、そのことは、重々承知はしているのである！

ちなみに、そういう主張（実感？）は、冷静に捉えると、事実上は、通常の「定年退職（者)」も同じなのかもしれない?!つまり、自分自身が、勝手に、否、別な表現をすれば、見栄を張って（傲慢に？)、そう決め込んでいるだけかもしれないということである?!残念ながら、今となっては、自分自身ではそのことは確かめようもないが、一つだけ確かなことは、どちらも、ある意味誰もが有することになる？、現役との別離（少なくとも社会的・制度的な）に生じる「自尊感情」が、そこに蠢いているということであろう?!

ただし、違いがあるとすれば、外から、半ば強制的にそうさせられるのと、自らそれを決断し、実行するという、言わば「内なる自己決定」に、何らかの思い・価値を賦与させているということであろう?!対外的には、ほとんどそれに違いなぞはないのであるが、当人にしてみれば、同じ「納得」であったとしても、その違いは、かなり大きいのである?!

ところで、ここでは、流石に、そうした「退職論議」を繰り広げることが、目的ではない！要は、まがりなりにも、この間、我が「教育への思い」を、長年主張してきた「生涯学習体系への移行」(「タテ・ヨコの統合」の促進)、そして、それを実現させる「学校教育と社会教育の協力体制づくり」(「学社連携」から「学社融合」、そして「教育協働」へ）の必要性に関わらせて、多種多様に語ってきた！もちろん語るだけでなく、その時々に出来る範囲（陣容？）で、研究会（「地域教育研究会」→「教育協働研究会」）等も開き、そのことを執拗に？伝えてきた！しかし、無念ではあるが、それがまだ？、志半ばとなっている?!否、なってしま

っているということである?!

ある情報によると、国（中教審）の「生涯学習分科審議会」での審議が、私の、その「あるべき姿」「あって欲しい形」には、今のところ、あまり近づいていないようである（期待しているのであるが？）?!そしてまた、学校教育の方でも、かなりの動きは見られるが(その限りにおいては、様々な提案がなされ、マスコミ等も、そのことを、スペース狭しと報じている?!)、私からすれば、こちらも、その「あるべき姿」「あって欲しい形」には、なかなか向かっていっていないと言わざるを得ない?!

「しょった言い方」？になるかもしれないが、私の、その「あるべき姿」「あって欲しい形」が、やはり間違っているのか?!理想と現実は、往々にして違う、食い違うものだということは、ある意味その通りであるし、そのこと自体を、青臭く論じることはしないが、本当にそれが、「あるべき姿」「あって欲しい形」であるならば、何故そうならないかと、悲憤慷慨もしたくなるのである?!

しかし、今、私がどう言おう（書こう）が、自分自身が、その現実を作り出していく人間や組織ではないわけであるので、それが事実なら、誠に複雑ではあるが、傍から見守る？他ないであろう?!しかも、そういうことは、これまでもあったわけであり、何も、今更嘆くことはないとも言えるであろう?!別に皮肉を言っているわけではないが、審議に加わっている人達も、そしてそれを、事務局として支えて？いる人達も、多分一生懸命に考え、審議し、良い方向に向けて、施策を構想されているであろう?!

それはそれで、認めなければならないし、私も、別な次元ではあるが、そうした仕事？を行ってきた！現実は、本当に厳しいものであり、理想や理念だけでは、なかなか（ほとんど？）物事は進んでいかない?!そうした中で、関係者のみなさんは、精一杯、そうした現実に立ち向かい、少しでも前進あるいは改善の方向に進んでいくべく、尽力されてはいるのである?!

末尾になるが、この私の「教育への思い」は、これからも、折に触れての、私の「あるべき姿」「あって欲しい形」への希求を述べるものとはなろうが、一人の、この時代あるいはこの世界に生きている（きた？）人間として、それが実現するかどうか、そのことはもちろんであるが、たとえそうはならなくても、そうしたことを言い続けている（た？）人間がいたことを、何らかの形で書き記しておきたいという、まさにそこに、執筆の動機・エネルギーがあるということである！

余計な？ことであるが、これが、いわゆる「終活」？の一つになるのかどうか?!そのことは、今の私には、まったく？分からないが（ジョークではあるが、我が奥さんには、そのように見えなくもない？ようである?!しかし、私には、まったくその意識はない！本当にそうである！)、思いが続く限りやり遂げていきたいと、改めて思う次第である！　（３月 27 日）

41 新たな出発は、『「大学で学ぶ」とは、どういうことか？』から?!

別シリーズ（「東シナ海眺望記」）でも述べたように、世間では新たな年度・学期も始まり、私の方も、それに合わせて？一応私なりの、新たな？出発を始めなければならない！そういうこともあって、ここでは、その新たな出発を始めるべく、標題のテーマとなった！何故こうなったかと言うと、実は、ひょんなことから（実際は、例の大判『社会教育』の連載記事に関わって？）、下に紹介する、懐かしい？本を手にしたからである！

本は２弾あり、第一弾が、『「大学で学ぶ」とはどういうことか？−学生の側からみた虚々実々−』（1998 年 10 月）、第二弾が、『「大学で学ぶ」とはどういうことか？−パートⅡ−その貴重な時間と空間の中で−』（1999 年 11 月）であるが、いずれも、堂本彰夫の名前で、地元の(有)金城印刷・アポロ出版部の協力で、出版したものである。なお、表紙・挿し絵は、当時絵手紙が上手であった卒業生のＹ．Ａさんに依頼してのものであったが、改めて、それだけでも、見るに値するかも?!（もちろん挿し絵が！最近会わないが、どうしているかなあ??）。

懐古趣味？と言われるかもしれないが、ここでは、**「はじめに」**と**「あとがき」**を抜き書きし、この間私が見つめてきた学生たちの思いや行動、そして相も変らぬ現実の推移について、改めて思いを馳せてみたい！それがまた、私の出発点でもあったからである?!

＜「はじめに」より＞：大学とは何か？大学とはどういうところか？というような問題提起や情報収集（提供）への努力が、近年改めて高まってきているように思われる。いわゆる「象牙の塔」に対する世の中の懐疑・覗き見主義、行政改革、数多くのスキャンダル等がそれに拍車をかけたのであろう。さて、そのような中で、私（堂本）は、是非、その大学の内部にいる人間の一人として、実際にどのようなことが、その大学というところで行われているのか、そしてまた、それと併行して、どのようなプロセスを経て、個々の学生が巣立っていっているのか、学生の側の現実あるいは視点に立って追ってみたいという思いを募らせてきた。たった九年間の経験（事実の流れ）ではあるが、どうしても、そこら辺の情報が不足している（つまり、数字として表れてこない？）あるいは故意にねじ曲げられているようにも思われるからである。現在、教育改革とりわけ大学教育改革へのプレッシャーは、誠に熾烈極まるものがある。なかでも、私（堂本）が所属する教育学部においては、例の「五〇〇〇人削減」の至上命題の下、風雲急を告げるかの如く、またしても、その対応に右往左往している状況である。

ところで、これから示す様々な学生模様は、私（堂本）が属する某国立大学の教育学部での話である。具体的にどこの大学であるのかは、容易に察知されるであろうが、公の報告でもなく、また学術研究のそれでもないので、敢えてこのようなスタイルを取らせていただいた次第である。但し、フィクションでは決してなく、その意味では、一種のルポルタージュであると言えるであろう。とにかく、（上）記の状況には直接結びつかないのが、極めて歯がゆい思いであるが、大学教官という一人の人間の複雑な心境の一端を、少しでも垣間見て頂ければ、この上ない幸いである。

＜「あとがき」より＞：こうして様々な学生たちのレポートやメッセージ等を、改めて眺めてみると、いろんな思いが去来してくる。また、四分の一世紀前の自らの学生時代が、写し鏡のように思い出されもする。いずれにせよ、ある意味で自らがそうであったように、学生たちは、表現の仕方はともかく、自分たちなりに必死に状況を受け止め、考え、そしてまた未来を展望しようとしているのである。考えてみると、まさにこれこそ、四年間？という、俗に言う、実社会から猶予された「自分探し」「自分づくり」の時間なのであろう。しかし、それでも、「今の学生たちは恵まれている、甘えている、実社会に出てもほとんど役に立たない、etc.」と、人（大人）は言うのかもしれない。だが、とりわけ高度な学問研究、より専門的な職種に就くことを目指す者にとっては、実は、このような「遊び」あるいは「猶予の時間」が必要なのではないだろうか。こうした「時間と空間」があればこそ、彼らは次の飛躍へと、向かうことができるのである。

但し、はじめにも述べたように、現在大学教育、とりわけ教育学部教育に対する世間の風当たり（財政当局のみ？）は、強くなるばかりである。そうした中で、大学は今、授業法の改善やシラバスの吟味等、かなり細かいチェック（自己点検・自己評価を含む。）を受けている。また、教育学部においては、新たな教員免許法の改正等による、カリキュラムの多様化・新規分野の追加（介護実習等）もある。もちろん、そうしたことは、大半においては必要性が認められるものばかりであるが、他ならぬ大学入学者の実態、とりわけその精神的な部分での葛藤や未成熟さに対するケアや水先案内がないならば、教官・学生ともども、それこそ多忙と無力感の狭間にて、「大学」という、かけがえのない時間と空間を放棄せざるを得ないのではないだろうか。繰り返しになるが、教育学部は今、教員養成課程の縮小が宿命づけられている。

事実、教員採用者は、年々減り続けるばかりである。そのためか、その難関を突破するために？、実に膨大な時間とエネルギーが、学生の間では費やされている。特に四年次においては、卒論や授業なんかは二の次、三の次、と言えば、言い過ぎであろうか（そうでもしなければ、確かに採用試験には合格できない！）。でも、そうした激しい選抜試験において、晴れてその入り口に立てるのは、ほんの一握りの者たちだけである。何という皮肉であろうか?!最後になったが、私（堂本）の専門？分野は、「社会教育・生涯学習」である。二重の意味で、教育学部の実情を危惧しているものの一人である。

一つは、言うまでもない、こうした「教員養成」に関わる厳しい状況についてである。その学校の教師というものは、実はこれから、大変重要な職務を負うことになる（それは、「学校」というもののこれからのあり方に関わるものであるが→生涯学習体系への移行）。したがって、その意味で、学校の教師を目指すものは、従来の学習内容（カリキュラム）だけではなく、幅広く教育・学習に対する識見や実践の仕方を、身につけておかなければならない。それが、現在のような状況では、時間的にも、また学生たちの成長度合いにおいても、難しくなるばかりのような気がしてならないのである。

もう一つは、他ならぬ教育の危機に関することである。様々な教育の危機的現象が生じているにも拘わらず、相変わらず学校教育（教員養成）のことだけしか念頭になく（行政のみならず、多くの大学教官も？）、施策的には誠にお粗末なものとなっているということである。

（４月７日）

42『「大学で学ぶ」とはどういうことか？-パートⅡ－その貴重な時間と空間の中で-』

次に、ここでは、前号（㊶）で紹介できなかった、『「大学で学ぶ」とはどういうことか？-パートⅡ－その貴重な時間と空間の中で-』（1999 年 11 月）の、「はじめに」と「おわりに」を紹介することにする。

＜はじめに＞

この度、『「大学で学ぶ」とはどういうことか？-パートⅡ-』を発刊することになった。前刊で紹介しきれなかった、様々な学生たちの隠された思いや成長の姿、あるいは大学に学びに来た現職教師の意外な？リフレッシュの姿、そして何よりも、研究室生（ゼミ生）の、生の成長の過程を見て欲しいと思ったからである。

現在、学生たちは、基本的には、ほんの四年間という年月で、卒業していくことになっている。しかし、その時間と空間は、あまりにも短くて、狭いと言わざるを得ない。特に、学校の教師を目指す学生にとっては、なおさらである。最近は、とみにそのことを感じる次第である。大学受験という難関を一応クリアしてきたとは言え、精神的に成長しきれないままに、自分自身を見失ったり、次なる目標をなかなか見つけられずに、挫折していく若者（学生）が増えていっているように思えるのである。

ところで、こうした現象は、ある特定の学部、専門分野に身は置いているものの、まだまだその途中のプロセス、例えば、専門やその将来の職業にとっての基礎・基本となる物の見方や考え方を習得していく、あるいは様々な人間関係の中で自己を確立していくプロセスが、抜け落ちているということを示すものであろう。近年、学校教育において、「総合的な学習の時間」の必要性が叫ばれているが、実は、このことと直結しているものと言えよう。今回は、そうした視点とスタンスを前面に出し、彼らの真の姿・心のプロセスを追ってみることにしたい。

ちなみに、人間は、あるきっかけがあれば、大きく変わるものであるし、また自らを変えていく力ももっている。たとえ、その短い時間と狭い空間であったとしても、その変わるきっかけを得たり、変える力を身につけることができるならば、それはそれで極めて意味のあるものと言える。

「大学」という「時間と空間」が、そのために存在する「特別な教育機関」と位置づけられるならば、我々大学教官は、そのために尽力すべきであろう。「学問・研究」という美名の下に、そうした学習者（学生）の実態から目を背けることは、結局は、その大学自体を、自らが解体することになる。それを実感させるべく、今、さらなる外圧が、着々とそのエネルギーを膨らませている！

＜おわりに＞

私（堂本）は、最初に出した『「大学で学ぶ」とはどういうことか？』で、とても「シャイ」な人間と評された。多分、それは事実であろう。しかし、やはりただの「シャイ」なのではないことを、ここでは名状しておきたい。

さて、私（堂本）のペンネームは、自らの学生時代に使っていたペンネームである。短編小説、詩、短歌、評論等、とても作品とは言い難く、いずれも世に出したことはないが、いわゆる、自称「物書き」としての自分の存在証明を求めていた（ただの「かっこし」であった？）、若き日の自分へのこだわりが、遠く時空を超えて、今蘇りたいと、内なる叫びを発しているのであろう。その証拠に、専門分野での書評では、このペンネームを使用していたり、気心の知れた学生たちには、その存在をちらつかせている次第である。

ところで、私（堂本）は、自分では何もできない、何もしていないことに、どこかで引け目を感じ、自分の専門分野における研究貢献についても、極めて不十分であることを自認している。しかし、だからこそ、自分は、自分にしかできないコミットメントを、自分のスタイルでやりたいのである。それは、ちょうど「物書き」の真似事をしてみて、やはりそれが自分の本務？ではないことを悟り、ただひたすら与えられた現実（自分で選べるほど恵まれたものではなかった！）を邁進してきた二十五年近くを、学生時代の果たせぬ夢を、今こうして形を変えて実現したいという気持ちに託しつつ、振り返っていることを意味するであろう。私（堂本）が、このペンネームに固執するのは、まさにそのためである。

最後になるが、一つひとつの小さな事実を、意味のある束にし、それを一つの世界として表現すること、それは、ちょうど私（堂本）が目指した、「物書き」の原点ともいうべきものである。だから、私（堂本）は、これからもこうした形で、たとえどんな評され方をしようとも、自らが感じ、見つけた意味ある世界を、他の人に伝えていきたいと思うのである。それが、私（堂本）の、多分この世に送り出された理由だと思うからである。

ただ、私（堂本）のそういう世界は、無理やり関わらされている学生や大人の人々（家族も含めて）には、やはり気の毒かもしれない。しかし、それを越えて、その世界に関わることに賛同してくれる人がいるからこそ、私（堂本）は救われるのである。

（1999 年 10 月）

※なお、上記の２つの本は、今では、もちろん絶版とはなっている！しかし、ひょっとしたら、例の「アマゾン」で購入できるかもしれない?!私の手許には、何故か、最後の 1 冊ずつしか残っておらず、もし可能であれば、そうして欲しいものである！やはり、実際のものを生で？見てもらわなければ、その具体的なイメージは湧かないからである?!

（４月 12 日）

43　一体誰・何が、問題なのか?!分かってきた?!ある人・ことの功罪?!

ここでは、最近頓に感じている（分かってきた？）ある思いについて、書き綴ってみたい！それは、近年の「学校と地域の関係づくりの機運の高まり」、そして、その中での「社会教育の新たな役割」（フォーマル教育とインフォーマル教育の仲立ち機能）に関わることであるが（やっとそういう時期が来たかと、私自身大いに期待しているが！）、少なくとも現時点では、残念ながら、それに伴う、いわゆる「法制度上」の進展は、あまり見込めそうにないということである?!

ある意味、「機は熟している！」のに、何故、足踏み状態となるのか？、その辺りを、多少これまでとは違った視点（思い？）で、語ってみるということでもある?!端的には、これまで私が嫌と言うほど実感させられた「壁」よりは、むしろ、はっきり言えば、学校教育関係者の、とりわけ管理職や指導的立場の人達の、今となっては「何とも言えない動き・スタンス？」が、問題なのではないかということである?!

とにかく、ここで言いたいことは、「問題なのは、知っている、分かっている（つもりの）人達の立ち居振る舞いである?!とりわけ、『自信がある』『やっている』（と言う？）人の立ち居振る舞いである?!」ということである！

これまでは、こういうことは言わなかったし、それなりの変化は見られていたので、その意味で、期待？をもって待ってはいたのであるが、今は、やはり言わなくてはならない?!

単純に言えば、「あなた達の立ち居振る舞いは、結果的には、功罪相半ば？ひょっとしたら、今では、罪？の方が大きいのかもしれない！」ということである?!

ちなみに、多くの関係者は、多分「知らない！だから、動きようがない！」、あるいは「知りたいが、そのような機会、つまり時間や余裕がない、創れない！」ということである?!

やはり、彼らに課題をぶつけるのは、それなりに「可哀そう？」だということでもある?!

だが、ここでは、彼らの、「地域との連携・協力は必要である」とか「学社融合→教育協働は大切である」とか、一応、知識や情報としては知っている、あるいは「（管理職や指導的立場としての）心構えや立ち居振る舞いはできている（と言う）」ということに対する指摘（批判？）ではなく、本当に、「何故、そのことが必要なのか」という理解（納得）と、それを実現するための、具体的な行動・実践力が身についているのかどうかということである?!

要は、儀礼的あるいは表面的には、そういうことの必要性を主張したり（昇任試験にそう書くとかを含めて！）、部下に？指示したりするだけでは、事態は変わらないということであるが、もっと突っ込んで言えば、そういう態度や行動が、意図に反して（皮肉にも？）、逆効果あるいは、ある種のブレーキとなっているの

かもしれない?!ということである。

さて、こうした批判？や課題に応えられる道筋？が、今回の「(大判) 社会教育」誌に見られるように思う。とりわけ、K大学のＩ．M教授の、「『学びとは何か＜探求人＞になるために』～『アクティブ・ラーニング』をキーワードにして～」は、まさに私が、ある意味漠然と（直感的に？）感じ、示して来た「学びの本質？」が示されているように思われる?!

癪？ではあるが、「まさにここに答がある！」と思うのである！「生涯学習（の推進)」にしろ、「地域教育経営」や「学社融合から教育協働へ」にしろ、目指すべきものは、人々の生涯に亘る、しかも「生きた学習」の支援の必要性を示すものであり、そのためのしくみづくりを行うことであるわけである！

改めて、そこに求められるのは、教育の全体性の構築（再興）であり、だからこそ、学校教育と社会教育の連携・協力が必要なのである！そしてまた、家庭教育や、その他の、「教育」とは位置づけられていない、多種多様な学びの場づくりや、そこにおける「教育作用」への注目が求められるのである！

つまり、現在（現実？）のしくみ・場では、そうした教育の全体性がうまく機能していないのであり、したがって、そこで繰り広げられる、それぞれの学びが、まさに「生きた学び」とはなっていないということなのである?!

もちろん、そうしたしくみづくりは、実際には、完全なものなぞ出来ないのであるが（理想ではあるが?!)、出来るだけ良いものには近づけることはできるであろう（一種の「漸進主義」。これを、私は、「more than」の思想と呼んできた！)。

この積み重ねが、実は、教育（者）の真髄であり、そのことから目を背けたり、逃げたりすれば、結局は、その中で都合の良いもの、都合の良い人のみが、それを逆用したり、そこにへばりつく？ことにもなる?!

ある種の現実主義ではあろうが、率直に言えば、現実迎合？主義（自分の身や将来を大切にするということも含めて?!）となっており、「これぐらいやっていればよい。どうせ頑張っても、あるいは自分だけが頑張ってもどうにもならない。

さらには自分だけが、何故辛い思いをしなければならないのか。」といった、ある種の「諦め」や「居直り」が、やっているようには見せてはいるが、そこに浸潤しているのではないかということである?!

本当に残念ではあるが、それもこれも、そこに「教育の全体性の構築（再興)」が必要であり、だからこそ、学校教育と社会教育の連携・協力、そして「本当は、家庭教育や、その他の、『教育』とは位置づけられていない、多種多様な学びの場づくりや、そこにおける『教育作用』への注目が求められる」ということへの理解（納得？）と実践に問題があったということである?!

ただし、もちろんこれは、特定の個人を責める？ことでは、決してない?!責める？だけでは、何も生まれてこないのである！

（4月17日）

44 「ＮＰＯ（法人）」と若者達の思い?!岐路となる就職への道?!

さて、ここでは、「『ＮＰＯ（法人）』と若者達の熱き思い?!」について、これまで考えていたことを、少し披瀝してみたい！実は、このことについては、以前、ちょっとだけ書き始めてはいたのであるが、その後、別なことで何やかやと考え、そこでの「途中までの文章」を、これまで放置しておいたのである?!

このテーマが、その時の私にとっては、あまり切実ではなかった？ということもあるが、本当は、このことについては、私にとっては、かなりヘビーな（深刻 or 重い？）テーマであり、第三者？としては、簡単に論じてはいけないことのように思っていたことも、その理由にある?!

多分、そのことは、一面では当たっているであろう?!しかし、改めて今、目の前を翔び立っていった、そうした若者達（一部ではあるが）に関わって、「『ＮＰＯ（法人）』と若者達の熱き思い?!」ということで、少しまとまって論じてみたいという思いが、再び出てきたということである?!

そこで、まずは、以下は、その放置してきた「途中までの文章」（若干加筆はしている！）である。

先日（１/24)、一つ前の学部教育組織であった「島嶼文化教育コース」の卒業生Ｈ君が、その信頼（尊敬？）する仲間（上司？）である、これまたＨ君（ここでは「さん」の方がいいかな?!）と始めた、「Ｓ学園（沖縄校？）」を訪ねた。Ｎ県にある「合同会社」が経営？している形であるらしいが、Ｈ君らが、それまで行ってきた「若者支援の活動（事業)」を、(かなりの紆余曲折があったが?!)、言わば継続（発展？）させたものということができるようである?!彼の同級生Ｋさんの、東京での結婚式への同席のこともあり、近いうちに、一度は顔を出そうと思っていたが、４年次の卒論が、思いのほか早く出来そうであったので（一応、この日に、大体書き上げていた！)、彼らの慰労も兼ねて？急遽訪ねた次第である！

と言うのも、そこには、いわゆる「居酒屋」もあり（一階部分？)、そこで久し振りに、飲食を共にしようと考えたわけである！私が言うのも変だが、実に品の良い店であった！もちろん料理も美味しかった！けれども、名前は憶えていない（店主さん、申し訳ない！）！ちなみに、その店の売り上げの一部を、法人の運営費にあてるというしくみらしい(その施設・ビルの共同テナントということか)?!そのご主人の心意気？には、何故か、心打たれた！いい人が、いるものである！

だが、そこで思うのであるが、これまで、それこそ雨後の筍のように、様々な「ＮＰＯ（法人)」が、全国各地に設立され、ある意味「一つの事業（→ビジネス？）分野」として、社会に定着している?!それこそ、今では、なくてはならない存在になっているわけである?!しかし、である！問題は、事業や活動の有益性とは裏腹に、特に「若者達」の就職先という点でみれば、どうなのかな？という思いが、常に脳裏を過るのである！これについては、過日我が家を訪ねてくれた、これも長野県の、ある「ＮＰＯ（法人)」の代表理事であるＴさんのことが、思い出される?!

とまあ、こんな感じで書いていたのであるが、改めて読んでみると、やはり最後の部分を、どのように展開するのかが、かなりの難題であるように思う?!要は、「ＮＰＯ（法人）」は、確かに必要ではあり、行政や、既存の民間事業では、なかなか出来ないような仕事・役割を果たしてはいる！

その中には、限りなく営利に近いものもあれば、まったく純粋な？、まさに文字通り「ボランタリーなもの」もあるようであるが、いずれにしても、その事業や活動に若者達が参画・参入することは、ある意味自然であり、それこそ良いことではある（使命感ややりがいの副次効果も手伝って）?!問題は、その事業や活動の枠組みでは、多分多くの若者達が、いわゆる「飯が食えない?!」、つまり自らの生活（とりわけ家族生活）を維持するだけの収入が伴わないということである?!

ただし、それでも、眼前の、本当に辛い（悲惨な？）日々を送っている子ども達（大体高校生くらいまで?!）、家庭の事情等で、行きたくても行けない状況にある、不登校や引きこもりの子ども達、彼らを、どうしても放ってはおけないと、頑張る彼ら?!

何かできないのか、何とかしてあげたい、既成のしくみ（通常の学校や行政の対応）では、どうしても彼らを救えない、あるいはそうすることが、本当に彼らを幸せにすることなのか、そうした思い（憤懣？）をもちながら、自分達の思いや行動で、たとえそれが、特に経費的には厳しい状況にあったとしても、まさに頑張っているのである?!

そこで、一つ気になる？のが、（少なくとも私が知っている）彼らは、例えば「教育実習」や「社会教育実習」、あるいは、卒業後、ある自治体の「社会教育指導員」として、短期間（１年間）ではあるが、行政あるいは公民館等の業務を行っているのである！それを踏まえての、今の活動・就職？先選びではあろうが、教員になることを忌避したり、教育委員会の職員になることを選んだりはしていないのである?!

だが、彼らは、それを、「慈善」や「福祉」ではなく、まさに「教育」という形で尽力したいとも言っているのである?!果たして、そこには、何があるのか?!通常のそれは、自らが、ある意味生涯をかけて働くところではないというのであろうか?!学校や行政に入って（就職して）、そうした思いや活動を、展開しようとはしないのである?!

私としては、たとえその時（その場所）が、そうした思いをもてない場所（経験）であったとしても、否、そうであるなら、なおさらのこと、そういうところに就職して（一方では、生計が立てられるということ！）、自らの活動・貢献にチャレンジして欲しいと思うのだが、何とももどかしい（歯痒い？）?!とにかく今は、自らが選んだ場所（関係）、方法で、それをやっていくしかないのであろう?!岐路は、後から、それと分かるものかもしれない?!　　（４月 27 日）

45 ホームページの「二頭仕立て」！その「協奏」に、何を期待する?!

先号（㊹）で、今の私にとっては、かなりヘビーな話題を取り扱ってしまったが、一度は出さなければいけないと思っていたことであり、そのことについて、このシリーズでも、何か書き記しておきたかったということである?!

しかし、当然ながら？、ある意味どうしようもない問題であり、実際は、その当事者である彼らが、結局は決めることではあるのである！そして、いかなる結論（末？）になろうとも、彼らが、彼らなりに、それに立ち向かって、すなわち「目の前の現実の、その時々を精一杯生きていけばよい」のである（以前の私がそうであったように?!）！実は、最後は、このように言わざるを得ないことは、予め？分かってはいたのである?!

ということで、ここからは、そのことはきっぱりと割り切って、今回の話題に入ることとしたい！まずは、標題に示しているように、過日（４/８）より、我がホームページを、「二頭仕立て」にしているということである！

具体的には、私自身の「教育協働研究所～岳陽舎～」と、それと共同する「イノベーション NEXT」（琉球大学で社会教育を学んだ若者を主力とした、同好の学習・活動集団！）の事業・活動の交流や情報提供を、別々のホームページで行っているということであるが、それを、直接にリンクさせてのことであるので、まさに「二頭仕立て」ということなのである！

ところで、何故、こうした、捉えようによっては、複雑（無駄？）なようにも見えるシステムとしたのかであるが、理由は、いたって簡単である?!

ご承知のように、イノベーション NEXT の主力メンバーが大学を卒業し、それまで大学の研究室のパソコン（一部、個人のパソコン）で、その交流や情報提供が出来ていたのであるが、その共有のパソコンが使用できなくなり（私の研究室がなくなったということ！）、やむなく私の家（「岳陽舎」）のパソコンに、それまで使用してきたホームページ・ソフトを改めて装着？し、このパソコンを、ネットワークのキーステーション？（データの入力・変更等を行う！）として、新たに使用することとなったのである！

だが、このように、そのパソコンを、改めて我々の「ホームページ運用」の共有パソコンにしたのであるが、そうなると、卒業しているイノベーション NEXT のメンバーが、気軽にそのパソコンに向かうことが出来なくなる（その都度、私の家に来なければいけない！）?!

そこで、何か良い方法がないかと思案していた、我がメカニック担当？のＯ君が、インターネット上で、しかも無料で運用できる、あるソフト？を発見したのである！彼は、それが無料ということもあり、こちらの方で立ち上げた、この「ホームページ」も、それに移し替えたらいいのではないかと、進言もしてくれたのである！

しかし、私は、もう今年の契約を終わっている（使用料を払っている）ので、

今すぐは、それは出来ない（もったいない？）と判断して、どうせなら、二つの「ホームページ」を併行運用し、幸い、どちらからでもアクセスできるということであったので、このような体制にしたのである！

なお、後日談であるが、経理担当？の妻によると、支払いは２か月単位で、一年分ではないことが判明した！ただし、次に述べる別な理由？で、私は、この「二頭仕立てのホームページ体制」を、改めて継続していきたいと考えている！

では、その別な理由とは何か？その大きな理由は、その操作・アクセスの仕方の違いもあるが（でも、ほとんど問題はない！）、やはり、その二つのホームページの役割・存在意義自体が（読者層の違い？も含めて？）、かなり異なるのではないかということである?!

簡単に言えば、「教育協働研究所～岳陽舎～」（のＨＰ）は、いわゆる「大人用」、「イノベーション NEXT」（のＨＰ）は、まさに「若者用」ということである！例えば、前者の場合は、特に、（今のところ？）「堂本彰夫コーナー」がメインであり、しかも、そこには「東シナ海眺望記」とか、ほとんど私の個人的な趣味？（そうは言わせたくないのであるが?!）の世界である「古代史の旅」があるので、若者達にはどうなのかな？

ということと、一方で、若者達が生み出していく「教育協働」に関わる各種の動き（機関誌「岳陽」の発行を含む）、あるいは軽いタッチ？のブログやツィッター、そこに載せる画像等とは、扱い（読み）方が、かなり異なってくるのではないかということである?!

もちろん、若者達には、もう一つの「教育への思い」も含めて、「東シナ海眺望記」や「古代史の旅」も、どしどし見て（読んで）欲しいと思ってはいるが、なかなかそれは厳しい？と言わざるを得ない?!彼らの、いわゆる「ＳＮＳ」等、他の交流状況を垣間見ていると、その思いは、ほとんど確信に近い?!

そんなわけで、ひょんなことからではあるが、これからは、この二つの「ホームページ」を、それぞれが、それぞれの直接の思い（使用価値？）を載せて運用し、その相乗効果、かなり気障ではあるが？、その「協奏」に、大いなる期待を寄せるものである！

今、この記事をご覧になっているみなさんは、どう思われるのか?!もし、よろしければ、メールやツィッター等で、ご意見等いただければ、有り難いものである?!

ということで、今回は、ほとんど「教育論」としての体を、成していないものになったような気もするが、これも、一つの「教育論」、つまり、大人（この場合は、「高齢者」かな？）と若者達とのコラボの仕方、多少誇張して言えば、ある種の「青年教育」のあり方を、アピールしているとも言えるであろう?!

（４月 28 日）

46 ゼミ活動（学生時代）！思い出は、楽しいことだけ?!それで、よい?!

ＧＷ中（５/３～4 日）に、北部本部町の瀬底島のペンションに、文字通りのＯＢ達（男子卒業生→イノベーション NEXT の主力連?!）と、春の合宿？に行く（った）ことは、別シリーズでも述べたが、疲れたが、とにかく無事終了した！

高齢者？である私にしてみれば（最近とみに、それを感じている?!)、深夜早朝までのつき合いはハードではあったが(寝不足は仕方ないにしても?!)、ここでは、その深夜早朝に行った話し合い（談笑？）において、私が感じたこと、考えたこと等を、多少アットランダムではあるが、思いつくままに書いてみることにしたい！（ＨＰのツィッターで、写真付き経過報告もあり！）

ちなみに、その話し合い（談笑？）の録音記録については、この間一番暇である？私が、いわゆる「テープ起こし」を行った（紛失させたと思っていたボイスレコーダーが、我が家にあったのである！）！一応、その概要を拾い、一昨日（９日）から昨日にかけて、パソコンに落としてみた！

当日の話し合い（談笑？）を思い出しながら、改めて彼らのトークを聞いていると、事実関係は、それぞれほぼ覚えているが、その時々の、彼らの胸の内までは分からなかったことも多く、そこで繰り広げられていた青春模様？が、改めて懐かしく思い出されもした！

もちろん、私としては、あまり思い出したくもないこともあったが、そこはそこ、彼らのノリに合わせて、話し合い（談笑？）に参画していた自分がいた?!

さて、まずは、この企画の趣旨であるが、過日行った第１回研究会（４月８日の「琉球海炎祭」の日）の時に、新しくリーダーとなった「子どち」１期生のＦ君が、夏休みにキャンプでも出来たらという提案をしていたのであるが、どういう訳か、このＧＷ中に、春のキャンプならぬ、「ペンション泊？」をやろうということになり、急遽日程・場所等が決定された！

私としては、当初、そういうことが出来ればなあと思ってはいたが、最早全員？、いわゆる社会人であるので（しかも、互いに、最近はかなり頻繁に会ってはいる?!)、話だけで終わるのだろうと思っていた！

しかし、彼らは、流石であった！団結力というか、決断力というか、実行力というか、まさにそういう力を共有していた（ただ、そういうことが、単に好きなだけかもしれないが？特に、〇〇君は?!）！

だが、もちろん、そういう要素もあったのではあろうが、今回は、やはりこれからの「イノベーション NEXT」の方向性、具体的な行動計画を、まとまった時間を設けて、みんなで話し合いたいという思いがあったことは事実であろう！

否、そうでなければ、こうした企画が実現するはずもない?!彼らの、さりげない盛り上げ方？を、改めて知ったということであろうか?!

その中で、折角やるのだったら、連載中の雑誌『社会教育』の、今後の新た

な記事づくりについて、彼らに投げ掛けてみたいということで、それに結びつく話し合い（談笑？）の時間も設けてもらったのである！

なお、この合宿（一応「第２回研究会」とした！）の報告は、機関誌『岳陽』（今季第１号）でなされることになっているので、本格的には、そちらの方を見ていただければと思う！

ところで、その話し合い（談笑？）であるが、話題（テーマ）の柱として、「若者（学生）達の学びのプロセス」を見るということで、１「『青年教育』の場としてのゼミ活動～若者（学生）としての成長～」、２「『人材養成』の場としての研究会活動～教育人材・関係者の卵としての成長～」、３「『人間形成』の場としての『大学』～一人の人間としての成長～」の三つを考えていたが、結果的には、１が中心とはなったように思う。

私としては、それが、雑誌『社会教育』の、今後の記事づくりに直接生かせればということではあったが、私が秘かに期待？していたのは、それらについて、彼らが、卒業後どう受け止め、どう語るのかということであった?!

それについては、残念ながら、ほとんどまとまって聞けなかったが、ツィッター上のＴ君の「つぶやき」があるので、最後にそれを紹介し（Ｔ君、事後承諾お願い！）、多少なりとも想像していただけたらと思う?!

参加メンバー全員が男という、なんとも暑苦し?!（笑）く見えるような感じですが、本当に一人一人が真剣に向き合い、そして充実した合宿になったと思います。細かな詳細については、5 月下旬発刊予定、機関紙『岳陽』の中で報告させていただきますので、ここでは、自分自身が合宿を通して感じたことについて、少し書いていこうと思います。一番感じたことは、なんと言っても、「先輩の偉大さ」でした。それぞれが、各年代のイノ研で中心となって支えてきたということもあり、一つ一つの発言にとても深みがあり、また「こういった視点もあるのか」とたくさん学ばせてもらいました。気遣いや心遣い、全てにおいて先輩方は、自分のさらに先を歩いているんだなと痛感させられたと同時に、このメンバーで今後活動していくことに、とてもわくわくするような感覚を感じさせられました。まだまだ、しっかりと形ができているわけではありませんが、熱い想いを持っている先輩方とともに、できることをできる時に、何より楽しく活動していき、そして、これまで学んできた「地域教育経営」や「教育協働」という考え方を、一人でも多くの方々に知ってもらい、仲間を増やしていければというふうに考えています。

以上、こんな感じであったが、全体としては、やはり「楽しい思い出」、否、正確に言えば、「今は楽しかったと言える?!」思い出が、話し合い（談笑？）の中心であったということであろうか?!それはそれでよいし、それがまた貴重なのだとも思う！いずれにしても、改めて問題は、これからである?!

（５月 12 日）

47 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!

先号（㊻）でも書いたように、現在、雑誌記事の新たな執筆企画（若者達の活動や思いを紹介できるもの?!）を考えており、先日リニューアルした「イノベーション NEXT⁺」の主力メンバー？にも、学生（ゼミ）時代の思い出や、その時々の胸の内等を、改めて聞き出す？ことが出来た！ここでは、多分そのことと関係すると思われるが、かなり以前の授業（「教育原理」）での、その時に得ていた受講学生の感想等も、是非視野に入れておきたいと思い、それを収録していた『「大学で学ぶ」とはどういうことか？−パートⅡ−その貴重な時間と空間の中で−』(1999 年 11 月）から取り出し、紙幅の都合で、彼らの感想文そのものは、ここでは紹介できないが、彼らのそれへの私の返答（「ブリーフ・コメント」）を、以下、紹介することとする。

要は、ここでは、私が、彼らに、どういう返答（ブリーフ・コメント）をしていたのかであるが、端的には、それらを書いた当時の学生達（言わば「普通の？学生」）は、今、どこで、何をしているのか？多分、現在、そのかなりの学生達が、いわゆる「学校の教師」をしているのであろうが、(私の）大学での授業を、今どのように受け止めているのか?!そしてまた、それらも含めて、彼らはどのように生きているのか?!私は、そうしたことに、思いを馳せてみたいのである?!だが、実際は、そのことについては、まさに知る由もない?!また、下の文章の網掛け部分が、その本に示している、私の「ブリーフ・コメント」ではあるが、当然？、それを書いた個々の学生達は、その「ブリーフ・コメント」を、直接は見ていない（本を購入、または図書館で閲覧していれば別だが！）?!

ちなみに、便宜上、「自己像・自己理解」「教育（学）への接近」「自らの教師像」「これからの学習・活動に向けて」の、４つの見出しを設けているが、必ずしも、それにすべてが対応しているわけではない?!ある意味、私の独断と偏見？で、そのように仕分けしているだけである！なお、全員分を、ここで収めようと考えていたが、やはり１ページだけの紙面では、すべてが入り切れないので、次号にまたがって、これを紹介することにする！予め、ご了解いただきたい！まずは、教育学部生からである！全員１年次（後期）である！

＜自己像・自己理解＞

・個性の中身について→まったくその通り！単なるわがままや一人よがりではない！

・宿泊学習での自分の姿

　→大勢の中での自分の姿を客観的に把握できることから、すべてがスタートする！

・「分からないこと」への後悔

　→気がついた時が学習チャンス。「自己教育力」のスタートである！

・授業は、自分の心がけ次第→まったくその通り！それが、「大学」での学びなのだ！

・自分の理解力の細さ

→「理解の幹」は、これからでも太く、大きくできる。大学は、その絶好の場であり、時間なのだ！

・みんなより無知なのでは？→無知からの努力をすることは、決して無知ではない！

・まだまだ経験や知識が足りていなかった？

→他者の存在に前向きであることは、自分をも伸ばす！

・「学習メモ」の効用？→自分が見えてきたという実感は、とても大切なことである！

＜教育（学）への接近＞

・「本当の自分の教育原理」への自覚？→これこそが、この授業の真のねらいなのだ！

・「教育って何だろう」→こうした関心をもっていれば、徐々にいつかは自分なりの教育観が出来上がってくる！

・教育の捉え方→そこから、他ならぬ「学校の役割」も改めて見えてくる！

・教育についての考える機会→生涯学習のブームの部分のみに、決して惑わされるな！

・身近なところから学ぶ→現在言われている「総合的な学習」の必要性が、まさにこれ！

・教育学の有用性→「教育学」は、それほど盤石ではない！それぞれの生きた現実にこそ、「教育学」の根っ子がある！

・「ボランティア」の考え方

→あくまでもボランティアは、学習の一環であり、きっかけである！

＜自らの教師像＞

・教師について自己探求

→教師は最初から教師なのではなく、周囲との関わりから作られるものである！

・これから出会う様々な人々との体験を通した交流

→自らが築く多くのネットワークが、教師自身を手助けしてくれる！

・「支援」の意味

→ただし、「支援」とは、単なる便宜供与ではない！そこに、どんな思いがあるかだ！

・教師になるための気持ち・きっかけ

→焦らず、急がず、ゆっくりと自分の道を見極めて！

・教師の望ましいスタンス→確かに、理念・目標のない教師は虚しい！

・自分は、教師に向いていない？→ただし、この時点では、自分の将来は決められない?!

＜これからの学習・活動に向けて＞

・ディスカッションの大切さ

→ディスカッションは、何よりのコミュニケーションとなる！

・「心の教育」の必要性→まさに、これこそが今、教育の最大の課題である！

・親になるためにも勉強したい→親は、子育てによって育つ！

（5 月 14 日）

48 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!-パートⅡ-

ここは、前号（㊼）の続きである！以下、同じように紹介していきたい！なお、ここの学生は、教育学部以外の他学部生で、ほとんどが法文学部２年次生（後期）である。

＜自己像・自己理解＞

深く探求していきたい（医・１）→ただし、性急になることなかれ！／自分をきたえるいい機会！（法・２）→自分にもこんなに考える力があったんだ。この発見こそ、最大の収穫であろう！／「教師」への断念・決意する機会となった（法・２）→まだまだ自己決定のチャンスは残されている?!／人との出会いで、世界・人生観が広がった（法・２）→人が人を創るということは、こういうことを指すのでしょう！／新しい発見の連続（法・２）→こうした思いが、いつまでも続きますように！／宿泊学習は有益であった！（法・１）→授業５回分とは大げさだが、そうした思いは貴重である！／宿泊学習・もう一人の無邪気な自分を出せた！（法・２）→もう一人の無邪気な自分を見れるなんて、逆に羨ましい?!／宿泊学習、久し振りの修学旅行のような感じであった（法・２）→修学旅行ですか？確かによいものですね！／宿泊学習、風邪で行けなかった！（法・２）→いろんなスケジュール選択が、これからも待っている?!／交流が出来た、楽しかった、友達が出来た宿泊学習！（法・２）→人との交流、いろんな発見をするものです！／「学習メモ」は身に付いた！（法・２）→書くことは、やはり偉大な力を有している！／「学習メモ」を書いたこと、それにより私の視野は広がった（法・２）→聞き上手は、動き上手?!／きっと今後の私の何かが変わる？（法・２）→変わることには、喜びと苦しみの両方がある?!／失敗の多い経験ばっかりだったが、それだけ学ぶことが多かった（法・２）→きっとこれから、多くのことを知り得る！

＜教育（学）への接近＞

私にも、それなりに教育に対して思うことがあった（法・２）→教育には、素人も玄人もない?!／見逃していたものや見ないようにしていたものに気づかされた（法・２）→現実を見極める目、それが常に問われる?!／教育を安易にとらえていた私！（法・２）→そうした素直さが、大きな力となる?!／教育の本質見えてきた?!（法・２）→教育の本来の姿、だれもが早く気付いてくれるだろうか?!／教育は魅力的な学問？（医・１）→学問が魅力的なのか、その学問の先にあるのが魅力的なのか?!／討論の時間がよかった！（法・２）→他人の意見に前向きであることは素晴らしい！／学校は開かれるべき？（法・２）→開かれた学校。何を、どう開いていけばよいのか。関係者に課された課題は大きい！／相対的という言葉が好き！教育には、二律背反なものが附随？（法・２）→この世の中、すべてが二律背反かも?!

／総合学習は教師にとっても、生涯学習への道となる？（法・２）→「そうした考えを持てることに、ただただ脱帽！／社会も、教育も、よりヒューマニスティックに！（法・２）→難しい課題ではあるが、その方法しか残された道はない?!／「現実が理解のためにあるのではない」ということが、少しだけ実感できた（法・２）→現実は、それ自体に意味がある！／今後も、私から、教育についての問いが絶えることはない！（法・２）→とても骨太の思考の枠組み、将来が楽しみ?!／少しの規制の中で、「いかに自分を自由に表現していくか」?!（法・２）→「フェンスのある広場」、とてもいい表現かも?!／生涯学習の意味や全体像、以前より具体的に理解（法・２）→とにかく、自分の目で確かめ、理解することが重要！

＜自らの教師像＞

今大学にいるのは、自分の努力の結果だと錯覚?!（法・２）→教育者の存在の大きさに気づくことは、次へのステップ?!／自己教育力や確立された教育精神、柔軟さ（法・２）→教師の自己教育力、「生きる力」、これがまさに求められている！／現職の教師からの学校現場の話（法・２）→やはり、生の体験はすごいインパクトを発揮する！／教師という職業の奥の深さを、改めて知った！（法・２）→内なる「聖職者意識」、やはり必要なことかも?!／自分のクラスを持ったなら？（法・２）→その気さえあれば、何でもできる！／ピグマリオン効果、教師という立場はこわいものだな？（法・２）→確かにね！

＜これからの学習・活動に向けて＞

学び続けていきたい！（法・２）→それでよいのです！／人との意見交換がプラス（法・２）→これからは、それと直接の現実とのぶつかり合いが待っている?!／学習した内容を次週になると、半分ぐらい忘れていた（法・２）→学校教育の隘路が、そこにはある?!／話し合いの場の重要性（法・２）→話すことが、すべてのコミュニケーションの始まりかも?!／このような意見を交換する場は必要！（法・２）→限られた時間と場の中での授業、でも工夫の余地は沢山ある！／粘り強く解決していこうという努力が大切！（法・２）→そうした積み重ねが、やがて実りをもたらす！／無意味と思えた学習が、理解の幹を支えている！（法・２）→無意味な学習など、一つもない！たとえ、受験学習でも！／少しでも成長・発達させることができた実感あり！（法・２）→「理解の幹」の実感、頼もしい限りです！

註：医→医学部　法→法文学部　数字は学年

（５月 14 日）

49 普通の？彼らは、今どこで、何を思い、どう生きているのだろうか?!-パートⅢ-

結局、ここも、前号（㊽）及び前々号（㊼）の続きとなった！以下、同じように紹介していきたい！なお、ここの学生は、教育学部以外の他学部生で、理学部２年次生、そして法文、農学部３、４年次生（後期）である。

＜自己像・自己理解＞

ほとんど無知の私にとっては、とてもプラスになった！（理２）→「知らない自分」に気づいたこと、それが一番の収穫かも?!／質問や意見を遠慮。自分の弱さを、改めて反省（理２）→まずは、そうした気持ちから！／とても受身的で、自分の考えを出すことができなかった（理２）→受身的、人は、まずはそこから動き出す！／意味を知らない単語を確認！（理２）→言葉や概念に盛り込まれているものを、自分のイメージで捉えられること、それが「理解」です！／この授業は考える時間だったんだ?!（理２）→「考えるということ」、それが、今一番求められているのです！／役に立つ知識を身につけたいと、再び思った（理２）→詰め込み学習も、ある時、ある場面では、必要だ！／自分は文章もへたくそで、学習メモにも変な事しか書けなかった（理２）→この幼さは、見方を変えれば「力」となる?! ／自分の思考を断片的なものから、立体的なものへと導ける力の基礎を、今後も生かせるように！（農３）→「立体的な思考」、まさにそれこそが、「理解の幹」に通じる！／色々と目を開かせるような講義だった！（法３）→内にこもる自らを、いつの日か解放せよ！

＜教育（学）への接近＞

現代の子供達は、対人間の世界となると苦手?!（理２）→現在、そうしたことの危機が、いたるところで露見している！／教師・学校・教育というものの深さを知った！（理２）→人間の活動に、奥の深くないものはない?!／社会的に、「教育」とは何かを学んだ！（理２）→教育を「社会的」に見れるようになることは、一つの前進！／教育というものを狭い範囲で考えていた！（理２）→教育への視野の広がり、決してそれは無駄ではない！／一番心境が変わったのが、生涯学習の必要性について（理２）→生涯学習の必要性、それは様々な段階で看取される！／生涯学習、…私の周りの影響もあって、興味が出てきた（理２）→周りの人は、すべて自己の学習資源となりうる！／社会教育施設は重要、生活の中に！（理２）→学校の教師が、社会教育の世界を理解すること。まさに今、そのことが求められる！／教育原理は、全学生への授業として開講して欲しい！（理２）→確かに、そのことは言えるかもしれませんね?!／単なる言葉「教育原理」が、意味をもってきた！（理２）→その世界の意味を自分なりに実感できること、それが「学問」！／教育に関する法律を見直すことができた（理２）→「法律」を、おろそかにすることなかれ！／前回登録したクラスは、「教育学」の表面的な部分すらもかすらなかった！（法３）→どんな入り口が、そこに用意されているかによって、その人間のその後が決まる?!／知らないうちに「教育＝学校教育」の固定観念が?!（理２）→「教育＝学校教育」は、まだまだ根強く残るであろう?!／学校というものを相対化するという考えが自分にはなかった。とても新鮮だった（法３）→「学校を相対化せよ！」、これが一番のテーゼである！

＜自らの教師像＞

自分探しの旅を力強く歩む日々を送れる人間を育てたい！（理２）→自らも、自分探しの旅人たれ！／一時は教師になることへの自信ややる気もなくなってきていた（理２）→そうした苦悶の連続が、確固とした自分を創り出す?!／主体（教師）と主役（子供）の違いが分かった！（理２）→教育における「主体」と「主役」、これが分かればしめたものだ！ ／現場の教師の話、中学の時の担任と同じ教師に見えた！（理２）→すべての教師が、いい教師であれ！／教師と生徒の関係においては、プラスαの領域を目指したい（理２）→現状の教師の中には、素敵な人も沢山いる?!／たとえ教師にならなくとも、親になれば必ず何か問題にぶつかる（理２）→親は、最大の教師である！／教師は、専門知識を分かりやすく教えるだけではない（理２）→専門を生かすも殺すも、その人の人となり?!／ピグマリオン効果の意味が分かった？（理２）→期待されることの、メリットとデメリットを常に考慮せよ！／助言者・誘導者としての教師の力や質が問われる（理２）→まさに、そのナビゲーターこそ、求められる資質なのです！／教員になったとき、「何を教育するか」かという課題ができた（理３）→まずは自らが、示すこと！／教職とは、安易に選ぶ職業ではない（理３）→安易ではないが、その喜びは、果てしなく大きい?!／教師と生徒の人間関係には、「権威ある人－従属する人」という暗黙の了解?!（理３）→ただし、関係は「あるもの」ではなく、「創る」もの！／集団の中にできている人間関係を見極め、…解決していくことが、教師にとって大切である（理３）→集団の中に潜む「個々の人間関係」、これが実は曲者なのだ！／もっと地域と共同してつくりあげていったらいい！（法３）→地域との共同（→協働）、難しいが、やるしかない！／世界の教育事情を見てみると、…私のように思っているぜいたくな子どもたちが、日本にはどれくらいいるであろうか。…今の若い（、）プライドも経験もないうちに、しっかり「生きる力」を学んできてから、採用試験に臨みたい！（法４）→様々な体験、そしてまた見聞。スケールの大きい自分探しです！

＜これからの学習・活動に向けて＞

以前よりも真剣に考え、理解しようと努めることができる？（理２）→内省は、最大の武器なり！／相互交流の重要性！（法２）→「人間は人間（→教育？）によってのみ人間となる！」これは、確かカントの言葉だったかな?!／授業の知識を生かして、取り組めそう？（理２）→要は、すべての学習が、「循環性」をもつことが必要なのだ！／大学を卒業しても、生涯学習として、勉強していきたい（法３）→意志を持つ人間は、やはり強い！／教師にならなくても、この授業の内容は、他の場においても適用される！（法３）→自ら納得したものは、少々のことでは崩れない！／誰しも「変わる（or 変われる）存在である！（法３）→変わる勇気は、足元にある！／必ず議論する時間があった（理３）→議論するには、お互いの技量が問われる?!／「４年生だっていいじゃないか」と思いながら講義を受けていた者もいたのだ、と知ってもらいたくて書きました！（法４）→いい意味での問題提起、逆に教えられます！

註：法→法文学部　理→理学部　農→農学部　数字は学年

（５月 17 日）

50　現職教員へのメッセージ！ただし、今となっては、かなり色褪せている?!

ある意味、これも、一連の号と同じ趣旨となるが、ある時の、私の現職教員へのエールである?!今となっては、かなり色褪せてしまっているようにも見えるが、想いとしては、変わらぬものが、そこにはあると信じている?!

ちなみに、これもまた、先に紹介している『「大学で学ぶ」とはどういうことか？−パートⅡ−その貴重な時間と空間の中で−』(1999 年 11 月）の中からのものである！いつの講習であったかは、定かではないが（確認したら、平成 11 年度のものであった！)、その時引き受けていた、沖縄県の「認定講習（Ⅱ種から 1 種免許への切り替えのための)」の受講者へのものである。対象は、中学校教師で、教科は、英語と音楽であったようである。

ただし、ここでは紙幅の関係もあり、彼（彼女）らの感想文（コメント）は、すべて省略した形となっている！したがって、今回は（も？)、私の、一方的な（自分勝手な？）エールの披瀝？ということになる！予め、ご了解頂きたい！

〇学ぶ教師。それは、生徒たちへの格好の後ろ姿となる?!／「まじめがやばい！」。実は、そのまじめさの中身が問題なのだ！／学校教育の限界？しかし、それは、全てを投げ出すことではない！／ただし、「隣の芝生…」となすことなかれ！／まさに、教師一人ひとりの意識の変容、そのことが求められる！／しかし、そこにある「善くなってもらいたいという願い」まで、退かせてはならない！／「情熱と失望の狭間」で、多くの教師が苦悩している?!／「忙しい」を連発している人は、「(心)」を「亡く」している?!／教師の「自分探しの旅」、それこそが今一番必要なのかも?!／不安は、今の「大学生」とて同じこと！／教師は、やはり「その思い」がある故に教師である?!／「再学習」の必要性。これもまた「生涯学習」の求めるところ！／「火をつけっ放し」にする人もいる?!／この「教育の三層構造的把握」こそ、これからの「羅針盤」となる?!／マンネリズムとあきらめ、これが内なる敵なのかも?!／「元気」を回復させる術、それはやはり「人との交流」だ?!／自らの現実との相克、教師とは辛いものかも?!／だが、すぐに分かってくれる中学生は、少ないかも！／ゴール、それは終わりなき目標かも?!／話し手は、聞き手によって、善くも悪しくもなる?!／分かってくれる人がいればこそ、続けられることもある！／ただし、なかなか他人の力は借りたくないもの！／人生の究極の目的は、愉快に、賢く、善く生きること?!／理論は、あくまでも現実の一部を説明するだけのものである?!／「学習」と「教育」の違いと関係。理解されているようで、実はよく理解されていない?!／「教育の原理」は、教えられて知るものではなく、自らが感じて創るもの?!／納得できるものがあること。実は、それが自己確立を促進する！／そうした気持ちがあれば、いつかは通ずるもの！／変わるからこそ、やりがいがある?!これがまさに、教育！／そうした教師がいればこそ、学校は学校たりうる！／こうした教師の胸の内、誰が分かってくれるのだろうか?!／それは、他ならぬ「大学教官」にも当てはまる！／その勉強の題材をどこからもってくるか？教師自身の「自己教育力」が問わ

れる！／本音で語り合える仲間、同僚。その存在は、果てしなく大きい！／まさに、これがリフレッシュというものでしょう！

＜英語＞

〇基本的には、教師の望ましいスタンスなぞ、他人が決めることなどできない！自らが、自らのスタンスを築くことが重要?!／「課題を見つけ、自ら学ぶ」、とても大切なこと！しかし、それができるのは、やはり「内なる自己ができている人」かも?!／「生徒に会うことが待ち遠しい」、何と素敵なことだろう！／「肩の力」より、足腰の強さ。これは、何事にも通じる！／現実を見ると、情けなくなることばかり？しかし、その現実からしか何事も生まれない！／教師が教えられる、学ぶとは、まさにこのようなことかも?!／幼いころからの夢。その夢の実現にこそ、人は生きる?!／決して教師は、挫折したわけではない！今、再生のエネルギーを蓄積しているのだ！／自由と平等。それは、ある意味では我々の永遠の課題である?!／少しでも、こうしたスタンスで、現場教師にはいて欲しい！／ただし、見せかけのバランスだけでは、すぐに行き詰る?!／懐深い理解力。逆に、沢山のことを教えられます！／理論と実践の融合。まさに求められるのは、このことでしょう！そのためには、理論の方の努力が必要?!／「理解の幹」は、誰が、どうやって太く、大きくしていくのか？「総合的な学習の時間」よ、心して臨め！／学校の教師が、真の生涯学習の構図を理解してくれれば、鬼に金棒?!／そうした偶発的な学習こそ、全ての学習の基礎となる！／「行きたくても、行けない」と「本当に行きたくない」。不登校には、複雑な様相がある！／全ては、命あってのもの！命あれば、変わることもできる！／教師（科）間の相互理解。それこそ、「総合学習」の目指すもの！／二項対立の渦の中で、教師も生徒も生きている！／教師のもつオーラ。しかし、それは、学ぶ側のリアクション次第?!／求められる「三者の連携」。ただし、言うは易し、行うは難し！／こうしたプロセスを経ているからこそ、貴重な教育者となれるのだ！／理想と現実。現実逃避に終わるのではない理想もある?!／自分探しの旅は、自らの心の旅でもある！／「教科を教える」と「教科を通して教える」。学校は、その両方をもつ！／目を閉じ、心を閉ざすことは、生徒たちの目を閉じさせ、心を閉じさせることになる！／そのことを生徒たちに伝える。インパクトは大である！／そうした場づくりが、これからの大学には必要！／人は、その状況においてのみ、生きるしかない！／教師たちの「交流学習」。まずはそこから！／優しさと元気。それを得られるのも、「意味ある他者」がいればこそ！／おじー、おばーの人生訓。やはり、説得力あり！／どんなちっぽけな花や実であろうとも、それが活きる場や関係があればこそ！それに優るものはなし！

＜音楽＞

（5 月 17 日）

51 小学校教員が、県立図書館で社教主事に！M県に、何が見える?!

こちらも、区切りの 50 号を越えた！ただし、最近の数号は、以前の私の本からのものを再構成？したものであり、歴然とした過去の披瀝であった?!とは言え、改めて、時が経っても、変わらぬものもあり、そこでの思いや課題が、ある種普遍的なものでもあるかのようであるった?!だが、やはり見ようによっては、事態はまったく改善されていないとも言えるのである?!

そこで、これからは、そうした過去を扱うにしても、ただ単に振り返るだけではなく（ノスタルジックに思い出すだけではなく！）、何故そうなのか（もちろん、本質的なもの、普遍的なものも、そこにはあるということであろうが？）、どうすればいいのか、それをどのように見ればよいのか、その辺りにも意を用いながら、それぞれの題材（テーマ）に迫っていくことにしたい！

ということで、無理矢理題材（テーマ）を探してきたように思われようが、先日（18 日）、M県で小学校の教員をやっている、旧「教育学専修」時代の卒業生M君（ゼミ生ではなく、いわゆる「メイト生」！）から、異動挨拶の葉書が届いた！確か、本人からの電話で、そして私の長女（この人も、同県の小学校教師！）からも、彼の異動の話は聞いていたのであるが、この間、彼には悪いが、すっかり？忘れていた?!

改めて、M君は、この４月から、同県の県立図書館で、「社会教育主事」として働いているということであった！学校の教員が、ある一定の年数の後、（見込まれて？）行政や、その所管の施設（青少年教育施設等）に人事異動（昇任？）することは、ある意味普通であり、何ら驚くことではないが、「図書館」で、しかも「社会教育主事」として働くということは、寡聞にして、私は知らない！

とにかく、面白い（ユニークな！）ケースであることは間違いないであろう！

いずれにしても、彼だけが特殊な扱いなのか、それとも以前からM県では、そのような人事が行われているのか、今のところ、私には分からない！まったくの、偶然かもしれない?!

ただ、当人が持っている資格（彼は、学生時代、Ｒ大学で社会教育主事の資格、厳密には、その任用資格を取得していた！）が、有効に活用された（る？）のか、たまたまその資格を有していただけであるのか?!

これについては、（結果的にはであるが？）非常に意味のある人事と言えなくはないのである?!

ちなみに、その葉書の手書き部分には、「今年度は神話語り部養成講座を主に担当することとなりました。」とある。「神話語り部養成講座」とは、実にM県らしいが、その企画・運営を行うということであれば、まさしく「社会教育主事」としての力量（専門性？）が、そこに求められているということではあろう?!

ところで、そう言えば、前にも述べたとは思うが、M県では、同県の教育研修センターに、「生涯学習・社会教育支援機能」も設け、私から見ると、いわゆ

る「学社融合」(→「教育協働」)のための組織体制・人材養成が進められているようにも見えるが(以前の一時期に、そうした動きが、都道府県レベルで、それなりにあったように記憶しているが、今では珍しいのではないか?!)、個人的にも、大いに評価していたところであった!

とにかく、必要な「総合行政的動き」、そして学校教育と社会教育の連携・協働のしくみづくりを目指す上では、関係者の「学社融合」的な養成・配置、すなわちその人事処遇が一番分かりやすく、ある意味説得力もあるのである!

ちなみに、この私の評価が、まったくの的を射たものであるかどうかは、定かではないが、もう随分前になるが(平成21年8月)、同県の研修講座(「社会教育専門講座」)に行かせてもらい、例の「教育(ひとづくり)と地域活性(まちづくり)の循環構造図」→愛称?「曼荼羅図」を紹介させてもらっていたが、これが今、何らかの影響(成果?)を見せているのであれば、この上ない喜びである?!

しかし、それも、今の段階では、まったく分からない!多分(絶対に?)、私の独り合点であろう?!

だが、要は、そうした考え方やしくみづくり(人事面も含めて!)が何故出来たのかであり、そしてまた、さらにここが重要であると思われるが、(学生時代も含めて!)各人が持っている免許状以外の免許や資格、あるいはそれまでに経験している有用な体験や知識や技能を、その専門性や職務遂行に(ここでの話は学校の教員であるが)、大いに生かすということである!

以前、企業等における専門性論議?において、「もう一つの専門性」と呼ばれる得意分野を持つことの重要性が主張されたように記憶しているが(→いわゆる「Πパイ型人間」)、まさに今回の人事・処遇は、この応用になるのかもしれない?!

この場合は、小学校の教員免許と社会教育主事の資格の組み合わせであるが、一人でも多くの要員が確保できれば、もちろんそれに越したことはないのであるが、限りある予算や人員枠の中で、個々の人間がもつ、各々の専門性や経験を、必要な場所で、必要な形で活用していく!それが、まさに「やり繰り上手」でもあり、その「人を生かす」ということでもあるわけである?!

かなりの余談だが、M君の担当が、「神話語り部養成講座」ということで、私には、まったく別の関心も頭を過っている!

ここでの別シリーズ(「古代史の旅」)を見て頂いている方には、容易に分かってもらえようが、実は、M県は古代史においては、ある意味謎の(重要な!)場所なのである!

神話ということで、いわゆる「天孫降臨」や「海幸彦・山幸彦」等の話が中心であろうが、古墳や神社、遺跡の話も、神武天皇や「タケツヌミ(八咫烏)」、実在の?「諸県の君牛諸井」、「髪長姫」等の話とも絡んで、誠に興味をそそられる話なのである!

(5月23日)

52 「学校評議員」制度から、何か新たな動きが出て来ないか?!否、出て来る?!

昨日（21 日）、久し振りに、公立の小学校を訪ねた！これまた、久し振りの「学校評議員」としてである！

その学校は、那覇市立のＡ小学校であるが、実は、現在、そこの小学校の校長をやっているＭさん（君？）は、随分以前ではあるが（Ｈ６～７年度）、私のゼミで、大学院生（現職派遣）をやり、その後附属小学校やＧ市で、行政にも携わりながら、管理職？の道を歩んでいた?!校長職の最初が、西表島のＫ小学校であったが、昨年度同校に異動・着任していた。

研究会にも、偶に顔を見せてくれてはいたが、最近はちょっと？であったので、少し彼の存在を忘れていたが、過日連絡・依頼があり、この度の「学校評議員」就任の話と相成った次第である！

実を言うと、私は、この「学校評議員」については、（Ｇ市の某中学校での）後悔譚？もあるので、再びこの任を引き受けることはないだろうと思っていたのであるが、流石にゼミのＯＢだけあって？、今自分の学校は、それこそ学校と地域の関係づくりを鋭意行っており（Ｎ市では、それに関わる「協働のまちづくり」→「学区まちづくり協議会」活動が、教育委員会サイドからではないが、各学校で行われている！）、是非それにも関わって（意見を述べて？）欲しいということもあって、快く？引き受けていたわけである！

「学校と地域の関係づくり」は、ある意味、今の私にとっては、「殺し文句」でもあるのである?!

ただし、これは内緒であるが？（笑い）、いつの頃からかは知らないが、「学校評議員」への報酬は出していないらしい（規定には、当分の間「凍結」とある！）！どこもかしかも、予算的な逼迫は相変わらずであるが、もともとほとんど少額なものまで、このように切り詰めなくてはいけないとは（累積されれば大きな額とはなろうが？）?!本当に、可哀想な？教育行政（世の中？）である?!

まあ、もちろんそんなことは、本質的にはどうでもよいことであるが、この制度も（多くの学校では、かなり形骸化していると私は見ているが！）、見方によっては、それなりの意義と可能性はあるということである！

具体的にはどういうことかと言うと、例のＣＳ（コミュニティ・スクール）や地域学校協働本部（←学校支援地域本部）事業を行うにしても、以前から実施されてきた、この「学校評議員」制度（の成果の蓄積?!）を活用、あるいはそれを踏み台とした、新たな活動の展開が期待できるのではないかということである?!

現に、そうした経緯の下で、ＣＳや地域学校協働本部事業を展開しているところも、多々あるように思う?!

要は、今（から？）、どんな考え方やしくみが、学校と地域（本来は学校教育と社会教育）の関係づくりに必要なのか、そしてまた、それは、改めて「何のために行うのか」ということであるが、それがないままに、いたずらに？組織や会

議を増やしたりするだけであれば、それこそ当事者達は、忙しさを払拭するどころか、さらなる多忙感を増幅させるだけである?!改めて、心してかからなければ！

ちなみに、今回のＡ小学校の学校評議員の顔ぶれ（全員で５人）であるが、他の４人のうちの３人は、私の知っている人達であった！私がＲ大に赴任してきた頃（前かもしれない？）、県教委の女性社会教育主事であった、元学校長のＵさん、その当時Ｎ市子連の役員であった、Ｎ市W児童館（「まちづくりネットW」の指定管理）の館長Ｍさん、そして、その仲間？の、W公民館（これも、「まちづくりネットW」の指定管理）の館長Ｍさんである。

Ｕさんとは、本当に久方振りの再会であったが、かなりのご年配？ではあるが、地元の地域活動に、今でも心血を注がれているようである。本当に頭の下がる思いである！

また、二人のＭさんとは、ここ数年来、よくお会いしていた間柄であるが、特に、W公民館のＭさんとは、もう一人の仕掛人Ｏさんと一緒に、W地区の「教育協働のしくみづくり」のお手伝い？をさせてもらっていた関係でもある！

前にも述べたとは思うが、今年度は（これからも？）、それに関わる予算措置がなくなったこともあり、少々（かなり？）気落ちさせられている私（達？）であるが、彼（の公民館）にとっては、この地区（学区）も、同公民館のサービスエリアとなっており、また新たな可能性をそこに見出せればよいということで（実は、どこからでも、何からでもよいのである！）、思いを新たにしたところである！

そう！綺麗事（理想・理念？）や「ないものねだり」だけでは、何も始まらないのである！本当は癪であるが？（腹立たしいが?!）、その時々の現実（関係者の顔ぶれや状況を含む！）から動き出さなければならないのである?!

ただし、これも、私のような立場の人間の（ずっとそこに関わっているわけではない！）、ある種手前勝手な言い分なのかもしれない?!

関係者のみなさんは、たとえそれが、ほとんど前例踏襲主義であったとしても、良かれと思うことを、それこそ精一杯に実践されてきたのである?!別言すれば、それは、そこにある現実を、まがりなりにも創り上げられてきたということでもある?!意地もあろう！プライドもあろう！ということでもある?!

ということで、とにかくその時その時の、しかも何らかの事情・都合等で、そこに配属あるいは関係を有することになった人達にとっては、まずは目の前の仕事・課題を、脇目も降らず？、ひたすらこなすしかできないということである?!

今まで通りの計画（多くは、前年度に決められている！）、そして今まで通りのやり方で、多忙な？日々を、一応は、やり繰りしていかざるを得ないということである?!

（５月 25 日）

53　「まちづくり生涯学習」、現時点（今後？）の課題（使命？）は何か?!

先日（１日）、今年度第１回目の「Ｕ市まちづくり生涯学習推進協議会」が開かれた。一度引退？を表明していた私（井上）であるが、ある理由（事務局の顔ぶれとやる気？、それと、ひょっとしたら新たなチャンス？かもしれないという期待?!）から、再びその会長の任を引き受けていることは、再三アナウンスさせてもらっているが、やっと？事務局（生涯学習振興課）の準備（心構え？）も整ったようで、一安心といったところであろうか?!

そこで、今回は、これからの審議の方向性（予感？）について、事務局のみなさんへのエール（苦言？）という形で、多少所感を述べさせてもらうことにしたい！改めて、少しだけ？懸念されるところがあるからである?!

ただし、これから述べることは、ある意味、私の個人的な願望（本当は決意?!）ではあるので、事務局のみなさんや、他の協議会のみなさんへの手かせ足かせ？、まさに悪しき強制（プレッシャー?!）となっては、それこそ元も子もなくなるので、出来るだけ穏便に？受け止めて貰えれば幸いではある?!意を決してのカムバック？ではあるが、同じ過ち（苦悩？）はしたくないということである?!

要は、分かって欲しいということであり、それが受け入れられない（できない？）のであれば、そこはそこ、それを踏まえた上での参画（協力ということではある！）を考えたいということである！とにかく、上手に躱かわされたくはない？ということである?!

では、改めて、それはどういうことか?!一言で言うと、行政（ここでは教育行政！）が提唱（推進）する「生涯学習（→教育）のあり方」とは、どういうものである（べき？）かということになる！まずはここが、重要な出発点であるが、やはり？関係者（事務局も含めて？）のみなさんには、十分（正確？）には理解されていないのではないかということである?!

もちろん、これは、みなさんには大変失礼な物言いであり、一応は、みなさんなりに、理解はされているということではあろう?!「何故、生涯学習が、まちづくりとリンクするのか」、そしてまた「Ｕ市が、何故、それを『まちづくり生涯学習』としているのか」、その辺りについては、多分大方の合意（認識の共有）は出来ているということである?!

しかし、先の会議上でも、敢えて述べたが、それを、「何故、教育委員会（事務局）が行うのか?!」、そしてまた、「それを、何故、社会教育所管課である生涯学習振興課が行うのか?!」である?!

そんな小理屈（理想？）を、今更言っても、どうしようもないのかもしれないが（実は、そのように、一度は納得？したのではあるが！）、改めて最後のチャンスである？今回の協議においては、そこを確認（実現？）したいのである！しかも、今回は、以下に示す現実的なニーズ（必要性）があるのでもある！

それは、そもそも「教育」を担うのは学校教育と社会教育であり、生涯学習（の

推進→教育）とは、その双方のあり方、具体的には、両者の連携・協力のしくみを、どのように創っていけばよいのかということである！そして、そうした動きが、「ＣＳ」や「地域学校協働活動」という形で、現在、多くの地域で活発化してきてもいるということである！

とにかく、これまでの生涯学習の推進（本当は、「生涯教育」ということである！）は、たとえ「まちづくり生涯学習」にしたとしても、見直し、反省？すべき点があり、行政（教育行政）には、その自覚と新たな戦略？が必要だということである！

端的には、もう一方の当事者である（べき！）学校教育がどうあればよいのか、そして、そこから改めて、学校教育と社会教育の連携・協力（「学社連携」→「学社融合」→（地域学校協働）→「教育協働」）の理念やしくみづくりを、どのように「見える化」するかなのである！今回の答申（計画）は、そういう視点・内容で策定されなければいけないのである！だとすれば、当然学校教育（関係者）の参画、そして、そのパートナーシップの実体的発揮、それが求められるということである！

なお、もう一つの「家庭教育」も、「学校教育」「社会教育」が、それとどう関わるのか（支援するのか）ということになる！ある意味、当然である！

さらに、もう一つ、上記と関連してくるが、これが、まさに名前を変えた、いわゆる「社会教育」（自体）のあり方論議ではないということである！ここが分かって（見えて）いないと、上記のことも、なかなか周囲には理解され得ない?!もちろん、一方の「まちづくり」においては、他ならぬ社会教育（行政）は、そこと、大きくリンクしてくる分野ではある！

したがって、それは、行政全体の「まちづくり施策・論議」の話とはなるが、それが、即「生涯学習（の推進）」の本体の論議ではないということにもなる?!あくまでも、「生涯学習（の推進）」は、まずは教育（行政）全体の課題・テーマなのであり、だから、「学社」（学校と地域社会ということではない！学校教育と社会教育ということである！）の、双方の視点（関わり合い）が問われるのである！

ちなみに、「社会教育」に特化した論議は、それも、それぞれの領域（関係課）があるが、そこにおいて、個別に（バラバラでは困るが！）展開してもらえばよいのである（→社会教育委員の会議等）！以前の表現となるが、「一つの体に、二つの顔をつくって」、忙しい思い、辛い状況（予算や人員の削減等！）の中で、過剰な任務？を担ってきた（そう思いたい！）社会教育主管課の皆さんには、そこら辺も、是非分かってもらいたい！

とは言え、「学校教育」の参画と言っても、向こう？から言い寄って来ることは、基本的にはない（一方的な協力依頼は多々あるが）?!だから、呼びかける側のヴィジョンと戦略？が、これまで以上のものでないといけないのである?!

（６月５日）

54 再考?!教育行政における「専門的教育職員」の意義とこれから?!

急に思い出したようになるが、教育行政における専門家として（もちろん、正式な「職」として)、現在、どういう人達がいるのか？これに該当する専門家・職としては、学校教育分野の「指導主事」、社会教育分野の「社会教育主事」が挙げられるが、周知のように、どちらも、「教育公務員特例法」（第２条５項）に規定される、教育委員会（事務局）に置かれる「専門的教育職員」である！

実態はともかく?!、その立法の趣旨、すなわち設置の理念としては誠に正当であり、現状でも（おそらく将来も？)」その意義自体は変わらないであろう?!否、むしろ、それぞれの分野における指導的役割は、増すことはあっても、決して減じることはないであろう?!

ただし、これは、正確には、そうした教育行政に求められる「指導的役割」は多様化し、その多様化に対応していくためには、単純な、「指導主事」と「社会教育主事」（こちらは、多くは名義だけ?!）の二分配置では、その役割は、十分には発揮出来ないということでもある?!

ところで、その「社会教育主事」については、近年、各種の「コーディネーター機能」、それを担う人材や専門性論議が、各地各様に展開されてきているが（「キャリア教育コーディネーター」等?!)、その存在意義を脅かす？動きも活発化してきている?!

ちなみに、その「社会教育主事」の養成については、現在、新たな論議が、文科省レベルで行われているはずであるが（確か、議論の中心とされているのは？、その「コミュニティ・オーガナイザー」機能の発揮であった?!)、これまでのような「発令」の実態においては、あまりその成果（変化？）は期待できそうもない?!

事実、その役割は、地域で活躍している、現在の「学校支援地域→地域学校協働」本部事業の「地域（教育）コーディネーター（統括コーディネーター)」に期待されており、「教育公務員」としての「社会教育主事」へではない?!

だが、そうした、これからの「教育協働コーディネーター（仮称)」の役割を担う人には、個人の能力や実績はともかく、「職」としての「専門性」、生きる糧としての「社会的地位・処遇」は、多分保証され得ない?!そうなれば、再び、これまでの人材養成・配置への要望や期待のように、どこかで萎んでいく?!

尤も、社会教育主事の場合も、現状においては、その時だけ、つまり「発令」されている時（期間）だけ「専門的教育職員」となるので、誠に奇妙な話とはなっている（だから、行政当局は、その「発令」に躊躇するとも考えられる?!）！

いずれにしても、これからの新しい展開においては、ただ「民間人の活用」だけでは限界があり（ある意味、失礼千万な言い方にはなるが！)、正規の「専門職（→教育公務員)」が必要だということである?!なお、社会教育主事の発令を受けていない職員は（相当する職務を遂行していたとしても)、「専門的教育職員」でないことは当然であるが、そもそも「教育公務員」でもないことになる！

このことは、もう一方の「指導主事」も同じであるが、彼らは、本籍？が「教員」であり、その意味で「教育公務員」であるので、その辺りの位置づけや本人の意識、あるいは周囲の目からの異同は（事実上は、これが大きい？）、ほとんどない?!したがって、そうした処遇・位置づけ論議等も、基本的には起こらない?!蛇足だが、「教育長」も、「教育公務員」である！

とにかく、問題なのは、その処遇・配置の実態ということであり、その処遇・配置の実態からすれば、両者のアンバランス（質量共に！）は、やはり目を覆うばかりの惨状？であるということである?!その惨状？の理由（背景）については、ここで今更縷々述べるつもりはないが、社会における認知（実際は、関係者、多くは学校教育関係者?!による、教育委員会機能の寡占？→人材配置・人事権の局在？）が、そうさせてきたことは、ほとんど間違いないであろう?!

ある意味、それが当たり前であり、関係者はもちろんのこと、一般の人々も、それに異議を唱えることは、ほとんどなかった?!つまり、それでよかったのである?!多分、当該法律も、そのことを、事実上は前提としてはいたであろう?!

そこで再び考えたいのは、以前にも述べたかとは思うが、もし「社会教育主事」が、これからも、（教育）行政における「専門的教育職員」である必要があるのであれば、思い切った「名称・位置づけの変更」あるいは「新たな形の構築」が求められてよいのではないかということである?!

先般の「中教審答申」（平成 27 年 12 月）、そしてそこから生じている「学校と地域の新たな連携・協力の局面→地域学校協働活動」、私の主張する「教育協働」は、そうした人材の養成・確保・処遇を、新たに求めるということでもある！そして、それは、決して「社会教育」の分野における変化だけを、求めるものでもないということである！

すなわち、学校教育と社会教育の分野双方に、否、それらを融合した、まさに「地域社会全体」の「教育の営み（しくみ）」の中で、そうした、本来の？「専門的教育職員」の養成・採用・処遇を、行っていくことが必要だということである！

逆に、こうしたものがなければ、何度も言うが、失敗（挫折？）する?!例えば、あの「特区」事業は、今思わぬ「負（悪魔？）の連鎖？」を露呈させているが、元々は、様々なしがらみ・制約がある中で、いわゆる「チャレンジ」を鼓舞するためのものであった?!やってみよう！

やらなければ！と思っている自治体や地域（学区）が、たとえ前例がなくても、やってみる価値はあるのであり、その先進的取り組みやその成果（萌芽？）は、至るところにある?!

前回若干？苦言を呈したＵ市には、まさに、そのことを期待してのものでもある?!

（6 月 17 日）

55　若者ぶっちゃけ未来トーク?!産みの苦しみあれど、光明もまた?!

去った（沖縄ではこのように言う！）24 日、我が自宅兼事務所である「岳陽舎」にて、今年度第３回目の研究会（内輪の集まり？）をもった！「若者ぶっちゃけ未来トーク」と題した、今回のメインプログラムであったが、フル参加者は、今年度、（再び？）新たに立ち上がった「イノベーション NEXT+プラス」の、主力メンバー６人であった！

もちろん、これは、ある意味想定された顔ぶれであり、その点では、特に後悔や反省はない?!ただ、今「どうしたいのか？」「何をしたいのか？」が見えていない（共有できていない）ということで、このような企画となったわけであるが？、その答え（目標共有）は、まだまだ先送りのようにも感じた?!

しかし、一方で、それなりの？光明も見えてきたようにも思う?!これまで、実は、本当は、その辺のことはお互いに知らない？そこまでは、喋ったことはないというようなことまで、真面目に（ゲーム形式のようではあったが？）、各自が出し合っていたからである?!

そこに、今回は、大先輩のＹ．Ｔ君（さん？）（Ｉ市立Ｎ小学校教頭）も、久し振りに顔を見せてくれたし（残念ながら、途中で所用のため退席！）、後半からは、いつもの？Ｔ．Ｙさんも加わって、今までにはなかった？、純粋に自分達のための話し合い（「トーク」という割には、少し？雰囲気が重かったが?!）をもつことができた?!

とにかく、産みの苦しみ?!であることには違いないが、盛り上がりは、それなりにあったわけである?!ちなみに、久し振りでもあったので、楽しかったことは言うまでもない！

トーク終了後は、お待ちかねの交流会となり（今回は、私の奥さんが不在で、諸準備はしてもらっていたが、やはり実際は大変だった?!）、メンバー的には、いつもの顔ぶれであり、少し新鮮さ？が欲しかったが、最後の辺りには、今期卒業した（今、Ｕ市の社会教育指導員をやっている！）Ｍ．Ｙさんも駆けつけ（当日来れなかったＭ．Ｈさんは、木曜日に岳陽舎を訪ねていた→ホームページでのブログ参照！）、いくつかの真面目な話と、これからの動きに関わる、ある人達へのアプローチについて確認した！

苦楽？を共にした（継承した）研究室活動、そしてそこで形成された「仲間（先輩後輩）関係」が、今後どのように推移していくのか?!そして、そこに関わる？、他の研究室仲間や現役の後輩学生達、そしてまた、傍から支援する（見守る？）大人（顧問？）達！もちろん私（井上）も含めてであるが、どのような形・動きを創っていけるのか?!期待半分、不安半分ではあるが、幾つか芽だしの部分もある?!

いずれにしても、本格的な始動は、主力メンバーの大半がチャレンジ？する、７月 24 日の教員採用試験が終わってからである?!この場で言うのも変だが、彼

らには、とにかく頑張って欲しい！二（三？）足の草鞋で？、置かれている状況は、決して甘くはないが、されど、やるしかない?!その試験日も、徐々に迫ってきたが、ただただ奮闘を祈るしかない?!

なお、そんな矢先、『社会教育』編集部のＫさんから、新企画連載についての依頼（要望？）が、改めてあった！現在、同誌では、鋭意青少年関連の企画を進めており（発行元の「日本青年館」の意向！）、10 月号では、「若者・青年が未来をつくる」（増大号）とするので、それに合わせて、新たなスタートを切ったらどうかということであった。

つまり、新企画は、その「若者」達を、全面に出していったらどうかということであった（先に送っていた、試しの原稿を見て、今年のメンバー・スタッフが、期待される？若者らしいということもあったようである?!）！８月号、９月号を「モラトリアム」期間として、10 月号にて、華々しくスタートしてみてはどうかということでもあったが（現企画ものが、７月号で終わるということである！）、これについては、メンバーと、改めて相談することにはなるであろう?!どんな反応が返ってくるのか？ある意味、興味津々である?!

私としては、若干複雑ではあるが（Ｋ編集長からは、「Ｉ先生は、後方支援に『徹する』ようにして、若者が全面に出るように」という指示？も受けている！）、それをきっかけとして、「イノベーション NEXT⁺プラス」の活動が、より活発になっていけばよいと考えているが、実績はもちろんであるが、まだまだ方向性も決まらず（事実！）、何をアピールできるのか、甚だ心許なく思う次第でもある?!時期尚早なのではないか？ということであるが、何より今は、そのための絶対的な時間が取れないということもある?!

ということで、現時点では、何とも頼りない？、この「イノベーション NEXT⁺プラス」の活動ではあるが、これまでのような、定期的な（基本、月１回）「研究会」の企画・運営・報告といった、まさに一連の「教育研究・地域貢献」の活動は（当分？）できないので、その時々の話や状況を受けて、実現可能ならばやる、そうでないならば、（少なくとも、今回は？）やらないといったような、言わば「メリハリ」をつけた形で、しかも、多くが「ゲリラ」的に参画・協力者を募るというような方法でしか、やっていけないであろう?!

だが、それはそれでいいのであり、そうした冷徹な？判断・状況認識の下、たとえ流動的ではあっても、最低限の活動（年２回くらいの、外に向けたあるいは外とのコラボ?!）を行えればよいのではないか?!そこに、「岳陽」、そして『社会教育』への記事作成を噛み合わせ、情報や人の交流を広げ、それを受けた新たな行動目標、つまり「教育協働プロモーション（「教育協働」に資する企画・興行・広報）」を確立させていけばよいのではないか?!実は、そういうことである?!

P.S.みなさん！このことについての意見やアドバイス等、ありませんか?!

（６月 28 日）

56　「若者達（イノベーションNEXT⁺）」はどう動くか?!微妙な際？の戯言?!

いよいよ、連載中の『社会教育』の記事＜「若者」（琉球大学生）達の学びを見つめ続けて-教育学部に社会教育主事資格取得プログラムがあることの意味-＞も、今回の７月号で終わった（計 11 回）！もう少し続けてみたい気持ちもあったが、一応の区切りではあったので（テーマ構成上)、ある意味仕方がないであろう?!

次は、装いも新たに、10 月号からどうかというＫ編集長の提案（忖度？）もあるが、それについては、現在、主体となる「イノベーションNEXT⁺」の面々の受け止め状況？を見つつ（反応は、あまり芳しくない?!)、まだ決定はしていない?!

と言うのも、次の企画（提案）は、「Ｉ先生は後方支援に徹して」、「若者→イノベーション NEXT⁺」(「次世代」）の活動（アピール？）を、全面に出したらどうかというものであった！

それはそれで、大いに納得できるものではあるのだが（これからの『社会教育』の存在価値？を新たに志向する、発行元の「日本青年館」の意向にも沿うということで?!)、何せ今、その実績（アピールに値するもの）もほとんどなく？、また、主力メンバーの活動スタンスも、まだまだ確固としたものにはなっていないからである?!

たとえ、数か月のモラトリアム期間があるにしても、それなりの記事連載となると、非常に厳しいものがあるということである?!

いずれにしても、本当は、しばらくは、私の主導（おせっかい？）で、次なる企画をと考えていたので、その意味では何とも予想外の（私にしてみれば、いささか驚きの？）展開になろうとしているわけであるが、私の企画、思い、それ自体は、もういい（十分である？）ということでもあろう（正直ショック?!だが、笑いも?!）?!

とにかく、「若者」「次世代」の一翼となる（であろう？)、彼ら「イノベーションNEXT⁺」の活躍？ぶりが、最初から誌面に出ることは、心配でもあるわけである?!ある意味、困ったものでもある?!

ところで、記事連載において、私が考えて（狙って？）いたのは、まさに「積年（永遠？）の課題」である「社会教育（行政)」の存在意義の確認（主張！）であり、名称の存続や、その任務（施策・事業の実施)・組織構成は残ってはいるものの、その核となるもの（「本質」！）が見えない？、あるいはそれが先細り？、今では、正直「見えざるもの」になっているのではないか？ということへの危惧?!

そして何より、その復活の方向性を、自らの実践の中から呼び覚まし（単なる懐古に終わるのではなく！)、そこに見え隠れしていた？「意義と可能性」を、再び若者達と享受、そして託し、沖縄において、そして全国に向けて、その具体的な姿・形を創り出していこうということであった！それを発信する活動形態が、まさしく「教育協働研究所～岳陽～」と「イノベーションNEXT⁺」の、言わ

ば二頭仕立ての構えでもあったわけである?!

まあ、実際、記事連載がどのようになるのか、そしてまた、この間に見えてくる、若者達の「決心」(本音？）や活動の中身がどうなるのかはともかく（これ自体は、私自身では決められない?!)、ここでは、そんな今にあって、改めて頭を擡げてきている「社会教育（行政)」(の復活・再興？）への思いを、ある種の「微妙な際？の戯言?!」ということで（ひょっとしたら「遺言？」→笑い？)、それで生きてきた！、その大切さを、まがりなりにもこの間ずーと主張し続けてきた！、一人の人間の「怨念？」として、語っておくことにしたい?!

まず、今回私は、「社会教育」ではなく、「社会教育（行政)」という表記を、敢えて行っている！その理由は、この「戯言？」と関係するが、改めて人間は、生まれたら、すぐに誰かに守られ、そこで多くのことを知り、そして教えられ、成長・発達していく！それが、生物としての過程であり、術でもある！だが、それだけであったら、他の動物も同じ?!何が違うのか?!

それは、自分または我が子だけでなく、他人または他人の子どもにも、その望ましい生き方を期待するということである（最近では怪しいが?!）！それは、人間は一人では生きていない、その生き合う者同士が集団（社会）を作り、そこに必要な物資やしくみを共有しているからである！

ただし、これも、厳密に言えば、まだまだ人間独自のものとは言えない?!それは何か？それは、学校とか教育機関とか呼ばれるような、教育のための特別な施設やプログラムの存在である?!ここに、社会的な教育の契機があり（→制度化)、人間（社会）は、そのためのしくみとして、学校や社会教育の制度を創り上げているのである！しかし、それが、常に望ましい結果を生むとは限らず、その都度、より良いものに工夫・改善していくことが必要となる！

だが、そのための努力は、それぞれがどれだけ頑張っても、そこだけでは限界があり、誰（どこ）かが、全体として、何（どこ）を、どうすればよいのかを、自らの生活圏域（通常は、学区的な範囲？）において、総合的に診断・処方する必要が出て来る?!実はそれが、教育行政の役割であり、専門（性）なのでもある?!

では、その専門（性）は、どのように構築・発揮されるのか?!

やはりそれは、仕事として永続できる、まさに教育委員会の（事務局の）中になければならない?!そして、そこが関わる多種多様な教育・学習の営み（ＦＥ・ＮＦＥ・ＩＦＥ・ＩＬ）を総合的に観る、そしてそれを、「ひとづくり（教育）とまちづくり（地域づくり）の循環システムづくり」としてプロモートあるいはプロデュースできる人、そうした教育（行政）の専門家（それで食っていける人！）が、そこに居なければならないということである?!

ただし、それは、どこから輩出されてもよい?!現時点では、現実的には、学校の教員からが、一番手っ取り早いということではある?!

（７月４日）

57　「教育評価」VS.「学習評価」!とにかく目指すものは、一体何か?!

久し振りに、７月 21 日から始まる、国社研の「社会教育主事講習Ａ」に行くことになっている（８月３日）！最近は、年明けの、いわゆる「インターネットを活用した遠隔受講方式」の、「社会教育主事講習Ｂ」に呼ばれるのがほとんどであったが、今回は違った?!ただし、「社会教育主事講習Ｂ」については、まだ、どうなるかは決まっていない?!

それはともかく、常勤の大学教員の職を辞している、しかも最近では、研究者的なことはほとんどやっていない？私にしてみれば、かなり面映ゆい気分ではある（先方に失礼でもある?!）が、そんな私で良ければと、いつでも協力はするつもりでいる?!況や、そこが、私の社会教育人生の原点でもあるからである！

とまあ、それはそれでよいのであるが、実は、今回の講義テーマが、「評価」に関わるもので（「社会教育計画」の「学習成果の評価と活用」）、しかも 90 分の時間しかないのである?!確か以前にも、同じ講義を引き受けて行ったこともあるのだが、やはりどうもしっくりとこないのである?!

もちろんそれは、社会教育における「評価」の部分は、ほとんど勉強もしたことはなく、正直苦手というか、出来れば遠慮したいテーマではあるということである?!今も、本当はそういう思いが強いのであるが、多分、今回が最後かもしれないので（少なくともこのテーマでは?!）、思い切った授業展開（提案）も考えられるかな?!一方で、そう思っている次第でもある?!

ところで、いつの頃からか（多分バブル崩壊後？の緊縮財政化から?!）、社会教育は何をやっているのか？その成果は何なのか？「ＰＤＣＡ」はどうなっているのか？

そしてまた、最近では、まさにシビアに、「費用対効果」はどうなっているのか、etc.といった、いわゆる「アカウンタビリティ」（公金使用の説明責任）の追及、それに関わる世間（直接的には財政当局！）からの厳しい目、社会的風潮（圧力）に押されて（ある意味仕方はないが！）、社会教育（行政）は、単なる（本当は大事な?!）「趣味・教養的な便宜供与」あるいは「健康づくり」や「仲間づくり」、そして「地域づくり」といったような、ある種「牧歌的な？」事業観・評価観では、ほとんど許されないような状況を甘受させられ続けているわけでもある（本当に少ない予算・スタッフであるのにも拘わらず?!）！

そうした中で（どうして、社会教育だけが、その集中砲火？の的となるのかという思いもあるが！）、私には、そのような世間の目、「財政当局」の厳しい追及？をクリアするだけの理論も、実践もないと言えば、ないのである?!そういう理由（自己判断）もあって、このテーマでの講義は、いささか不乗りなのでもある?!

ちなみに、近年では、何故か「教育評価」よりは、「学習評価」の方が重視されているようでもある！それは、まさに、学習者の学習活動の成果が、（社会）教育の成果であり、それがまた最終目標ともなるからであろうが、現実には、「教

育」という用語が忌避されたり、遠景に退かされていたりするのである?!

もちろんこれは、私に言わせれば、例の「生涯教育」と「生涯学習」の用語・概念の誤解・無理解（今なら、はっきりと断言する！）と同じように、「教育」と「学習」の関係理解の誤解・無理解が、原因ではあろう?!

と言うのも、実は、これについては、当時よく、「教育という考え方や言葉はもう要らない！教育という考え方や言葉があるから、逆に人々をダメにする！これからは『学習』、さらには『学び』というような考え方や言葉が大事である」というような言質を聞いたものである。

そこから、「教育」が、「学習支援」という言葉に替わったのでもある！だが、確かに、教育とは学習を前提としているものではあるが（つまり、学習が先にある?!)、「その働きかけ」の良否によって、その学習活動の成果も変わる！我々は、もう一度、そうした「教育」の視点や、教育と学習の関係を見直す必要があるのではないか?!「学習者の主体性」（最近では、「能動性」が加わる「アクティブ・ラーニング」もある！）は、まさに至上の価値であり、私とて、それを否定するものでは決してない！

お分かりだと思うが、本当は、その両者の健全な関係把握が大事なのである！これについては、私は、以前から異論（正論?!）を呈しており（以前の「生涯教育」か、それとも「生涯学習」かという、私にしてみれば、ある意味馬鹿げた？二者択一論議が思い起こされる！)、教育と学習を対峙させて論じてはいけないということを、この「評価」の部分でも、言いたいのである！

要は、何が大事なことなのかと言うと、「教育」と「学習」がうまく噛み合い、よりよい成果やメリットを生み出すことなのである！そして、それが、うまく成就するためのしくみをいかに創るかなのである！社会教育（行政）としての使命は、そのしくみづくりにどう寄与するのかであり、その使命を、他ならぬ仕事（専門）として遂行するのが、その職員・スタッフだということなのである?!

最初にも述べたように、今回は、私にとっては、最後の講義になるかもしれない?!その意味では、これまで主張してきた、社会教育（行政）の「ひとづくり（教育）とまちづくり（地域づくり）の循環システムづくり」という最終目的にとっては、まさに最後のアピールとなるであろう?!

しかし、今回初めて言えたようにも思うが、「学習」が「教育」にとって代わる、そこに意味があるとすれば、「学習」だけの方が、教育に依るよりも、「成果」や「メリット」が絶対的に大きいということでなければならない！だが、それはどう見たっておかしいし、実際には、学習評価とか、学習成果の評価と言いながらも、「教育」という「インプット」の成果を、数値あるいは形に表わそうとしていることになる?!私は、結果的には、それでよいと考えているわけでもある！

（7月12日）

58　学生の奔放さ？に苦笑？しながらも、見守るしかない?!今の私?!

前期授業も、４分の３が終わり、今学期も、残すところ、後わずかとなっている。今期は、火曜６限目の「社 会教育概論Ⅰ」、金曜５限目の「地域教育経営演習Ⅰ」、そして毎週ではないが、「社会教育実習」の事前学習（金 曜日・全５回）と、計３科目の授業を行ってきているが（急遽今年も依頼された「教育原理」は、8 月 28～31 日の集 中講義で行うことになっている！）、講義形式（多人数 32 名）の「社会教育概論Ⅰ」はともかく、少人数（８名）の 「地域教育経営演習Ⅰ」と「社会教育実習」の事前学習では、正直言うと、学生（正確には一部かな？）の自由奔 放さ？には、いささか苦笑気味である?!

特に、「地域教育経営演習Ⅰ」においては、学生が企画・実施する各回 の授業が、あまりにも私が期待する内容・テーマとはかけ離れていて？、何のためにこの授業を提供しているのか、よく分からなくなるという状況なのである（もちろん、そんなには深刻ではないが?! ）！

いずれにしても、そうは言っても、非常勤対応であり、現実には、そうした自由奔放な？（ある意味、従来のゼミ生ではないということ？）学生達の、言わば単位取得のための授業でもあるので（本当は、社会教育主事資格取得のための、しかも、その中で一番大切な「地域教育経営」という、まさに「専門分野」の授業なのではあるが！）、その学生達が望む内容、望む形のものであれば、結果的には、それでもよいのかなと思いながら、彼らの企画した授業（学習風景？）に、半ばお付き合い？しているのが現状だということである?!

尤も、本来（これまで）は、この授業は、いわゆる「ゼミ」の授業であったわけであるが（そこでは、「研究会」 や「仲間活動」等がメインであった！）、一方では、その時々の「ゼミ」の授業もそうだったように、自らの興味・ 関心、そして卒業論文、さらには就職（進路）等への見通しともなっていけばよいというようなことも、最初に 言っていたので、受講学生達は、それ（だけ？）を受けての授業づくりということにはなっているのであろう（実 際には、そうならざるを得ない？）?!

だが、それにしても、予想はしていたが、ゼミ生であるのとそうでないのとの違いは、想定以上に大きい?!その一番の違いは、いわゆる「研究室」での出会いや語らい（自由な出入り！）が、まったくないということであろうが、進捗状況や資料等の確認・訂正が、ほとんどできないということである?!

我が自宅兼研究所の「岳陽舎」を、そのような「研究室」あるいは「出会い・語らいの場」としている（目論んでいる？）のであるが、何せ、大学とは離れた場所（心理的にも？）でもあるので、そうそう、そういう訳にもいかないのであろう?!

ただし、ここ数回は、学生の方も、やり方や、私が期待している（喜ぶ？）テーマ・内容が分かってきたのか （慣れてきた？）、例えば「ゲスト・ティーチャ

ー」を自ら呼んできて、それなりに楽しい（学生側にとっては、身 になる？）授業としたり、自分の卒業論文の構想に役立つような資料（パワポ資料）を作成してきて、みんなで意 見交換・情報交換を試みたりもしてきている！

もちろん、それはそれで良いことであるし（私が期待していることでもある！）、これからも頑張って欲しいとは思うのであるが（あとわずかしかないが！）、やはり、最初に説明・ 紹介したこの授業の趣旨・方向性、あるいは読んで欲しい資料・テキスト等は、ほとんど無視？されている?!つまり、そちらの方の努力というか、興味・関心が、まだまだ十分とは言えないのである（テーマや問題意識がズレている！）?!ここが、改めて、残念と言えば、残念なのである?!

とは言え、他方では、芽だししてきた？学生のパワー、別言すれば無謀さ？でもあるが、案外？、大きな可能性、あるいは彼らの飛躍のチャンスにもなるのかもしれないと、ほんのちょっぴりではあるが（少なくとも今 は？）、感じさせなくもないのも事実である?!

と言うのも、前回の授業（7/7）は、ネット上で偶然見つけた、多分その道では著名な専門家であろう？人に（キャリアアップ支援スクールの代表）、直接アタック（まさにこの表現が相応しい！）し、本旨はともかく？、何と！無料の出張講座をお願い、実現させたのである！

その人もその人で、突然アプローチしてきた、名もなき一人の無謀？女子学生の願い・思いに絆されたのであろう?!正式な、私なり、学部からの依頼も要求せずに、勇躍？その授業に足を運ばれたのである！学生（若者） のパワー（無謀さ？）と心広き（優しき）、その道のプロとの出会い（コラボ）が、そこに実現したのである?!そういうケースが、ままあることは承知しているが（世の中には、本当に素敵な、スゴイ人物がいるものである！）、今回、こんな形で、我が受講学生が、そういったことを実現させようとは?!

と言うことで、次回（7/14）も、そうしたアプローチで、別なゲストティーチャー（自然体験教育の実践家）を 招いての授業を計画しているようであるが（この人は、私も知ってはいるのだが、現在大学院の学生でもあるので、頼 みやすかった?!）、私の経験や人的ネットワークには、まったく頼らずに（頼れなかった、それとも頼りたくなかった?!）、 事をなしているのである！あっ晴れ！と言う他ないが（本音を言うと、かなり癪ではある?!）、これが、現代の若者 と言えば、そう言えるのであろう?!

かくして、今回も、こうした成り行きを見守る（よく言えば？）ことしかできない私であるが、そんな扱いに？、心の底では苦笑いしている私がいようとは、受講学生達は夢にも思っていないであろう?!これも、若者達の成長の証しではあろうが、何とも複雑な私ではあるわけである?!

（7月 13 日）

59　「マイノリティ」と「マジョリティ」、その背後に見えるものは?!

さて、今回は、いつものように（本来目指していたように）？、教育エッセイ風に語ってみよう！もう随分前（今年の１月27日？）のことであるが、そんなにも忙しくなかった私（今年度はさらに?!）が、その日東京から、珍しく大急ぎで？大学の方に駆けつけた?!

と言うのも、その日の５限目と６限目に、担当していた授業があったからであるが、とりわけ、その日の６限目の授業「学社融合と学びの共同体づくり」は、最後のグループの自主企画授業としていたのであるが、その準備や対応状況等が、どのようになっているのか、まったく分からなかったからである！結果的には、無事に？終わり、授業としては、それなりに成功していたようには思われる?!

とにかく、この最後の授業（グループ学生４人）では、最近よく耳にするようになった「ＬＧＢＴ（レズビアン・女性同性愛者、ゲイ・男性同性愛者、バイセクシュアル・両性愛者、トランスジェンダー・出生時に診断された性と自認する性の不一致の、それぞれの頭文字をとった総称)」をテーマに、自らがカミングアウトしている、あるゲスト・ティーチャー（女性）を呼んでのＷＳをやりたいということであった！

学生グループの熱意？に絆されて（負けて？)、その授業を行ったわけであるが（実際は、傍から眺めていた?!)、一応、この問題（テーマ)、あるいはその世界で活動する（社会への啓発等を行っている）当事者（ゲスト・ティーチャー）の存在、さらには、具体的にはどのようなことが問題とされているのか等については、いわゆる「学習」はできていたということである?!

ただし、この最後のグループには申し訳ないが（もちろん、来て頂いたゲスト・ティーチャーにも！)、やはり私としては、この「学社融合と学びの共同体づくり」のねらいや趣旨が、(最後のグループであるのにも拘わらず？）あまり理解されていなかったようにも思われた?!テーマの新奇性（私の偏見？かもしれないが？）や、それが持っている、これからの教育への課題提起性という点では、一定の理解は示すべきではあろうが、どうしても、そうしたテーマ、ゲスト・ティーチャーが、この授業の締めくくりとして相応しいとは思えなかったのである?!

だが、それはそれとして、この授業は、考えようによっては、私にとっては、そうした、ある意味まったく知らない、あるいは分からない（無縁の？）テーマないしは活動分野に対する、ある種の学習、考察の機会とはなったのではあるが（単に好き嫌い、選り好みだったかもしれない？)、冷静に捉えれば、この「ＬＧＢＴ」の問題は、ある種の社会的少数派あるいは「弱者」（いわゆる「マイノリティ」）の問題ということにもなるわけである！

例えば、今まで苦悩してきた（言いたくても言えなかった、理解してくれる人が少なかった、etc.）少数の人達（本当に少数かどうかは分からないが？)、そうした

彼らの存在（生き方！）をどのように受け止めるのか、そして、どのように、社会や個人は、彼らを受け入れればよいのか（共存すればよいのか?!）といった、理解や行動の仕方等が問われるということである?!まさに、「差別」とか、「蔑視（ヘイト）」とかいうことに関わるわけである?!

考えてみると、これまで（人間）社会には、人種（民族）、国籍といったことから、ここでの性、あるいは貧困や身体的ハンディキャップ（病気や怪我あるいは高齢による）、さらには我が国の場合は、いわゆる「部落差別」の問題もある！そうしてみると、現代の（人間）社会には（現代に限らないとも言えるが?!）、そうした偏見や差別、近年では「格差」というような言い方が、多方面に亘って流布しているが、あらゆる分野において、そのことが問題となっているようにも思われる?!

そこで、改めて考えてみたいことは、「マイノリティ（少数派）」と「マジョリティ（多数派）」の関係であり、そしてまた、そうした関係がどのように変化してきているのかということである！特に、今私が関心を寄せるのが、「マジョリティ（多数派）」というものの括り方と、新たな関係のあり方（考え方）についてである?!ちなみに、この話題（テーマ）は、私が大学院時代に興味を抱いていた「教育制度の統一性と多様性」ということに、どこかで文脈を通じるものがありそうである?!

それについては、次号（60）で、改めて論じることにするが、いずれにしても、何故、私は、このようなことに興味を抱くのかである?!その明確な理由は、今ここではすんなりと披瀝することは難しいが、やはりどこかでその問題（「制度の統一性と多様性」）は、（人間）社会の安定・安寧（幸せとか平和とか言っても良いが、その表現については、多少気恥ずかしさとか、烏滸がましさも感じるので、敢えてこのような表現としておきたい！）を、どのように維持、あるいは構築していくのかという、ある意味教育の大きな使命と関わっているということである?!

なお、これについては、先日（7/14）の、「自然体験教育」を基調とした「幼児教育（認可外保育）」や「フリースクール（いわゆる「学校」とは認められていない「自由な学校」）」を経営しているＯさんをゲスト・ティーチャーとして迎えた、「地域教育経営演習Ｉ」の授業も、大いに関わる?!

もちろん、学生達の興味・関心は、そこでの事業や活動プログラムにあったが（至極当然である！）、折角の機会でもあったので、そうした「フリースクール」に対する、当地の教育委員会の反応（対応）、そして何よりも、彼自身が、その事業・活動をどのように位置づけているのかということ（アンチなのか、カウンターパートなのかということ?!）を尋ねてもみた！それについて、彼自身は、「多様性の中の一つ（の主張）」と答えた！まさに、考えさせられる「一つの解答？」であった?!

（7月19日）

60　「統一性」と「多様性」の鬩ぎ合い?!教育にとっては、それは宿命?!

いよいよ、本シリーズも、他のシリーズ（「東シナ海眺望記」と「古代史の旅」）と同じように、やっとではあるが、60 号を迎えることができた！本当は、このシリーズは、長年私が関わってきた分野（テーマ）のものではあるので、これが、一番早く、それに達しなければいけなかったのではあるが、ある意味現役を退いた身ではあるので、なかなか筆が進まなかった?!

と言うか、本音を言うと、書くこと（私の場合は、理念や理想？を言い続けること！）に疲れた？ということかもしれない?!あるいは、「教育」に対する情念（期待？）が、薄れた？のかもしれない?!余計なことだが、書いて（書こうとして）いる人には、業績、名声？、あるいは利益？ということもあるので、この私の諦観じみた思いは、まさしく無縁であろう（とにかく読まれなければ、話にならない！）?!

だが、本当に、人々に真理を伝える、有用な（すぐに役立つ？）知識・情報・指針、さらには勇気や感銘を与えることは、真の研究者・執筆者にとっては、まさしく必須の仕事であり、それがまた使命でもあろう?!もし、それがない（なくなった？）ならば、甚だ見苦しくもある?!私の場合は、一応そうした思い・スタンスで、これまで本や論文（雑文も多々あったが?!）、そしてこのシリーズも書いてきたわけではある?!

しかし、そこに、仮にも（事実？）、あなたの理論や理想は正しい？かもしれないが、その実現は難しい（文章も含めて？）、あるいは、それらは、今の現実（仕事）には、ほとんど役に立たない？、そう言われれば、諦観や揶揄だけでは終われない?!それが、「教育」（人間の期待やそれを実現させる行為）に関わるものであれば、なおさらである?!

ということで、改めて今、私が一番脳裏に浮かぶことは、前号（59）で述べた、（教育）制度の「統一性と多様性」であろうか?!つまり、どこの国（社会）においても、「統一性と多様性のバランス」は大きな問題であり、実際には、そのどちらを指向していくのかということが、時々の大きな論争（ぶつかり合い？）を生む?!「生涯学習社会の実現」「ひとづくりとまちづくりの循環」「地域教育経営」「教育協働」等々、様々な概念・キーワードを持ち込んだとしても、その「統一性と多様性」の現実からは、決して逃れられないということでもある?!

さて、ここでの難題は、とにかく「価値（観）の多様性」をどう考えるかであろう?!これは、別言すれば、「人の生き方の多様性」でもあるが、大きくは、二つのベクトル（指向性）があるように思える?!

一つは、その時の状態（制度）の統一性が強く、それからの拘束や息苦しさに抗おうとする方向（否定や対抗的要素?!→「統一性への反発・告発?!」）で、もう一つは、多様な展開の中でのメリットや成果を指向する方向（競争や協奏的要素?!→「多様性への共感・信頼?!」）である?!なお、少なくとも今（現代社会）は、基本

的には、「統一性」が「悪」（改善していくべき対象・テーマ）であり、「多様性」が「善」（求めていくべき対象・テーマ）となっているように思われる?!

とは言え、よくよく考えてみると、価値（観）の多様性は、例えば生物ないしは生態系の多様性とは、かなり次元の違う話ではないかとも思われる?!つまり、生物ないしは生態系の多様性というのは、ある生物（人間も含む！）の生存の多様性であり、その生物が生存する環境条件の多様性である?!言い換えれば、ある生物は、どこへ行っても、あるいはどこで生きていても、その「ある生物」なのである！「別なある生物」になることはないのである?!

それが、「適応」ということであるが、問題は、その「適応」の内実や条件は、ほとんどがそこの生態系（外部）によって決定されているということである（例え取捨選択したものであっても！）?!

ところで、人間（社会）の生存条件は、もちろん、他の動植物と同じように、そこにおける自然条件、生態系によって大きく左右はされているものの、人間（社会）は、それに手を加えて（価値判断をして）、自らの利益（快・都合のいいもの）になるように変えることも出来るのである?!そこに、価値（観）の多様性というものも生まれ、そこから進化・発展？を遂げてきたのでもある?!しかし、一方では、その生存場所での行動や考え方のまとまりや一定のルールが必要ということにもなり、その成員の無秩序、勝手放題は許されなくなったのでもある！

そこに、「統一性」を保持・促進させるベクトルというか、何らかの社会的な力が働くことになるわけであるが（義務教育は、その一つ?!）、それがなかったり、弱かったりすれば、恐らくその国（社会）は、成り立たなくなるであろう?!人間の価値観、要するに、生き方に関わる場合、ある国（社会）においては、そこでのアイデンティティ（同一性）、あるいは共通の行動様式（教育プログラムも含む）を共有することになるわけであるが、そこに「極端な多様性」が持ち込まれたら、そのバランス、全体が崩れていくということにもなる?!だから、ある国（社会）は、そうならないような力、ベクトルに意を注ぐのでもある?!ただし、逆もまた、しかりである！

そのバランスを左右するもの（要因）が、例えば「経済（利害？）」であり、「宗教」、さらにはまた「性差」であろう?!この、最後の「性差」は、多少異質ではあるが、別な意味での、生物としての「本源的なもの」ではあろう?!いずれにしても、「同化と異化」あるいは「統合と分化」の中の、それぞれの自己の存在や事業・活動の意義の主張、まさに「多様性・価値（観）の多様性」の下、自分らしさやそこらしさは、どこまで実現され得るのか?!

教育（制度）は、常にその「統一性」と「多様性」の鬩（せめ）ぎ合いの中にあるのであり、そのことは、まさしく永遠の「宿命」なのでもある?!なお、好きか嫌いかで言えれば、これほど楽なことはない?!

（7月23日）